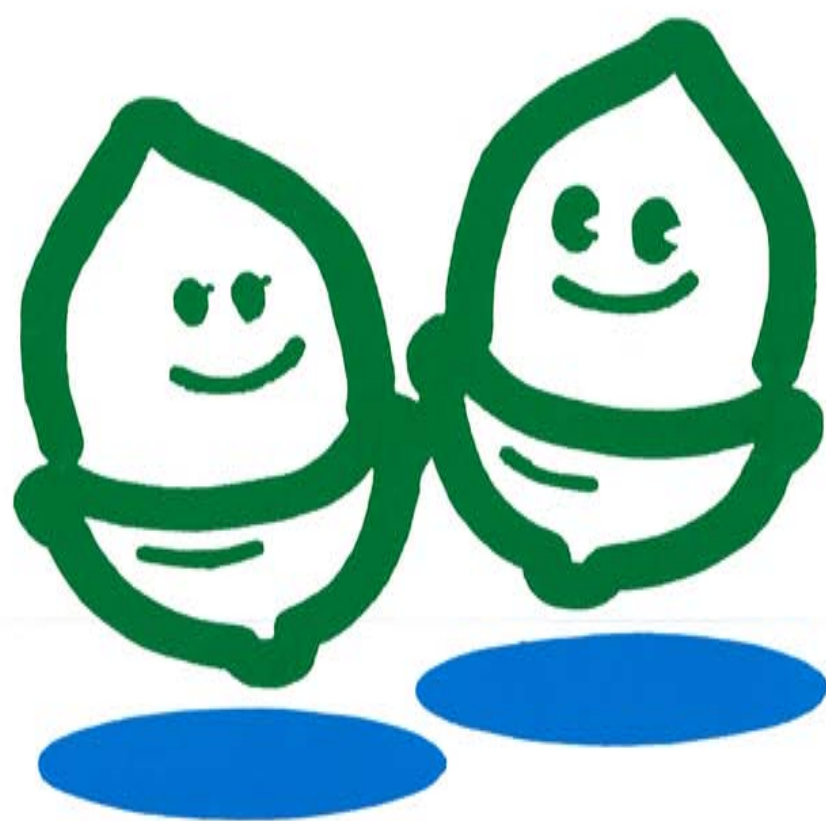


活動の手引き



兵庫県立
南但馬自然学校

HYŌGO KENRITU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKŌ

目 次

はじめに

○ 自然学校のねらい	1
○ 5泊6日のプログラム作成の視点	1
○ 5泊6日のプログラム作成の手順	2
○ 南但馬自然学校のプログラム体系	2
○ 「自然・人・地域」のふれあい活動内容	3

I 自然とのふれあい活動

A 自然に学ぶ

1 はさまの草木（植物観察）	5
2 生き物しらべ（昆虫観察）	6
3 スターウォッチング	7
4 水辺の生き物（水中微生物）	8
5 パードウォッチング	9
6 ミクロの世界	10
7 広さ・高さ・体積しらべ	11
8 太陽の動き（気象観測）	12
9 薬になる草	13
10 健康ドリンク（薬草茶）	14
11 写生（植物）	15
12 ほたるの観察	16
13 光に集まる虫	17
14 雨の中の生き物	18
15 創作星座	19
16 木はだしらべ	20
17 自然すごろくづくり	21

B 自然から創る

1 野鳥観察小屋づくり	23
2 丸太小屋づくり	24
3 焼き板	25
4 竹の食器づくり	26
5 竹とんぼづくり	27
6 名札づくり	28
7 竹笛・草笛づくり	29
8 杉・紙玉鉄砲づくり	30
9 葉脈しおり	31
10 葉っぱの押し絵	32
11 石の文鎮	33
12 松かさブローチ	34
13 モビール	35
14 はにわづくり	36
15 押し花づくり	37
16 小鳥の家づくり	38
17 はがきづくり（牛乳パック）	39
18 紙細工	40
19 星座早見缶づくり	41
20 看板・標識づくり	42
21 わら細工	43
22 凧づくり	44
23 班旗づくり	45
24 木の枝細工	46
25 ミニトーチ棒づくり	47
26 竹の水筒づくり	48
27 木のプランター	49

28	火おこし	50
29	野外炊飯	51
30	山菜料理（山菜採り）	52
31	おもしろごはん炊き	53
32	棒焼きパンづくり	54
33	もちつき	55
34	一人飯ごう	56
35	アルミホイルの包み焼き	57
36	牛乳パックのホットドック	58
37	熊笹茶づくり	59
38	うどんづくり	60
39	ロープあそび	61
40	つけもののづくり	62
C 自然に親しむ		
1	川遊び	63
2	ターザンごっこ	64
3	ナイトハイク	65
4	けもの道体験	66
5	魚のつかみどり	67
6	自然と友だち	68
7	ネイチャーゲーム	69
8	イニシアティブゲーム	70
9	どんぐりこま大会	71
10	夜とあそぼう	72
11	雲海登山	73
12	朝来山登山	74
13	竹田城ハイキング	75
14	一人テント	76
15	サイクリング	77
16	アドベンチャーハイキング	78
17	雪と友だち	79
D 自然を守る		
1	山の仕事	81
2	下草刈り	82
3	植樹	83
4	石けんづくり	84
5	アルミ缶ブローチ	85
6	水中生物と水質検査	86
7	雨水の酸性度しらべ	87
8	ゴミなし料理	88
II 人とのふれあい活動		
A 人に学ぶ		
1	軽スポーツ	89
2	オリエンテーション	90
3	自然学校発表会	91
4	家族への手紙	92
5	作品鑑賞会	93
6	自然学校の絵本・絵巻物づくり	94
7	テント設営	95
8	テント撤収	96
9	施設職員との交流会	97
10	レクリエーション（フォークダンス・レクリエーションダンス）	98
11	自然学校新聞づくり	99
B 共に生きる		
1	学級パーティー	101

2	自然学校ファイヤー	102
3	キャンドルサービス	103
4	清掃活動	104
5	スタンツ練習	105
6	洗濯実習	106
7	入校式・退校式	107
8	歌の練習	108
9	お年寄りへの便り	109
10	みんな友だち（障害児との交流）	110
11	グループ自主活動	111
III 地域とのふれあい活動		
A 地域に学ぶ		
1	農業体験	113
2	但馬の言葉（方言学習）	114
3	地域の昔の話	115
4	但馬の民話	116
5	古墳オリエンテーリング	117
6	民家を訪ねて	118
7	史跡めぐりサイクリング	119
8	竹田城跡早朝ハイキング	120
9	竹田城跡探偵団	121
10	竹田城跡ナイトハイク	122
11	農業学習（県立北部農業技術センター）	123
12	牛の見学	124
13	名人入門	125
14	ふるさと料理	126
B 地域に親しむ		
1	ゲートボール交流	127
2	ウォークラリー	128
3	昔の遊び	129
4	地元の学校との交流	130
5	交流映画会	131
6	買い物（食事材料の買い出し）	132
7	いろいろカルタ	133
C 地域に奉仕する		
1	缶トリー遠足	135
2	草刈り	136
3	福祉体験活動（恵生園、真生園、平生園）	137
4	招待交流会（地域の人）	138
5	登山道づくり	139
* 参考資料		
	・ 南但馬自然学校敷地内地図	140
	・ 山東町内地図	141
	・ 和田山町内地図	142
	・ 但馬地域地図	143
	・ 南但馬自然学校からの所要時間（バス利用）	144

○ 自然学校のねらい

自然学校は、学習の場を教室から豊かな自然の中へ移し、子どもたちが人とのふれあいや自然とのふれあい、地域社会への理解を深めるなど、さまざまな活動を年間指導計画に位置づけ実施することにより、心身ともに調和のとれた健全な子どもたちの育成を目的としています。

教室ではできない、豊かな自然の中でしかできない、教科という狭い枠を越えた総合的な学習が期待されています。

1 自然とのふれあいや地域社会への理解を通じて、学校では得がたい体験学習をする

- ・ 学校や日常生活ではできないような学習を展開し、その後の学校での学習に生かす。
- ・ 五体と五感を使ってさまざまな体験活動を行い、体験の幅を広げる。
- ・ 自然環境によくふれあうことによって、自然に対する興味や関心を育て、学習意欲を高める。

2 集団宿泊生活を通じて、人間的なふれあいを強め、お互いの信頼関係を深める

- ・ 家庭を離れた生活を通して、自立心や自主性等を養う。
- ・ 生活全体にわたる共同生活を通じて、他を思いやるやさしさや協力する心、友だち同士の連帯感を養う。
- ・ 仕事の分担を通して自分の役割と責任の大切さを学ぶ。

3 自然の中での活発な活動を通じて、健康増進を図る

- ・ 自然の中で活発に活動することによって、身体の諸機能を発達させ体力を養う。
- ・ 健康や安全確保に心がける注意力や関心を育てる。
- ・ 規則正しい生活を通じて、健やかな体と豊かな心を育てる。

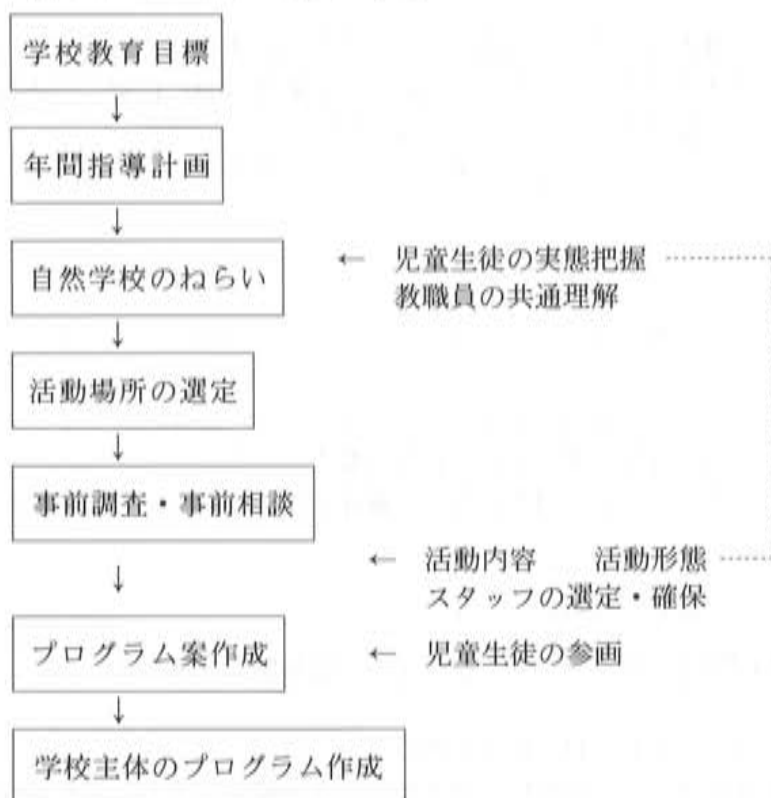
これらのねらいは、各学校の教育目標や実状と関連づけて具体化され、年間指導計画に位置づけて実施することが必要です。

また、これらのねらいを実現させるためには、これまでの野外活動にとどまらず、自然、人、地域そのものを教材とした具体的で総合的な学習を進めることが望まれる。

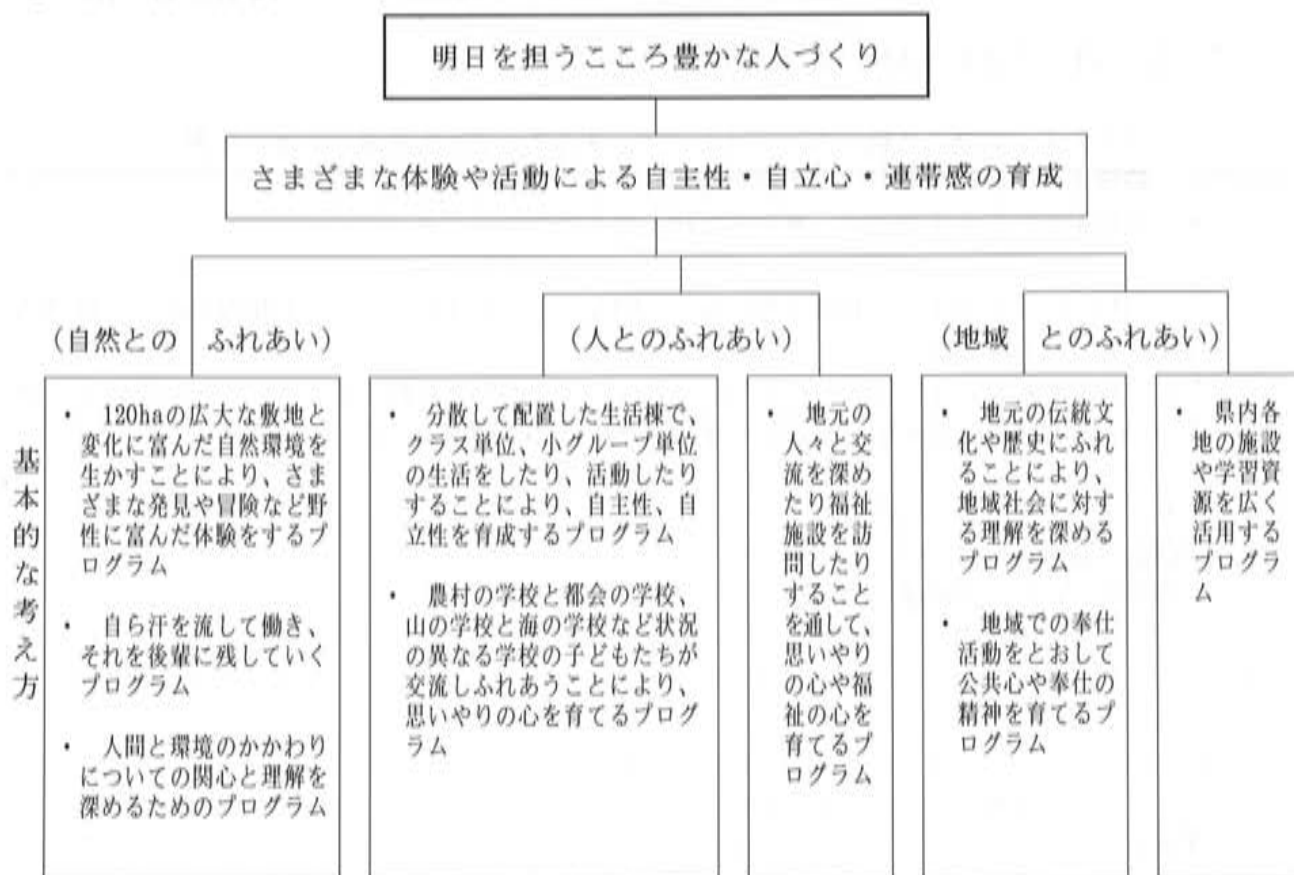
○ 5泊6日のプログラム作成の視点

- 1 年間指導計画に位置づけているか
- 2 自然学校のねらいは明確であるか
- 3 子どもにとって本当にゆとりのあるプログラムになっているか
- 4 子どもたちの実態に即したプログラムになっているか
- 5 一人一人が生かされるようなプログラムになっているか
- 6 新しい学力観に立ったプログラムになっているか
- 7 プログラムが事後の学校生活等に生かされる内容になっているか
- 8 健康安全に配慮したプログラムになっているか

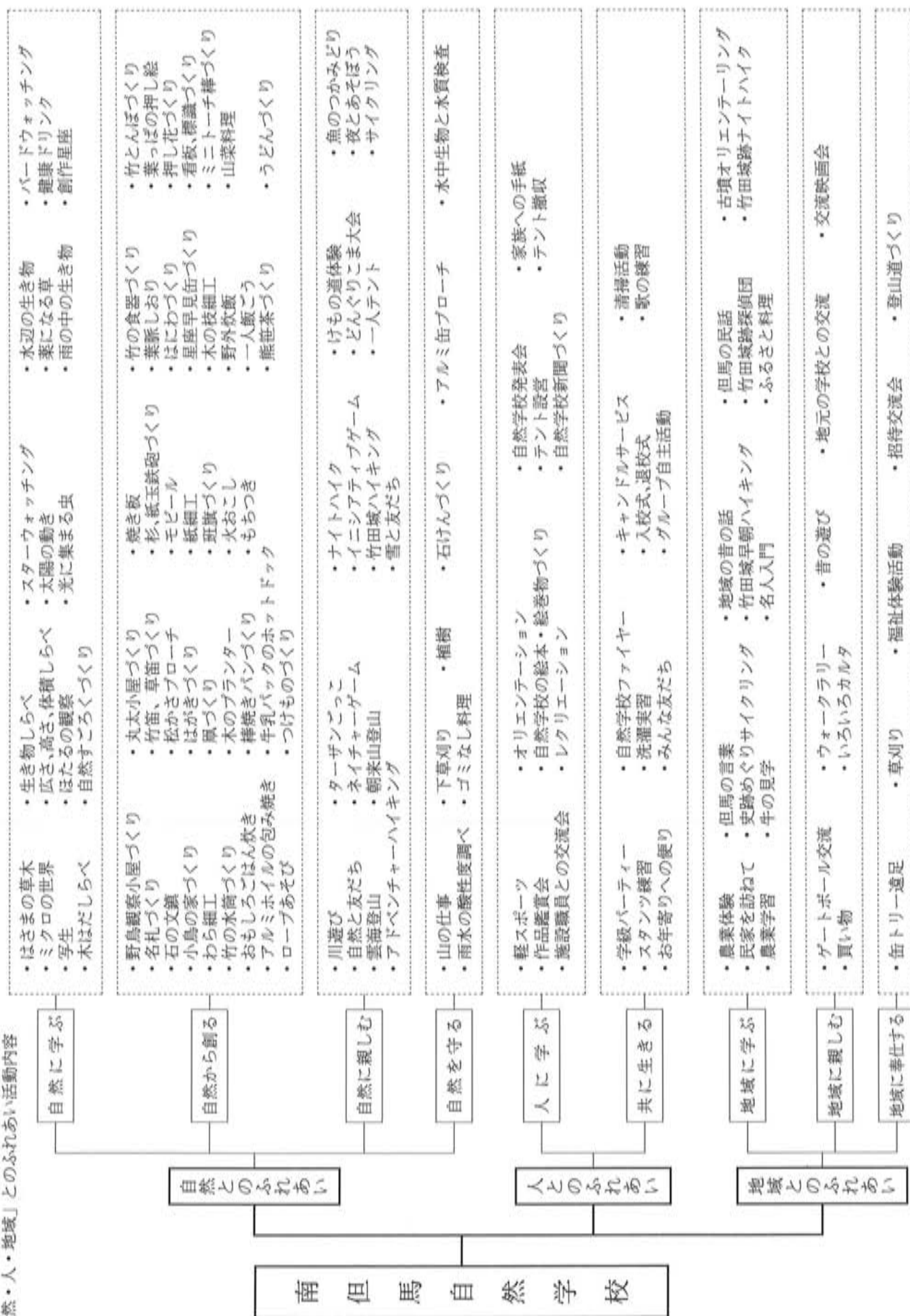
○ 5泊6日のプログラム作成の手順



○ 南但馬自然学校プログラム体系

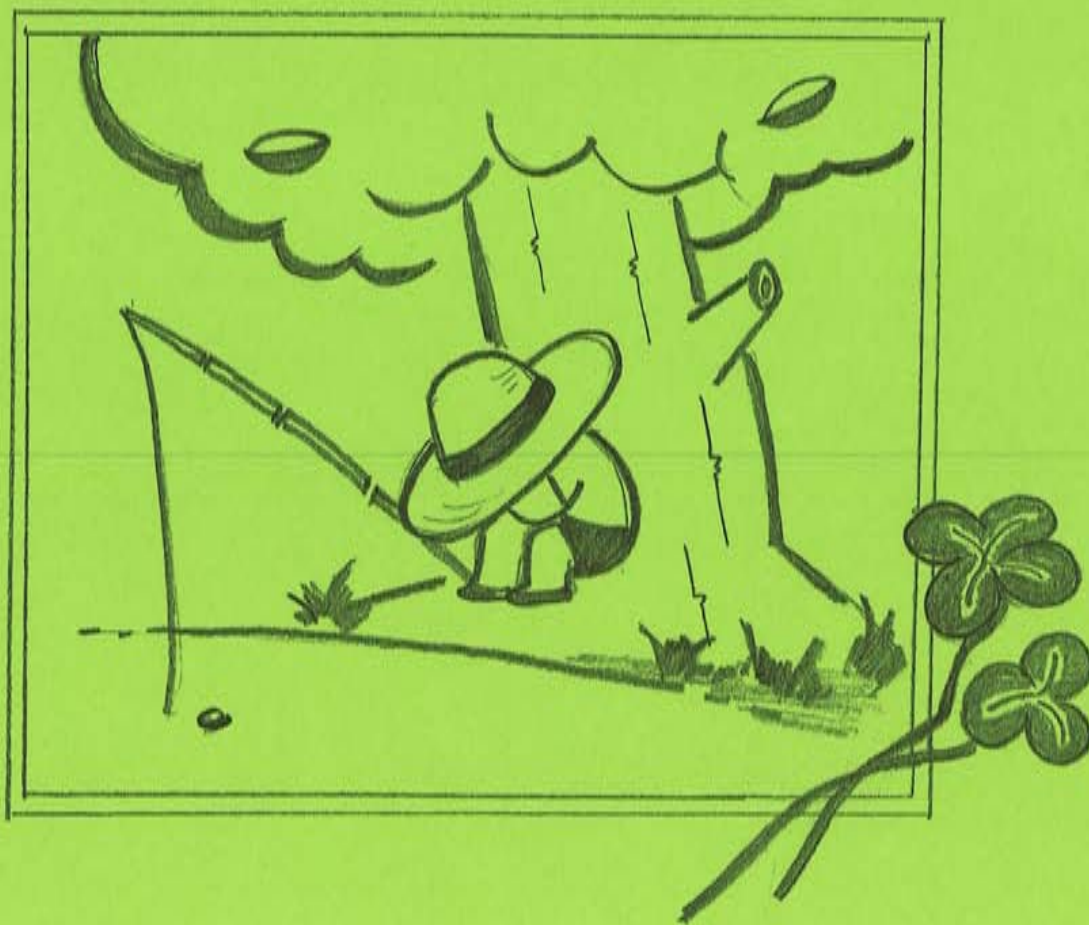


○「自然・人・地域」とのふれあい活動内容



I 自然とのふれあい活動

A 自然に学ぶ



I 自然とのふれあい

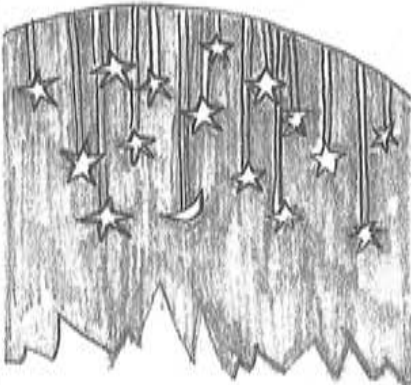
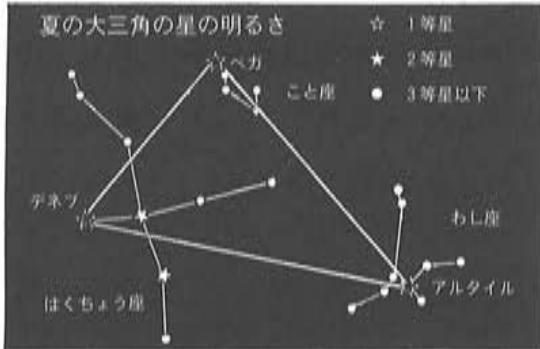
A 自然に学ぶ

1	はさまの草木（植物観察）				
ね ら い	- 植物を自然のまま置いて、観察する方法を身につける。 - 野草や樹木は環境によって種類や成長がことなることに気づく。 - 植物の特徴を知り、自然を愛する心情を育てる。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半日～1日	活 動	自然観察館 自然観察路		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
植物図鑑 樹木図鑑 ルーペ 照度計 バインダー 温度計 トランシーバー 地図 長靴 はさまの植物資料 救急バッグ				施設へ注文	学校（個人）持参
					筆記用具 時計
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 観察についての諸注意や観察方法について説明を聞く。				- 安全指導を徹底する。 - 植物は原則として、「折らない」「採らない」指導をする。	
2 グループで観察コースや課題を話し合う。				- 環境の異なる場所をコースに入れさせる。 - 野草と樹木に分け、グループで選択させることも良い。	
3 グループで観察をする。				- つくり、匂い、色等特徴をつかませ、スケッチをさせる。 - 学術名のほか、自分たちで名前をつけさせると興味をもって取り組む。 - どうしても採集したい場合は、根を残して採集させる。 * かぶれる植物 ヤマウルシ ッタウルシ ハゼ * とげのある植物 ノイバラ サルトリイバラ タラノキ * 毒のある植物 キツネノボタン タケニグサ	
4 観察記録をまとめる。				時間があれば発表させる。	
安全指導のポイント		- 長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 - ハチやマムシなどについての指導をする。 - かぶれる草木（ウルシ、ハゼ等）を指導する。			

2	生き物しらべ（昆虫観察）					
ね ら い	・ 自然の中のいろいろな生き物を観察し、活動の様子や環境との関わりに気づく。 ・ 自然の中の生き物を観察することによって、自然を愛する心情や態度を育てる。					
	時 期	通 年	人 数			制限なし
	時 間	半日～1日	活 動			自然観察館 自然観察路
時 間 帯	日 中	場 所				
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの			
ルーペ 昆虫採集網 虫かご バインダー 昆虫図鑑 長靴 トランシーバー 救急バッグ			施設へ注文		学校（個人）持参	
					筆記用具 時計	
活 動 内 容			留 意 事 項			
1 観察についての諸注意や観察方法について説明を聞く。			・ 安全指導を徹底する。 ・ 生き物の命を大切にする指導をする。			
2 グループで観察コースや課題を話し合い、決定する。			・ 環境の異なる場所をコースにいれさせる。 ・ 落ち葉の下や土の中にも目を向けさせる。			
3 グループで虫を採集し、観察する。			・ じっくり観察させる。 ・ 見つけた場所、昆虫の様子等を記録させる。 ・ 採集する場合は、殺さないようにさせる。 ・ 蛾の観察の場合は、毒蛾に注意させる。			
採集方法のいろいろ ・ スワイピング法 ・ ビート法 ・ 糖蜜トラップ法 ・ トラップ法 ・ ナイター法 ・ その他			＊ 甲虫の例 カブトムシ、クワガタムシ、コガネムシ、タマムシ、オサムシなど			
4 観察記録をまとめる。			・ 観察したあとは、元の場所に返すよう指導する。			
安全指導のポイント		・ 長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 ・ ハチやマムシなどについて指導する。 ・ かぶれる草木（ウルシ、ハゼ等）を指導する。				

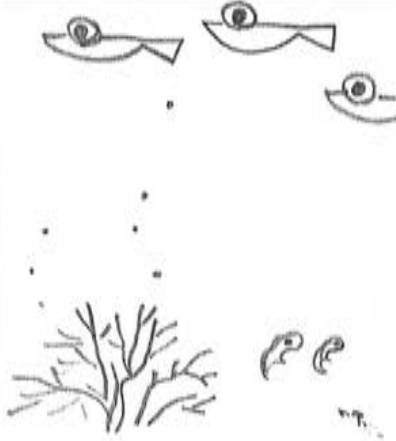
I 自然とのふれあい

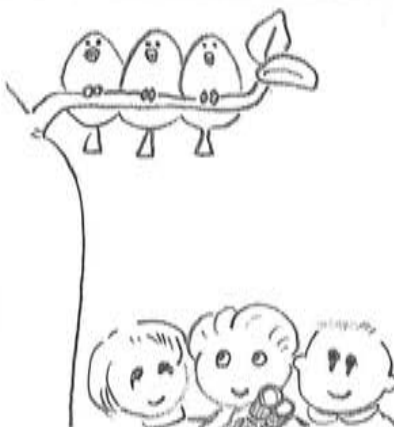
A 自然に学ぶ

3 ね ら い	スターウォッチング			
- 星の明るさ、色、位置を観察し、星の特徴や動きを知る。 - 星や月と人々との生活の結びつきに気づく。 - 夜空の美しさを知る。				
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1～2時間	活 動	芝生広場 森のスポーツ 広場	
時 間 帯	夜・夜明け前	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
天体望遠鏡 強力ライト 双眼鏡 星座盤 (雨天時) ビデオ テレビ ビデオ教材 簡易プラネタリウム OHP 星に関する本			施設へ注文	学校(個人)持参
			筆記用具 ビニルシート 懐中電燈	
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 天体望遠鏡を準備する。			・ 正しい取り扱い方を指導する。	
2 星や星空の話聞く。			・ 神話等も入れて、興味を引く話を聞かせる。 ・ 秋や冬は暖かい服装で外に出させる。	
3 星座や流れ星を見つける。			* よく見られる主な流星群 4月30日～5月10日 明け方しか観測できない。 7月中旬～8月中旬 地味だが確実に出現する。 7月下旬～8月20日 速く、明るく、よく痕を残す。 10月15日～25日 速く、明るく、よく痕を残しやすい。 10月7日～11月30日 ゆっくりで明るいが出現数は少ない。 12月10日～16日 確実に出現し、一晩中見られる。	
				
4 天体望遠鏡で観察する。			・ 指導者はなるべく多くする。 ・ 正しい望遠鏡の扱い方をさせる。 ・ 荒天になった場合の準備をしておく。	
5 感想を話し合う。				
安全指導のポイント		- 気温や虫さされを考慮して、長袖、長ズボンを着用させる。 - 天候によって、服装や観察時間を考慮する。		

I 自然とのふれあい

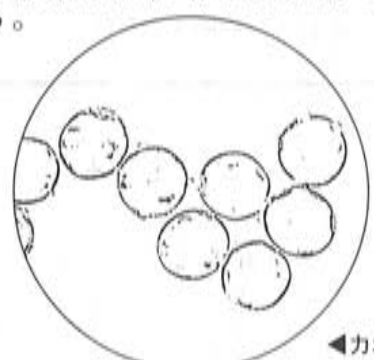
A 自然に学ぶ

4	水辺の生き物（水中微生物）					
ね ら い	・ 水中の生き物を知り、その生態と環境について関心を高める。 ・ 生き物の生態を知り、自然環境を守ろうとする心や態度を育てる。					
	時 期	春 夏 秋	人 数			制限なし
	時 間	半 日	活 動			自然観察館 円山川など
時間帯	日 中	場 所				
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの		
解剖顕微鏡 顕微鏡 ピンセット ルーペ スポイド 採集用バケツ ペトリ皿 図鑑 水槽 長靴 プランクトンネット スライドガラス 救急バッグ				施設へ注文	学校（個人）持参	
					筆記用具 スケッチブック （画用紙）	
活 動 内 容				留 意 事 項		
1 採集方法の説明を聞く。				・ 採集時の安全指導を徹底する。		
2 グループで水中の生物を採集する。				・ 観察に必要な量だけ採集させる。 ・ 藻なども採集させる。		
3 顕微鏡を準備する。				・ 顕微鏡の使い方を指導する。		
4 グループで観察する。				・ プランクトン等は顕微鏡を使って観察させる。 ・ 時間を十分取り、じっくり観察させる。 ・ スケッチ等もさせる。		
 ゾウリムシ(約150倍)				 ミカヅキモ(約300倍)		
5 その辺り全体の環境を観察し、調査した結果を話し合う。				・ 生活排水やごみが川に入っていることに気づかせる。		
安全指導のポイント		・ 川の中には、長靴などをはいて入らせる。 ・ 川底は滑りやすいので走らせない。 ・ 体調の悪い児童は、長時間水の中に入らせない。				

5	バードウォッチング				
ね ら い	・ 鳥の鳴き声や飛び方、大きさ、色等を観察し、 野鳥とのふれあいを深める。 ・ 環境と鳥の生態との関連を調べ、動物愛護の 精神を育てる。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	2 ～ 3 時間	活 動	敷地内		
時 間 帯	早朝 日中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
双眼鏡 スポットティングスコープ 鳥類図鑑 録音カセット カメラ 三脚 救急バッグ				施設へ注文	学校（個人）持参
					筆記用具 カセットテープ フィルム
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 野鳥観察の方法についての説明 を聞く。 2 グループで決めた観察場所で、 鳥の鳴き声を聞き、録音する。 3 双眼鏡やスポットティングスコー プを使って観察する。 鳴き声の例 ツーピー ツーピー → シジュウカラ ケーン ケーン → キジ ピー → コゲラ キコキ キー → イカル ホーホ ケキョ → ウグイス				・ 野山の色に近い色の服を着たり、静 かに行動するなど、小鳥をびっくりさ せないよう気をつけさせる。 ・ 前もって、観察場所や観察ルートを 決めさせる。 ・ 大きさ、色、飛び方等特徴を記録さ せる。 * 春～夏（夏鳥、留鳥、漂鳥） キジ キジバト カッコウ ツバメ ツツドリ ホトトギス アオゲラ コゲラ セキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ヤブサメ エナガ ウグイス オオルリ シジュウカラ サンコウチョウ メジロ ホオジロ ヤマガラ イカル ハシボソガラ スズメ カケス カワラヒワ トビ * 秋～冬（冬鳥、留鳥、漂鳥） ハイタカ コジュケイ ヒヨドリ キジ キジバト セグロセキレイ ホオジロ モズ ジョウビタキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ ミヤマホオジロ カケス トビ ハシボソガラ	
4 グループごとに図鑑等をもとに 種類や生態について調べ、確かめ やまとめをする。				・ 施設周辺の野鳥のスライド、写真等 を参考にさせる。 （巣箱づくりや餌台づくり、観察小屋づ くり発展してもよい。）	
安全指導の ポイント		・ 長袖、長ズボンを着用させる。 ・ 季節や観察時間によっては、暖かい服装をさせる。			

I 自然とのふれあい

A 自然に学ぶ

6	ミクロの世界				
ね	・ 植物を詳しく観察することにより、植物が生命を維持し育つためのしくみを理解し、生命保存や拡大のための自然界の神秘に気づく。				
ら					
い					
時 期	春 夏 秋	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	自然観察館敷地内		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの		
顕微鏡 ピンセット ルーペ 採集箱 カッターナイフ かみそり スライドガラス 三角フラスコ プレパラートセット スポイド 植物図鑑 救急バッグ			施設へ注文		学校（個人）持参
					筆記用具 スケッチブック （画用紙）
活 動 内 容			留 意 事 項		
1 採集について説明を聞く。			- 採集は、最小限とさせる。 - ムラサキツユクサ等気孔のよく見える植物を指導者が用意しておき、状況に応じて観察させる。 - 顕微鏡の正しい使い方をさせる。 - 観察の仕方を前もってプリント等に印刷しておき、参考にさせる。 - 観察する植物名を調べさせる。 - 花のつくりや胞子等も観察させる。 - スケッチをさせる。 * スケッチのポイント スケッチをするときには、見えるものの全部をかくのではなく、目的とするものだけを正確に描く。 先の細い鉛筆を使って、線をはっきりと描く。 - 顕微鏡をきちんとかたづけさせる。 - スケッチの展覧会に発展させてもよい。		
2 観察する花、葉、茎などを採集する。					
3 採集した植物を顕微鏡で観察する。					
					
◀カボチャの花粉 （約100倍）					
4 プレパラートを通して、いろいろな植物の花粉や気孔等を観察する。					
5 観察したことをまとめる。					
安全指導のポイント		- かぶれる草木（ウルシ、ハゼ等）を指導する。 - カッターナイフやかみそりの安全な使い方を指導する。			

7	広さ・高さ・体積しらべ				
ね ら い	・ 広さや高さ、円周や体積を調べることにより、広さ、高さ、体積の感覚を育てるとともに測定技術を習得する。 ・ 巨木等を調べることによって、木が育った過程を想像し、自然愛護の精神を育てる。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	敷地内		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
巻尺（100、50m） 大型分度器 ロープ（100m） バインダー 体重計 太陽位置測定器				施設へ注文	学校（個人）持参
					筆記用具
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 グループで測定する場所や物を決定する。 ・ 石の体積 ・ 木の高さ ・ 広場の面積等				・ 敷地内の測定物案内図を提供し、参考にさせる。 ・ 安全指導を徹底する。	
2 測定方法を相談する。				・ 各グループの測定方法をチェックし安全な方法で測定させる。	
3 グループで測定する。				・ 工夫して測定させ、できない場合はヒントを与える。	
4 記録をまとめて話し合う。				・ いろいろな方法について、感想を話し合わせる。 ・ 解答を用意しておく。 ・ 生活の中で簡単に測れる方法を知らせる。	
安全指導のポイント		・ 高いところに登ったりするときに、怪我をしないように安全指導を徹底する。			

I 自然とのふれあい

A 自然に学ぶ

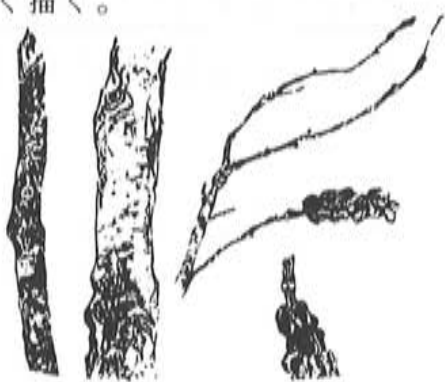
8	太陽の動き（気象観測）			
ね ら い	・ 太陽の動きと気温の変化を調べ、太陽と気温の関係に気づく。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 日	活 動	芝生広場 森のスポーツ 広場	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
太陽位置測定器 方位磁針 温度計 遮光板 バインダー 画板			施設へ注文	学校（個人）持参
			竹串 粘土	筆記用具
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 測定方法について説明を聞く。			・ 測定方法と課題をはっきりさせる。 ・ 太陽位置測定器の使い方を指導する。 ・ 太陽位置測定器以外の方法でも測ることができることを知らせる。	
2 グループで測定場所や分担を話し合う。			・ 全員が観察できるようにさせる。	
3 決められた時刻ごとに測定し、記録をとる。			・ 測定時刻を全員に知らせる。 ・ 記録をしっかりとらせる。	
4 グループで結果をまとめる。			* 前日に太陽の影を1時間ごとにつけておき、それを時計として利用してみてもおもしろい。	
安全指導のポイント		・ 太陽を見る場合は遮光板を使わせる。		

9	薬になる草			
ね	・ 植物の中には、薬になるものがあることを知り、人間と植物との関係を理解する。			
ら				
い				
時 期	春 夏 秋	人 数	制限なし	
時 間	2 時間～半日	活 動	施設周辺	
時 間 帯	日 中	場 所	敷地内	
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
薬草図鑑 採集用具 ルーペ 長靴 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
				筆記用具 軍手 スケッチブック
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 薬草についての話を聞く。			・ サンプルを示して理解させる。	
2 薬草発見大会をする。			・ 採集はサンプルだけにし、根は残させる。 ・ グループで図鑑や資料を参考にして薬草を探させる。 ・ 必ず植物を点検する。	
薬になる木や薬の例 ・ 虫さされ ウワバミソウ ・ 切り傷 オトギリソウ ・ おでき ミゾソバ ・ うるしかぶれ アケビ オオバコ ・ 神経痛 ワラビ ヤブコウジ ・ 止血 サルトリイバラ ・ やけど クリ ・ 健康増進 コシアブラ クズ ・ 胃腸病 ヤマノイモ アキグミ ・ 高血圧 トキワイカリソウ ・ かぜ ホオノキ サンショウ ・ 頭痛 ヨモギ ゲンノシウコ ・ 事前 オオヨモギ ホウレン ・ 乾燥 クロバナノヒキオコシ ・ 持ち帰り ヤマグワ トチノキ ・ 学校 ドクダミ ゲンノシウコ ・ 飲む マタタビ オオヨモギ ・ のもよい ヨモギ ・ のもよい アキノキリンソウ ・ のもよい フキ オオバコ ・ のもよい ウド アキノキリンソウ				
3 薬草の匂い、味など確かめてまとめる。			・ 事前にドクダミ茶などを用意しておき、飲ませる。 （ドクダミ、スギナ等たくさんあるものについては、乾燥させて持ち帰り、学校で飲むのもよい。）	
安全指導のポイント		・ 長袖、長ズボンを着用させる。 ・ 湿地や川に入る場合は、長靴を使用させる。 ・ 毒のあるものを事前に指導する。 ・ 味を確かめる前に、採集してきた植物を必ずチェックする。		

I 自然とのふれあい

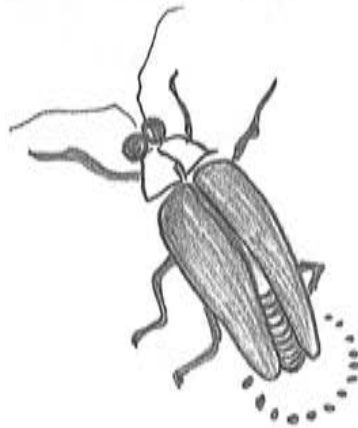
A 自然に学ぶ

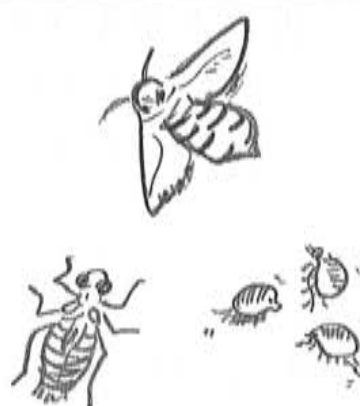
10	健康ドリンク（薬草茶）			
ね ら い	- 植物の中には、薬になるものがあることを知り、人間と植物との関係を理解する。 - 植物の利用法を知る。			
時 期	春 夏 秋	人 数	制限なし	
時 間	2 時間～半日	活 動	施設周辺 自然観察路	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
薬草図鑑 採集道具 やかん ガスコンロ 茶こし 長靴 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
			まき ガスボンベ	軍手 新聞紙 紙袋（ビニル袋）
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 薬草採集についての注意を聞く。			• 安全指導を徹底する。	
2 知っている薬草を紹介しあう。			• サンプルを用意し、参考にさせる。	
3 薬草を採集する。			• 安全なものを採集させる。	
			• 必要な量だけ採るようにさせる。	
			• 根ごと抜かないで、葉を摘むようにさせる。	
			• 畑や田の畦を荒らさないようにさせる。あらかじめ許可を得ておく。	
				
				
				
				
				
4 採ってきた薬草を洗って干す。			• よく洗って、葉が重ならないように新聞紙に広げ、日陰で干し、カラカラになるまで乾燥させる。	
			• ビニル袋に入れたままにしておくと効力がなくなるので、すぐ乾燥させる。	
5 以前から干してあるのを煎じて飲む。			* 煎じ方 やかんの中に水を入れ、中火で煮る。沸騰したら弱火にして、量が半分になるまで煮詰める。茶こしでこして飲む。	
安全指導のポイント		- 長袖、長ズボンを着用させる。湿地や川に入る時は、長靴をはかせる。 - 毒のあるものを事前に指導する。 - 採集してきた植物を必ずチェックする。		

11	写 生 （植物）			
ね ら い	・ 植物の特徴を自分の表現方法で表し、植物をくわしく観察する力を育てるとともに、自然を大切にすることを育てる。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	2 時間～半日	活 動	敷地内 工作室	
時 間 帯	日 中	場 所	自然観察館	
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
画板 植物図鑑 カッターナイフ カッティングマット			施設へ注文	学校（個人）持参
				筆記用具 絵の具 ビニルシート スケッチブック
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 描きたい植物を決める。			・ 敷地が広いので、範囲を指定する。	
2 描く植物をよく観察する。			・ 雨の場合は、描きたい植物を採集させ、室内等で描かせる。	
3 その植物の特徴に留意して、細かく描く。			・ 細かいところまでじっくり観察させる。	
			・ 上手に描かせるのではなく、丁寧に細かく描かせる。	
4 台紙に貼る。			・ 植物図鑑で名前を調べさせる。	
5 作品観賞会をする。				
安全指導のポイント		・ 虫刺され等を予防する服装にさせる。 ・ かぶれる草木（ウルシ、ハゼ等）に注意させる。		

I 自然とのふれあい

A 自然に学ぶ

12	ほたるの観察				
ね ら い	・ ほたるの生態や飛び交う美しさを観察する。 ・ ほたるを見た感動を詩等に表現する。 ・ ほたるを通して、環境保護（水の汚れ）について関心を深める。				
時 期	6 月～ 8 月	人 数	制限なし		
時 間	1 時間～ 2 時間	活 動	施設周辺の川		
時 間 帯	夕方～夜	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
捕虫網 虫かご 長靴 救急バッグ				施設へ注文	学校（個人）持参
					筆記用具 ノート 懐中電燈
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 ほたるについて話をきく。				・ 専門家の話を参考にさせる。 （養父町の奥米地では、ほたるを守るため、地区をあげて環境保護活動を行っている。）	
2 ほたるの飛び交う様子を観察する。				・ ほたるをむやみに捕らないようにさせる。捕獲したものは、観察が済んだら自然に返させる。 ・ 懐中電燈は、必要なとき以外はつけさせない。 ・ 草むらの中の、光るものに手を出させない。	
3 昔はどこの川にでもいたのに、今では限られた場所でしか生息できない理由について考える。				・ 水の環境を良くするために、一人一人ができることを考えさせる。	
4 ほたるの飛び交う様子やそれを見て感じた感動を詩に表す。				・ 作品は学校に帰ってから詩集などにまとめさせる。	
安全指導のポイント		・ 夜道を歩くので、長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 ・ 蚊など虫刺されの予防をさせる。			

13	光に集まる虫				
ね	・ 虫の種類や習性について調べる。 ・ たくさんの虫が生きていける環境の大切さに気づき、自然環境についての関心を高める。				
ら					
い					
時 期	春 夏 秋	人 数	制限なし		
時 間	1 時間～2 時間	活 動	森のスポーツ		
時 間 帯	夕方～夜	場 所	広場 敷地内		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの		
昆虫図鑑 ルーペ 捕虫網 夜間昆虫採集用具 救急バッグ			施設へ注文		学校（個人）持参
					筆記用具 軍手 懐中電燈
活 動 内 容			留 意 事 項		
1 夜の昆虫について話を聞く。			・ 毒蛾に注意させる。		
2 誘蛾灯をつけ、虫の集まる様子を観察する。			・ 毒針毛が刺さったら、決してこすらない。すぐに流水で洗い落とすか、セロハンテープを軽く当てて取る。		
3 集まった虫を採集し、図鑑で調べる。			・ 昼間森林や施設周辺を散策すると、たくさんの蛾を見ることができる。きれいな蛾や保護色をした蛾を昼間に観察させるとよい。		
* 主な蛾 マツカレハ スカシカギバ オビカギバ セスジナミシャク コカクモンハマキ キンモンガ マドガ ウスグロスジツトガ ヤマトエダシャク ウスオエダシャク フタヤマエダシャク エグリツマエダシャク タケカレハ ツマジロシャチホコ オオエグリシャチホコ ナシケンモン ホシボシャガ ハナオイアツバ スジベニコケガ オオミズアオ モモスズメ			・ 蛾と蝶の違いを考えさせる。		
4 感想を話し合う。			* 毒のある虫の種類 イラガ、カ、アブ、ブヨ ハチ、モンシロドクガ、チャドクガ キドクガ、カレハガ、ツツガムシ ダニ、ムカデ、ヤマビル		
安全指導のポイント			・ 毒蛾に注意させる。 ・ 蚊など虫刺されの予防をさせる。 ・ 草むらや危険な場所に行かせない。 ・ 長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。		

I 自然とのふれあい

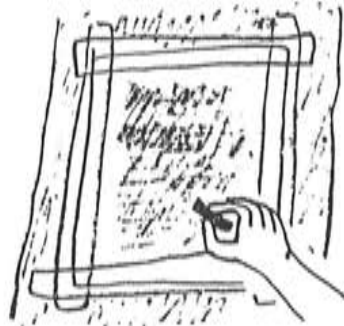
A 自然に学ぶ

14	雨の中の生き物				
ね ら い	・ 降雨時、降雨後に活発に活動する生き物を観察する。 ・ 生き物を観察することによって、自然への興味関心を高める。				
時 期	春 夏 秋	人 数	制限なし		
時 間	2 時間～半日	活 動	敷地内		
時 間 帯	日 中	場 所	自然観察館		
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
ルーペ 生物図鑑 バインダー 採集箱 長靴 傘 救急バッグ				施設へ注文	学校（個人）持参
					筆記用具 雨具
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 グループで観察コースや観察場所を話し合って決定する。				・ 観察路や山道が滑りやすくなるので安全指導を徹底する。	
2 決定した場所やコースに従って生き物を探し、観察する。				・ 生き物はむやみに捕らない、殺さない指導を徹底する。持ち帰って観察した後、弱らないうちに自然に返させる。	
  雨にぬれたくもの巣				・ 雨を避けてじっとしている生き物も見つけさせる。	
3 観察したことをまとめ、発表する。					
安全指導のポイント		・ 道がすべりやすくなっているので、注意させる。 ・ ぬれるので、体調の悪い児童は無理をさせない。 ・ ぬれて冷えた場合は入浴をさせる。事前に施設と相談する。			

15	創作星座			
ね ら い	- 星の明るさや色、位置などを観察し、星の特徴を知る。 - 自分の星座をつくることにより、星に対する興味関心を高める。 - 夜空の美しさに気づく。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 時間～2 時間	活 動	芝生広場 自然観察館	
時 間 帯	夕方～夜	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
強力ライト 星座盤 バインダー			施設へ注文	学校（個人）持参
				筆記用具 懐中電燈
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 神話を聞き、主な星座について知る。 2 明るく光る星を自由に結んで、自分の好きな大きさや形の星座を考える。 3 自分の考えた星座をもとにして楽しい話を考える。 創作例  おでん座 4 グループまたはみんなで発表会をする。			- 主な星座の名前やギリシャ神話などを話し、興味づけを行う。 - 昔の人の想像力の豊かさを感じとらせる。 - 静かにじっくり星をみつめさせる。 - 自分の考えた星座を記録用紙に描かせる。 <	

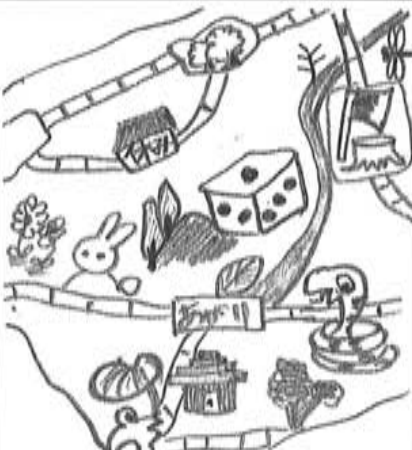
I 自然とのふれあい

A 自然に学ぶ

16	木はだしらべ			
ね ら い	- 木の種類や成長段階によって、木はだにも違いがあることに気づき、木に対する親しみや成長への関心を持つ。 - 自然環境について関心を高める。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半日～1日	活 動	自然観察路敷地内	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
樹木図鑑 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
				油粘土 中質紙 コンテ（黒） 鉛筆
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 木はだしらべの方法の説明を聞く。 2 グループごとに木はだの型どりやこすり出しをする。 3 型どりやこすり出しをした木の名前を調べる。 4 木はだの型やこすり出しを他のグループと交換し、もとの木を見つけるゲームをする。 5 木の特徴について気づいたことを発表する。			- かぶれる木の指導をする。 - 型のとりかたやこすりだしの方法を指導する。 - 同じ種類の木でも、成長の違うものを調べさせる。 - 五感を使って観察させる。 * 型のとり方 	
安全指導のポイント		かぶれる草木（ウルシ、ハゼ等）を指導する。		

I 自然とのふれあい

A 自然に学ぶ

17	自然すごろくづくり				
ね ら い	・ 敷地内の植物、鳥、虫、地形等を観察し、すごろくづくりの活動を通じて、身近な環境に対する認識を深める。 ・ ゲームを楽しみ、友だちとのふれあいを深める。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	1 日	活 動	自然観察路 ふれあいスペース		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
自然観察路地図 樹木図鑑 植物図鑑 生物図鑑 画板 長靴 救急バッグ				施設へ注文	学校（個人）持参
					筆記用具 絵の具 さいころ 画用紙 模造紙 色鉛筆 マジック
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 すごろくの作り方の説明を聞く。				・ 安全指導を徹底する。 ・ 自然観察をしたものを十分生かしたすごろくにさせる。	
2 グループでコースを観察し記録する。				・ いろいろなものを細かく観察させる。	
3 グループで協力して、すごろくを作る。 （例） ・ ここにはムカデがいるから1回休みにしよう。 ・ この坂はきついから、2つ進めにしよう。				・ 近道や休み等をうまく組み合わせ、楽しいすごろくにさせる。 ・ グループの人数によって、紙の大きさを考えさせる。	
4 グループですごろくをして楽しむ。					
5 すごろくを交換して、ゲームを楽しむ。				・ 他のグループの観察のよさや工夫のよさを見つけさせる。	
6 学校に持ち帰り、低学年にもゲームを楽しんでもらう。					
安全指導のポイント		・ かぶれや虫刺され防止の指導をする。 ・ 雨降りの時や雨降りの後は、長靴をはかせる。			

B 自然から創る



I 自然とのふれあい

B 自然から創る

1	野鳥観察小屋づくり				
ね ら い	・ 協力して物をつくる楽しさや喜びを味わう。 ・ 野鳥観察小屋づくりを通して、野鳥観察への興味関心を高める。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	敷地内		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
テント のこぎり 野鳥観察に必要なもの（バードウォッチング参照） 間伐材 救急バッグ				施設へ注文	学校（個人）持参
				竹 ひも	軍手 ビニルシート
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 指定された範囲の中で、小屋を建てる場所を下見して決定する。（グループ）				・ 野鳥の多い場所を指定する。 ・ 小屋を建てる場所については、施設職員と事前に相談しておく。	
2 小屋の建て方や注意事項を聞く。				・ 立木の伐採はしない。必要な場合は施設職員に相談する。	
3 グループで観察小屋を建てる。				・ 木の枝や葉を利用して小屋を作らせる。 ・ 友だちと協力して作らせる。	
4 野鳥を観察する。 ・ 鳴き声のメモや録音 ・ スケッチ ・ 名前調べ				＊ 観察は早朝がよい。 ・ 静かに行動させる。 ・ なるべく自然に近い色の洋服を着させる。	
5 後かたづけをする。					
安全指導のポイント		・ のこぎり等の正しい使い方を指導する。			

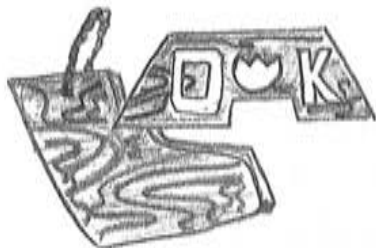
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

2	丸太小屋づくり					
ね ら い	- 間伐材を利用して小屋を造って宿泊し、暗闇の自然を体験する。 - 協力してつくる楽しさを味わわせるとともに、ものをつくる喜びを体験する。					
	時 期	春 夏 秋	人 数			制限なし
	時 間	1 日	活 動			敷地内
	時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの		
間伐材 シート ロープ ランタン 脚立 寝袋 段ボール箱 のこぎり はさみ カッターナイフ 救急バ ッグ				施設へ注文		学校（個人）持参
				荒縄 ガムテープ ビニルひも 竹		軍手 懐中電燈 ビニルシート
活 動 内 容				留 意 事 項		
1 小屋の作り方の説明を聞く。				・ 道具の正しい使い方等安全指導を徹底する。		
2 材料を運び小屋を造る。				・ 縄の結び方を指導する。 ・ 自然のものを利用させる。（伐採は施設職員と相談する。） ・ 小屋の囲いは、すすき、雑木の枝、シート、段ボール箱等を利用させる。		
3 他のグループの小屋を見学する。						
4 小屋を基地として遊ぶ。				・ 自然の中で十分遊ばせたり、探検させたりする。		
5 小屋に宿泊をする。				・ 季節によっては寒いので、防寒の指導をする。 ・ 急に荒天になる場合もあるので、すぐ対応できる体制をとっておく。		
6 後かたづけをする。						
安全指導のポイント		- 道具の安全な使い方を指導する。 - 児童の体調を把握して宿泊させる。 - 長袖、長ズボンで活動させる。				

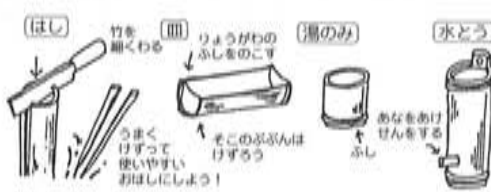
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

3	焼き板			 
ね	・ 手作りの楽しさや木目の美しさを知り、創作の喜びを味わう。			
ら				
い				
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	2 時間～半日	活 動	工作室	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
火箸 バケツ 電動系のこ 彫刻刀 ワイヤーブラシ きり のこぎり ガスバーナー			施設へ注文	学校（個人）持参
			ペンテックス かざりひも たわし ねじくぎ 杉板 ガスボンベ まき	軍手 雑巾（タオル）
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 焼き板の作り方の説明を聞く。			・ 電動系のこ、彫刻刀、ガスバーナー等の使い方を指導する。 ・ 杉板の他、丸太等を焼いて磨くことも考えられる。	
2 杉板を好みの形に切る。			・ 時間が十分とれない場合は、事前に形をきっておくか、そのままの形で焼かせる。	
3 杉板を焼く。			・ 焼き具合を指導する。 ・ 木を燃やしてその火で焼く場合とガスバーナーで焼く場合があるが、どちらにするかを決めておく。 ・ やけどに注意させる。	
4 杉板を磨く。			・ 完全に火が消えてからこすらせる。 ・ ワイヤーブラシ、たわし、雑巾等でしっかり磨かせる。木目に沿って磨かせる。	
(5 ペンテックス等で字や絵をかく)			・ ぬりすぎると杉の美しい木目が死んでしまうので、ぬりすぎないように指導する。	
6 壁掛けの場合は、飾りひもをつける。				
安全指導のポイント		・ 道具の正しい使い方を指導する。 ・ やけどをしないように火箸を必ず使用させる。 ・ 電動系のこを使用する場合は、指導者が必ずつく。 ・ ガスバーナーの正しい使い方を指導する。		

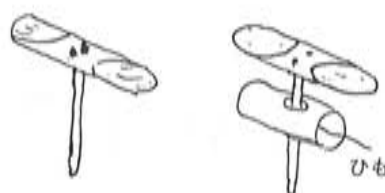
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

4	竹の食器づくり				
ね ら い	竹の特徴を知り、生活に生かすとともに、手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	工作室		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
竹引きのこぎり 竹割りなた きり 金づち 小刀 やすり メジャー				施設へ注文	学校（個人）持参
				紙やすり 竹	軍手
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 何を作るか決める。 はし おわん さら コップ スプーン フォーク等 2 作り方の説明を聞く。 3 竹を作るものの大きさに切る。 4 形を整えるために割ったり、削ったりする。 5 磨きをかける。 6 作った食器を使って食事をする。				- 見本を用意する。 - 作り方を書いたプリントを用意し、参考にさせる。 - のこぎりの正しい使い方を指導する。 - 刃物の安全な使い方を指導する。 - 児童生徒の実態によって、切ったり割ったりできないときは、事前に切ったり割ったりしておく。 - 刃物をいためないように台の上で作業させる。 - 切り口や割ったところをやすりでなめらかにさせる。 - 一度使ったら捨てるのではなく、自然学校期間中使用するとか、家に持ち帰って使用するとか考えさせる。	
					
安全指導のポイント		- 刃物の安全な使い方を指導する。 - 竹を切るときは、2人組か3人組で作業させる。 - 軍手をつけるとすべりやすいので気をつけさせる。			

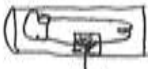
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

5	竹とんぼづくり				
ね ら い	・ 手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。 ・ とんぼの羽の削り方を工夫することにより飛び方に違いができることに気づく。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	2 時間～半日	活 動	工作室		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの		
竹引きのこぎり 竹割りなた きり小刀			施設へ注文		学校（個人）持参
			竹 ポンド		軍手
活 動 内 容			留 意 事 項		
1 竹を設計図の大きさに切ったり割ったりする。			・ 刃物の正しい使い方の指導をする。		
2 竹を削って、はねや心棒を作る。 竹とんぼの種類			・ はねの削る方向を間違えないように指導する。		
					
3 竹とんぼを飛ばす。			・ 飛ばし方をよく指導する。		
4 悪いところを直す。			・ 広い場所で飛ばさせ、人に当たらないように注意させる。		
5 飛ばす競争をする。			・ うまく飛ばない原因を考えさせ、修正させる。		
安全指導のポイント		・ 刃物の正しい使い方の指導をする。 ・ 飛ばすとき、人に当たらないように飛ばし方の指導をよくしておく。			

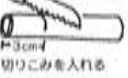
Ⅰ 自然とのふれあい

Ⅱ 自然から創る

6	名札づくり					
ね ら い	・ 木の形や美しさを考えて制作することにより、手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。 ・ 個性豊かな名札を作り、その出来栄を認める。					
	時 期	通 年	人 数			制限なし
	時 間	半 日	活 動			工作室
	時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの		
のこぎり ニスのはけ 小刀 ニス入れの皿 彫刻刀 長靴 はけ洗い用の缶				施設へ注文	学校（個人）持参	
				安全ピン 木工ボンド ニス	軍手 マジック	
活 動 内 容				留 意 事 項		
1 小枝をとってくる。				・ 直径2～3 cmぐらいの小枝を切りとらせる。 ・ のこぎりの使い方を指導する。 ・ 必要な分だけ枝を取るよう指導する。 ・ かぶれる木に注意させる。		
2 取ってきた枝を4～5 cm位の長さに切る。						
3 半分に縦割りする。				・ 小刀の使い方を指導する。		
4 表皮のついている部分を両端を残して削り取る。						
5 名前を書く。または、彫る。 				・ 彫刻刀を使う場合は、使い方を指導する。		
6 安全ピン止めを作り、安全ピンを取りつける。 						
7 ニスを塗る。 						
安全指導のポイント		・ 削るものが小さいので、小刀や彫刻刀の使い方の指導を徹底する。 ・ 木を取りに行くときは、軍手、長靴を使用させる。				

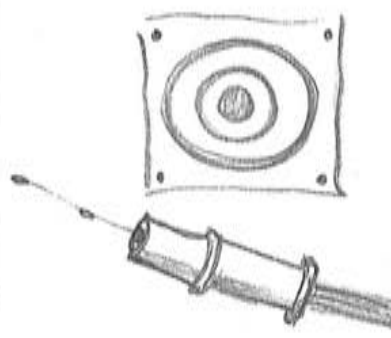
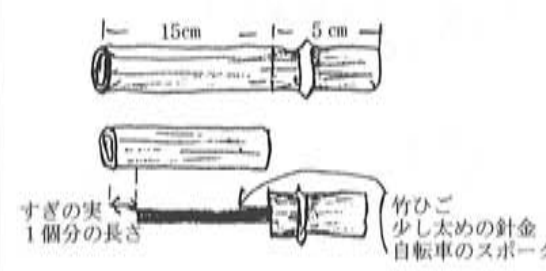
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

7	竹笛・草笛づくり				
ね ら い	・ 自然のものを使って作るにより、手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	工作室		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
竹引きのこぎり きり 竹割りなた 小刀 糸のこ				施設へ注文	学校（個人）持参
				竹 紙やすり	軍手
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 竹を適当な大きさに切る。				・ のこぎりやなたの使い方を指導する。	
2 吹き口を斜めに切り、割れ目をいれる。				・ 切る角度、割れ目など各自工夫させる。 ・ 小刀の使い方を指導する。 ・ 紙やすりで磨かせる。	
3 割れ目に竹の葉やハランをはさむ。				・ 大きさを考えさせる。	
ガチャガチャぶえ  ふしの手まえまでわれ目を入れ、両手で何回かもむ ささぶえ(ぶたぶえ)  あなの上を切りこもう！ ななめに切り、切りこみを入れる ひばりぶえ  3cm 切りこみを入れる ななめに切りこむ  指でほきんでふく おりまげる 竹の葉をさしこむ ふく 切り口の形にあわせて切る ふく なるところをさがそう 竹の葉をはさむ				・ どの子ども確実に音が出るようにし、出ない子には個別指導をする。	
安全指導のポイント				・ 吹き口を斜めに切るので小刀をよく磨いておく。 ・ 棘がささらないように気をつけさせる。	

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

8	杉・紙玉鉄砲づくり					
ね	・ 自然の材料を活用した手作りの工作の楽しさ					
ら	や創作の喜びを味わう。					
い						
時 期	春 通年		人 数	制限なし		
時 間	半 日		活 動	工作室		
時 間 帯	日 中		場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの		
竹引きのこぎり 小刀 長靴				施設へ注文	学校（個人）持参	
				竹	スポーク	
活 動 内 容				留 意 事 項		
1 杉の実を集める。				・ 杉の実がない場合は、紙でも良い。		
2 筒と心棒を作る。				・ のこぎりや小刀の使い方を指導する。		
				・ 筒と心棒の長さの調整が大切なことに気づかせる。		
3 杉の実をつめて飛ばす。				・ 飛ばない原因を見つけて修理させる。		
				・ 紙玉の場合は、水にぬらしてしぼってから使わせる。		
4 楽しく遊ぶ。				・ 飛ばしあいや的当てをさせる。		
				・ 人に向けて撃たないように気をつけさせる。		
安全指導のポイント		・ 飛ばすときには、絶対人の方を向けて撃たないように気をつけさせる。				
		・ 刃物の安全な使い方を指導する。				

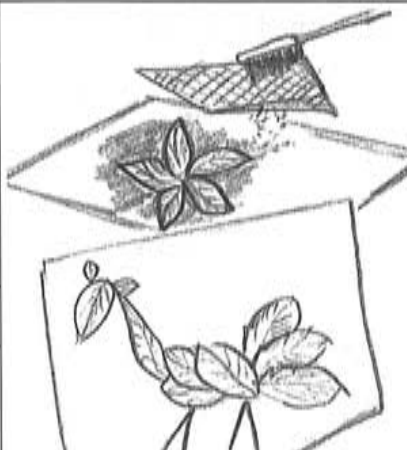
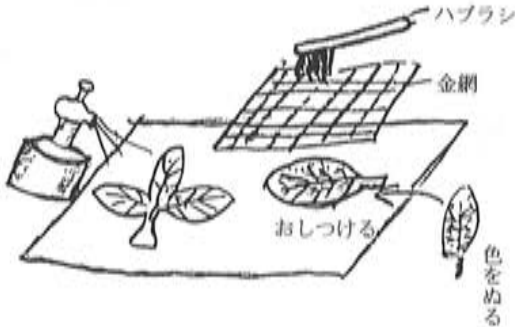
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

9	葉脈しおり				
ね	・ 葉のつくりを知るとともに創作の喜びを味わう。				
ら					
い					
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	自然観察館		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
ピーカー アルコールランプ ピンセット 石綿つき金網 水酸化ナトリウム水溶液 アルコール 三脚 長靴				施設へ注文	学校（個人）持参
					新聞紙 軍手 歯ブラシ
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 葉脈のしっかり出る葉を採集する。				・ ヒイラギ、ツバキなどを採集させる。	
				・ かぶれる木に気をつけさせる。	
2 水酸化ナトリウム水溶液（10㏄）に葉を入れ、アルコールランプで煮、色が変わってからピンセットで引き上げ、アルコールで脱脂する。				・ アルコールランプの使い方をきちんと指導する。	
				・ 水酸化ナトリウム水溶液がつかないように気をつけさせる。	
3 歯ブラシで念入りにたたく。				・ 葉が乾かないように何回もアルコールをつけ、新聞紙の上で場所を変えながらたたかせる。	
4 葉脈だけになったら、ティッシュなどではさみ、重石を乗せて乾かす。				・ ラッカーなどで好みの色分けをするのも良い。	
				・ 安全ピンをつけてブローチにもできる。	
安全指導のポイント		・ 水酸化ナトリウム水溶液がかかった場合は、すぐに水洗いをさせる。			
		・ アルコールランプの使い方に関心させる。			
		・ かぶれる木に注意させる。			

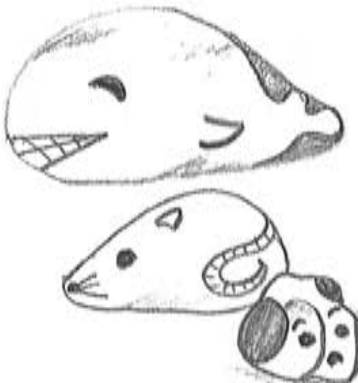
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

10	葉っぱの押し絵				
ね ら い	・ 形や色などを考えて葉を集め、葉の形を写したり、形を取ったり、張りつけたりして作品を作ることにより、創作の喜びを味わったり、自然への興味関心を高める。				
時 期	春 夏 冬	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	自然観察館		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
長靴 金網 霧吹き				施設へ注文	学校（個人）持参
					絵の具 歯ブラシ 古新聞紙 ビニル袋 画用紙
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 自分のテーマをしっかりと考える。				・ 作品例を見せて考えさせても良い。	
2 テーマに沿った葉を採集してくる。				・ かぶれる木に気をつけさせる。 ・ 必要な分だけ採らせる。	
3 作品を作る。					
* 方法					
・ 葉に色を塗り、画用紙に押しつける。					
・ 葉を置き、その上から細かい網を使って絵の具をつけた歯ブラシでこすり形をうつす。					
・ 紅葉の季節には、いろいろな色の葉を張りつける。					
4 乾かしてから、作品鑑賞会をする。				・ お互いに友だちの良いところを認め合わせるようにさせる。	
安全指導のポイント		・ 採集場所の点検をしっかりしておく。 ・ かぶれる草木（ウルシ、ハゼ等）に気をつけさせる。			

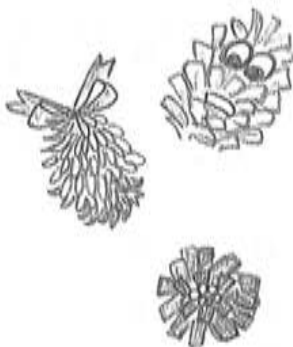
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

11	石の文鎮			
ね ら い	- 身近な自然物（石）に関心を持つ。 形、色などの特徴を生かした作品を作ることにより、創作への喜びを味わい、思い出の作品を作る。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	工作室	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
ニスのはけ ニス入れの皿 はけ洗い用の缶 画板 長靴			施設へ注文	学校（個人）持参
			ニス	絵の具
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 川原で石拾いをする。			- 水の量や深みなど川における安全に気をつけさせる。 - 作りたい文鎮のイメージを描きながら石を探させる。	
2 石をきれいに洗って乾かす。				
3 色を塗ったり、絵や字をかいたりする。			- イメージにあわせて色つけをさせる。 - 自然学校の思い出になるよう楽しい作品を作らせる。	
4 乾いたらニスを塗る。			お互いの良いところを認め合うようにさせる。	
安全指導のポイント		川原での危険を知らせる。		

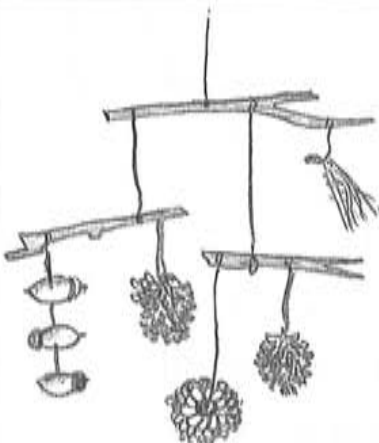
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

12	松かさブローチ				
ね ら い	・ 身近な自然物に関心を持つ。 ・ 形、色などの特徴を生かした作品を作ることにより、創作の喜びを味わう。				
時 期	夏 秋 冬	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	工作室		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
ニッパー ニスのはけ ペンチ ニス入れ皿 ニス洗い用缶 カッターナイフ 長靴				施設へ注文	学校（個人）持参
				ニス 安全ピン	軍手 絵の具
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 どのようなブローチを作るかを考える。					
2 松かさを集める。				・ 採集場所を指定し、安全指導をする。	
3 松かさを切ったり、削ったりする。				・ 松かさの特徴を生かした作品を作らせる。 ・ カッターナイフの使い方を指導しておく。	
4 松かさに模様を描き、色塗りをする。				・ 服に合わせて色を考えさせる。	
5 ニスを塗る。				・ 友だちの作品の良いところを認め合わせる。	
6 安全ピンをつける。					
7 ブローチをつけファッションショーをする。					
安全指導のポイント		・ 採集場所の安全確認をする。 ・ 刃物の安全な使い方を指導する。			

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

13	モビール			
ね ら い	・ 身近な自然物に関心を持つ。 ・ 形、色などの特徴を生かした作品を作ることにより、創作の喜びを味わう。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	工作室	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
小刀 はさみ ペンチ のこぎり きり 長靴			施設へ注文	学校（個人）持参
			針金 糸 のり ボンド	軍手 ビニル袋
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 どんなモビールにするか考える。			・ 作品例を見せて考えさせる。	
2 つるす材料を採集する。			・ 採集場所の安全確認をさせる。 ・ グループごとに採集に行かせる。	
3 採集してきた材料を好きな大きさや形にする。			・ 小刀の使い方に気をつけさせる。 ・ 採集してきたものの特徴を生かすようにさせる。	
4 糸につるす。			・ バランスを考えながら取りつけさせる。	
5 全部をつなぐ。			・ バランスを考えながらつながせる。	
6 作品発表会をする。			・ 友だちの作品の良いところを見つけさせる。	
安全指導のポイント		・ 採集場所の安全確認をする。 ・ 小刀の使い方を指導する。 ・ かぶれる草木（ウルシ、ハゼ等）に気をつけさせる。		

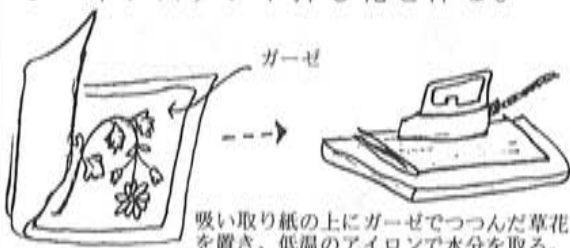
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

14	はにわづくり			
ね ら い	・ 粘土細工を通して、創作の喜びを味わい、古代の人々の暮らしへの興味関心を高める。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	工作室	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
焼き釜 簡易ろくろ へらセット 粘土板 はにわ模型			施設へ注文	学校（個人）持参
			粘土 灯油	新聞紙 タオル
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 何を作るか決める。			・ はにわ模型を参考にしながら、個性豊かな作品を考えさせる。	
2 粘土をしっかり練って形を作る。			・ 粘土をしっかり練り、中の空気を出させる。 ・ 飾りをつける場合は、接着面を工夫させる。	
3 陰干しをする。			・ 名前をはっきり書かせる。	
4 素焼きをする。			・ 完全に乾燥させてから焼く。 （施設で対応）	
5 作品展をする。			・ 友だちの作品の良いところを認め合わせる。	
安全指導のポイント		・ 火傷に注意させる。		

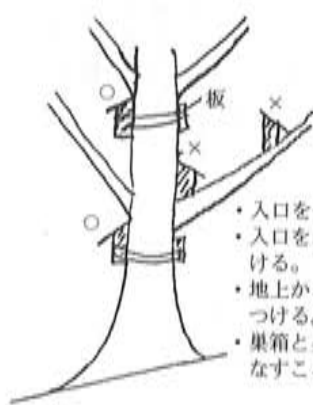
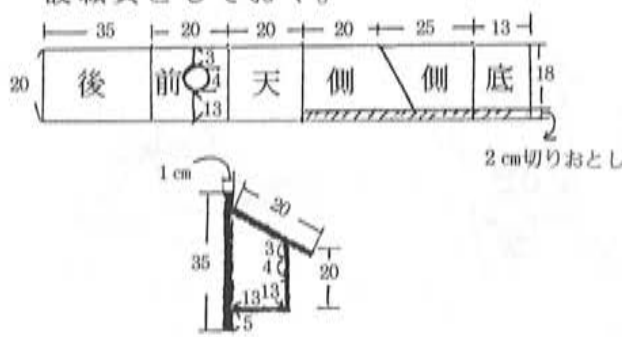
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

15	押し花づくり				
ね ら い	- 植物のつくりや特徴を学習する。 - 植物の美しさに気づかせ、植物に対する興味関心を高める。 - 自然愛護の精神を育てる。				
時 期	春 夏 秋	人 数	制限なし		
時 間	1 日	活 動	敷地内 自然観察館		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
剪定ばさみ 植物採集箱 植物図鑑 バインダー アイロン パウチラミネーター 長靴 救急バッグ				施設へ注文	学校（個人）持参
				パウチフィルム	台紙 吸い取り紙 ガーゼ ビニル袋
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 植物採集の計画を立てる。				施設内の植物の配置図の説明を聞きながら、グループで採集したいものを考えさせる。	
2 採集用具を準備して、施設周辺に観察に出る。				かぶれる木に気をつけさせる。	
3 自分の気に入った草花を最小限採集する。				- 根は残して必要な分だけを採集させる。 - 採ってはいけないものを確認させる。	
4 スケッチや記録をとる。				図鑑で名前を調べさせる。	
5 インスタント押し花を作る。				- アイロンの使い方を指導する。 - 吸い取り紙の上にガーゼを置き、花びらや葉が折れないように丁寧に並べて包み、アイロンで押さえさせる。	
 吸い取り紙の上にガーゼでつつんだ草花を置き、低温のアイロンで水分を取る。				- 押し花を台紙にはり作品を作らせる。 - サランラップで包んだり、パウチラミネーターで仕上げさせる。	
6 自分の好きな作品に仕上げる。				友だちの作品の良いところを認め合わせる。	
7 発表会をする。					
安全指導のポイント		- アイロンの使い方の指導をする。 - 採集時は、長靴や軍手を使用させる。			

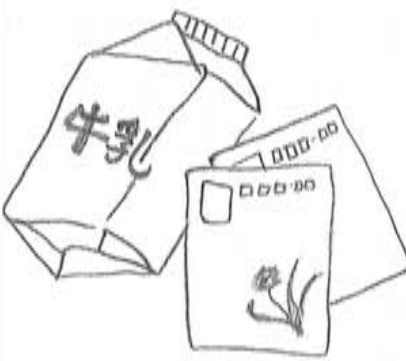
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

16	小鳥の家づくり				
ね	- 生活工具の操作技術を習得する。 - 創作の喜びを味わう。 - 動物愛護の心を育てる。				
ら					
い					
時 期	春 夏 秋	人 数	制限なし		
時 間	1 日	活 動	工作室		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの		
のこぎり 糸のこ かなづち きり 電動のこぎり 金尺 脚立 かん ペンチ 設計図			施設へ注文		学校（個人）持参
			くぎ 板 しゅろ縄 針金		筆記用具
活 動 内 容			留 意 事 項		
1 作りたい巣箱を選ぶ。 2 板に印をつけ、切る。 3 釘を打ち、組み立てる。 4 巣箱かけをする。  - 入口をやや下向きにする。 - 入口を山の斜面の下方に向ける。 - 地上から2～5 mの高さにつける。 - 巣箱と巣箱は、50cm以上はなすこと。			何種類かの巣箱を提示し、その中から選ばせる。		
			のこぎり、糸のこなど用具の正しい使い方を指導する。		
			友だちと協力しながら作らせる。		
			 木の成長のために、しゅろ縄で固定させる。		
安全指導のポイント	- 板を切るときは、友だちに押さえてもらいながら切らせる。 - のこぎり、糸のこなど用具の正しい使い方を指導する。 - 巣箱をかけるとき、脚立をしっかりと支えさせる。				

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

17	はがきづくり（牛乳パック）			
ね ら い	・ 資源の再利用に関心を持つ。 ・ 手作りの楽しさや創作の喜びを味わう。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	工作室	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
紙すき器 アイロン アイロン台 ミキサー			施設へ注文	学校（個人）持参
			のり	牛乳パック 古いタオル 日本手ぬぐい
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 牛乳パックのナイロンをはがす。			・ 2～3日前から牛乳パックを石鹼水につけておく。	
2 ミキサーに水とちぎった牛乳パックを入れ、洗濯のりを少々加えどろどろになるまでかきまぜる。			・ ミキサーの取り扱いに注意させる。 ・ 紙のかたまりがなくなり、のり状になるまで溶かさせる。	
3 広い入れ物に水を入れ、紙すき枠を浮かべ、その中へミキサー内の液を入れる。			・ 一夜おいておく方が良い。 ・ 浮かべたままゆすり、表面を平らにする。模様を入れる場合は、1回目は薄くすき、草花を入れて、もう一度薄くすく。	
4 紙すき枠をまっすぐに持ち上げ水を切る。				
5 日本手ぬぐいではさんでアイロンをあて、表面のでこぼこを平らにする。			・ 直接アイロンをかけさせない。	
安全指導のポイント		・ ミキサーやアイロンの使い方に注意させる。		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

18	紙細工			 	
ね ら い	・ いろいろな紙を使い、生活に役立つものを作る。 ・ 紙と生活とのつながりを考える。 (資源保護)				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	工作室		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの		
はさみ カッターナイフ ニス用はけ はけ洗い用缶			施設へ注文		学校(個人)持参
			のり ニス		絵の具 紙
活 動 内 容			留 意 事 項		
1 作るものを決める。 ・ 飛行機 ・ なべしき ・ 風車 ・ こま ・ かご 等			・ いろいろな作品を見ながら、作りたいものを決めさせる。		
2 工夫しながら作る。			・ カッターナイフ、はさみの安全な使い方を指導する。 ・ 早くできた者は次の作品を作らせる。		
3 出来上がった作品の展覧会をする。			・ 友だちの作品の良さをみつけさせる。		
4 生活の中での紙について話し合う。			・ 資源保護について考えさせる。		
安全指導のポイント		・ 刃物の正しい使い方について指導する。			

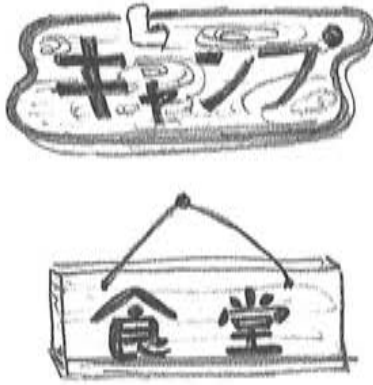
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

19	星座早見缶づくり				
ね ら い	・ 星座早見缶（星座盤）作りを通して、天体への興味関心を深める。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	工作室		
時間帯	昼・夜	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
はさみ やすり 缶切り かなづち カッターナイフ 星座図				施設へ注文	学校（個人）持参
					空き缶（図にあった大きさ） 色鉛筆
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 空き缶の飲み口を缶切りで切り抜き、中を洗い、切り口をかなづちでたたいたり、やすりで削ったりする。				・ 切り口をやすりで丁寧に削らせる。 ・ アルミ缶ではやわらかいので、スチール缶を使用させる。	
2 星座図に色を塗る。				・ 星座によって色分けさせる。または明るさごとに色分けする。	
3 星座の図を空き缶に貼りつける。				・ のりをつけすぎるとしわになるのでつけすぎないように指導する。	
4 星座早見缶で星座を探しながら天体観測を行う。				・ グループごとに分かれて行わせる。	
安全指導のポイント		・ カッターナイフ、やすりの取り扱いに注意させる。 ・ 缶の切り口は丁寧にたたいたり、削ったりさせる。			

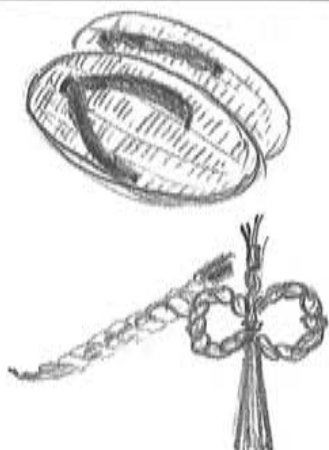
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

20	看板・標識づくり			
ね	・ 看板（標識）を作り、設置することにより後輩のために奉仕する。			
ら	・ 手作りの工夫をさせることにより、創作の楽しさや出来上がった喜びを味わう。			
い				
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 日	活 動	工作室	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
のこぎり ペンチ 金尺 かなづち のみ かけや 釘抜き スコップ 系のこ 電動ドリル ペンキ用はけ ニス用はけ ニス用皿 火箸 ペンキ用はけ洗い缶 バケツ ワイヤーブラシ ガスパナー			施設へ注文	学校（個人）持参
			くぎ 水性ペンキ ニス 板 くい ガスボンベ	軍手
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 どのような看板（標識）を作るのか話し合う。			・ 生活のためのもの、安全のためのものなど考えさせる。	
2 板や角材を切る。			・ グループごとに割当てをする。	
3 焼き板にしたり、ペンキで字や絵をかいたり、色を塗ったりする。			・ のこぎり、のみ、系のこなどの用具を正しく使わせる。	
4 作品を発表し合う。			・ 目的に合わせて、デザインさせる。	
5 看板を設置する。			・ 良いところを認め合わせる。	
				
安全指導のポイント		・ 用具の使い方をしっかり指導する。 ・ 軍手を使用させる。 ・ ガスパナーの正しい使い方を指導する。		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

21	わら細工				
ね ら い	・ わらについての話を聞き、昔はわらが生活にどれほど重要な役割を果たしていたかを学ぶ。 ・ 手作りの作品を作ることにより、創作の楽しさと喜びを味わう。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	工作室		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
木づち（わら打ち用） わら打ち台 ひもとおし（竹で作ったもの） 剪定ばさみ シート				施設へ注文	学校（個人）持参
				わら	
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 わらについて話を聞く。				・ わらが、昔の生活にどれくらい重要な役割を果たしていたかを学ばせる。	
2 わら細工の作り方の説明を聞く。				・ 水を少しかけながらわらを打たせる。 ・ うちすぎないようにさせる。	
3 わら細工をする。 ・ ぞうり ・ なわない ・ しめかざり ・ わらうま ・ ほうき 等				・ 個人指導をする。 ・ 指導者はなるべく多くする。	
4 感想を発表したり、作品を鑑賞したりする。				・ わらについて思ったこと、わら細工をして楽しかったところ、苦労したところなどを発表させる。 ・ 友だちの作品の良いところを認め合わせる。	
安全指導のポイント		・ わら打ちの時、木づちの使い方を指導する。			

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

22	凧づくり			
ね ら い	・ 凧づくりを通して、製作の喜びを味わうとともに、創造性を養う。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 日	活 動	工作室	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
竹割りなた カッターナイフ はさみ 霧吹き 竹引きのこぎり 設計図			施設へ注文	学校（個人）持参
			紙やすり 竹 凧糸と糸巻き 和紙 のり	絵の具 軍手 マジック
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 作りたい凧を選択させる。			・ いくつかの見本の中から選ばせる。 ・ 材料、作る順序を確認させる。	
2 竹を削って竹ひごを組み立てる。			・ 竹の削り方を指導する。 ・ 削った後、紙やすりでよく磨かせる。	
3 絵を描く。			・ 凧の大きさいっぱいに絵を描かせる。	
4 紙を貼る。			・ 霧を吹き、紙をのばさせる。	
5 糸や足をつける。			・ バランスをうまく調節させる。	
6 凧上げ大会をする。				
安全指導の ポイント		・ 竹の棘が刺さらないように紙やすりでよく磨かせる。 ・ カッターナイフ等の正しい使い方を指導する。		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

23	班旗づくり				
ね ら い	- みんなで協力して班旗を作ることを通して、人間関係を深め、自然学校に対する意欲を高める。 - 草木で染めた色の美しさを味わう。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	工作室		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの		
ざる はさみ ボール さい箸 はけ なべ（ホーロー） 筆 ガス台 アイロン アイロン台 パケツ			施設へ注文	学校（個人）持参	
			糸 カリミョウバン 硫酸第一鉄	ビニル袋 ゴム手袋 軍手 白布	
活 動 内 容			留 意 事 項		
1 班旗のデザインを考える。 2 野草の採集をしてくる。 3 野草をなべでよく煮る。 4 煮じるをざるでこしてボールにとる。 5 班旗を煮じるにむらがないように10分程漬ける。 6 班旗をしぼってから、媒染液に5分程漬ける。 7 水でよく洗ってから乾燥する。 8 仕上げはアイロンでよくしわをのばし、マジック等で書き込む。			- 他の班にない独特のものを考えさせる。 - 下の表を参考にして採集させる。 - かぶれる木に気をつけさせる。 1時間程度煮る。 - 媒染液を作る。（カリミョウバンは10～15%、硫酸第1鉄は5～10%） - やけどをしないように気をつけさせる。 - 班旗はよく水洗いをしてのりを取り去っておく。 - 輪ゴムか糸で縛っておいてもよい。 - 衣服に煮じるや媒染液がかからないように気をつけさせる。 - 煮じるや媒染液を入れるボールは金属性のものを使わせない。 - やけどをしないように注意させる。		
植 物		媒 染 液		植 物	
		カリミョウバン	硫酸第一鉄		
マツヨイグサ		山吹色	紫灰色	アメリカセンダングサ	
カナムグラ		黄緑色	—	ドクダミ	
ヨモギ		—	緑灰色	ノギク	
クズ		淡黄色	—	ススキ	
安全指導のポイント		- 野草の採集の時は、長靴、軍手を使用させる。 - 煮じるがかからないように気をつけさせる。 - 媒染液がかからないように気をつけさせる。			

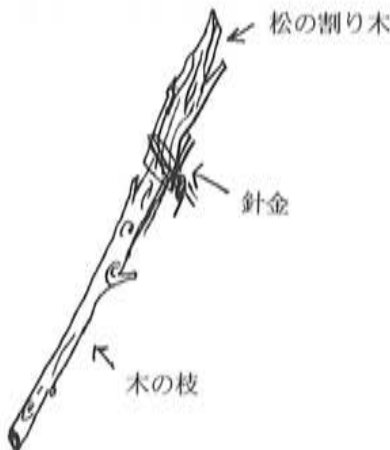
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

24	木の枝細工				
ね ら い	・ 自然の木をそのまま使用して創作する中で、自然にふれあい、いろいろな植物の特徴に気づく。 ・ 作品を作る楽しさを味わう。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	敷地内		
時 間 帯	日 中	場 所	工作室		
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
のこぎり ペンチ やすり 電気ドリル 電動糸のこ 万力 救急バッグ				施設へ注文	学校（個人）持参
				瞬間接着剤	マジックペン
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 どのような物を作るのか話し合う。				・ 動物や虫、動きのある人等を工夫して作らせる。 ・ 一つの場面を想定して、箱庭のようにさせても良い。	
2 材料を集める。 ・ 細い枝……………昆虫の足 ・ 木の葉や皮…………昆虫の羽 ・ 細い丸太……………胴体				・ 野山に入り必要となる材料を集めさせる。 ・ 木を切る場所は事前に相談しておく。 ・ 木の肌を見ながら出来上がりを予想させ、材料を選ばせる。	
3 材料を切って接着して、作品をつくる。				・ 太い枝はのこぎり、細い枝はペンチで切らせる。 ・ ドリルで穴を開け、差し込ませても良い。 ・ 接着剤をつけすぎないように指導する。 ・ 必要な所はやすりで削っても良い。 ・ 形ができた目等を書き込んでも良い。	
4 作品展をする。				・ 作品の良いところを見つけさせる。	
安全指導のポイント		・ 丸太をしっかりと固定させて切らせる。 ・ ふざけたりしないように安全指導を徹底する。			

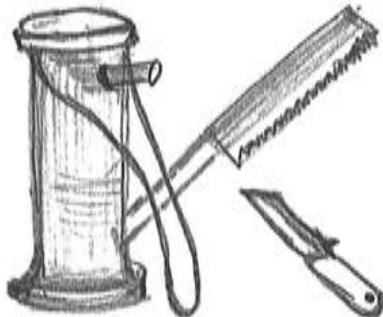
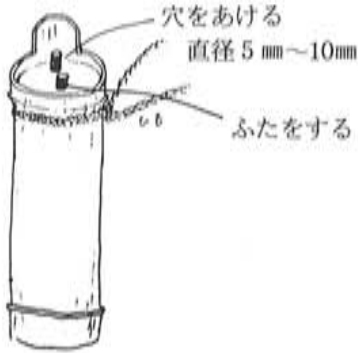
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

25	ミニトーチ棒づくり			
ね ら い	・ 自然学校ファイヤーをより感動的で思い出に残るものとするための準備をする。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 時間	活 動	工作室 キャンプ場	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
ペンチ			施設へ注文	学校（個人）持参
			針金 松の割り木	
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 材料を準備する。			・ 松の根が腐り、油分の多いところが残ったものを用意する。	
2 材料を切ったり割ったりする。			・ 木の枝は30cmぐらいに切り、松の根は15cmぐらいに切ってから、細かく割らせる。	
3 松の割り木を棒に固定する。			・ 細い松の割り木が抜けないように、針金でしっかり巻かせる。	
				
安全指導のポイント		・ 刃物の安全な使い方を指導する。		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

26	竹の水筒づくり				
ね ら い	・ 竹の性質を知るとともに、作ることの楽しさ や作った物を活用する喜びを味わう。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	工作室		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
竹引きのこぎり 小刀 電動ドリル 手動ドリル きり				施設へ注文	学校（個人）持参
				竹 ひも 紙やすり	軍手
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 竹を切る。				・ のこぎりの使い方を指導する。 ・ 友だちと協力しながら切らせる。	
2 水を入れる穴をあける。				・ ドリルの正しい使い方を指導する。 ・ 手動ドリルの時は、友だちと協力し て穴をあけさせる。 ・ 中を洗わせる。	
3 栓を作る。				・ 小刀の使い方を指導する。	
4 ひもをつける。				・ 肩にかけてみて、長さを調整させる。	
5 ハイキングや登山で使用する。				・ 腰にぶらさげるようにしても良い。	
					
安全指導の ポイント		・ のこぎりで竹を切るときやドリルで穴をあけるときは、怪我を しないよう指導を徹底する。			

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

27	木のプランター			
ね ら い	・ 共同でものを作ることを通して、協力する心を育てたり、創作への喜びを味わう。 ・ 花を植えて環境整備をはかり、自然愛護の精神や奉仕の精神を育てる。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	工作室	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
のこぎり 彫刻刀 かなづち かんな 金尺 電動ドリル ペンキ用はけ はけ洗い用缶 ペンチ			施設へ注文	学校（個人）持参
			板 丸太 釘 針金	軍手
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 設計図を作る。 2 設計図にそって、板に印をつける。 3 板を切る。 4 釘を打ち、組み立てる。 5 底に穴をあける。 6 絵を描いたり削ったりする。 7 土を入れ、花を植えたり種を蒔いたり球根を植えたりする。			・ グループごとにいろいろな材料や楽しい形を考えさせる。	
			・ のこぎりやかんなの使い方を指導する。 ・ 友だちと協力して切らせる。	
			・ かなづちの使い方を指導しておく。	
			・ 学校に帰ってからの仕事にしても良い。 ・ 施設内に設置する場合は、施設職員と設置場所などをよく相談しておく。	
安全指導のポイント	・ のこぎりや板を切るときは、友だちと協力して切らせる。 ・ かんなや彫刻刀の使い方の指導をする。			

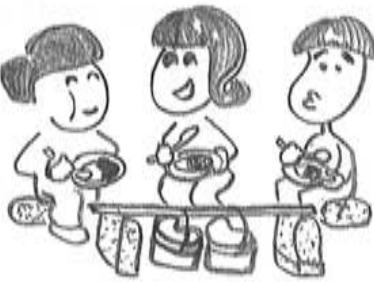
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

28	火おこし			
ね ら い	・ 昔の人々の火おこしの苦勞を体験し、火がどれほど重要なものであるかを理解する。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	2 時間	活 動	野外キッチン	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
火おこし器			施設へ注文	学校（個人）持参
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 火おこし器の使い方を学習する。 ・ まいぎり式 ・ きりもみ式 ・ 弓ぎり式 ・ 紐ぎり式			・ グループで協力しながら挑戦させる。	
2 火おこし器を使って火おこしに挑戦する。			・ いろいろな種類の火おこし器で火をおこさせる。 ・ 燃えやすい着火剤を用意する。	
3 違った種類の火おこしに挑戦する。			* 火種を大きくする材料 ゼンマイわた モグサ キノコ 麻・木綿などの消し炭 * 火種を炎にする材料 チガヤ ススキ 麻の繊維 杉葉 ゼンマイわた スギの木の皮を手で もんでやわらかく繊維状にしたもの	
4 採火した火を使って、野外炊飯をする。 （採火した火で自然学校ファイヤーをする。）				
安全指導のポイント		・ 火傷をしないように火の取り扱いに気をつけさせる。		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

29	野外炊飯			
ね ら い	・ 野外炊事に必要な技能を身につける。 ・ 限られた器具で創意・工夫を凝らして調理することを通して、家族への感謝の気持ちを養う。 ・ 友達と一緒に調理をし、食事をする事で食事の楽しさを味わう。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	野外キッチン	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
野外炊飯用具			施設へ注文	学校（個人）持参
			食事材料 まき 調味料	軍手 ふきん
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 野外炊飯の手順を聞く。			・ グループごとにコンテナかかごなどに整頓させる。 ・ 包丁の使い方や火の取り扱い方の指導をする。 ・ まきは、効率よく燃やさせる。 ・ 飯盒をさかさまにしたり、たたいたりさせない。 ・ 並べ方や盛りつけを工夫させる。 ・ 歓談をしながら楽しく食事をさせる。 ・ 生ゴミはコンポストに入れさせる。 ・ 使った道具はよく洗い、後の人が気持ちよく使用できるようにさせる。また、数を確認して返させる。 * 飯ごうの内側にアルミをはっておくと、飯ごうにこげがこびりつくことがない。	
2 材料、用具をそろえる。				
3 調理をする。				
4 食卓の準備、配膳をする。				
5 食事をする。				
6 後かたづけをする。				
安全指導のポイント		・ 包丁の使い方、火の取り扱いに気をつけさせる。 ・ 鍋や飯ごうを火からおろしたりするときは、軍手を使わせる。 ・ 材料をよく加熱させる。（食中毒予防）		

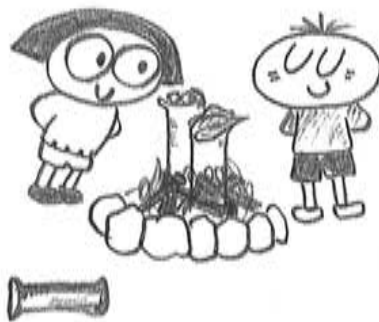
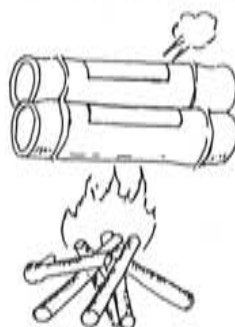
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

30	山菜料理（山菜採り）			
ね ら い	- 自然食品への関心を深め、食事内容を工夫する。 - 植物と食生活とのつながりを理解する。			
時 期	春 夏 冬	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	敷地内 野外キッチン	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
野外炊飯道具 てんぷら鍋 ガスコンロ さい箸 長靴			施設へ注文	学校（個人）持参
			油 ガスボンベ てんぷら粉 油吸い取り紙 調味料	軍手 新聞紙 ビニル袋
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 山菜や食べられる野草を知る。			・ 資料や実物を見せる。	
2 採集する。			・ いろいろな種類の山菜や野草を食べる量だけ採集させる。	
3 点検を受ける。			・ あぜ道や田畑等での採集のマナーを知らせる。 ・ 調理の前に専門家の点検を受けさせる。	
4 調理の仕方を学ぶ。				
5 グループで協力して調理する。			・ ガスがきちんとはまっているか点検しておく。 ・ てんぷら油がかからないように注意させる。 ・ てんぷら以外の調理の場合は、あく抜きをさせる。 * サラダ（ゆでること） つくしサラダ タンポポサラダ	
6 楽しく食事をする。				
7 後かたづけをする。			・ 油は石鹼づくりなどに利用できる。	
安全指導のポイント		- 食べる前に、食べられる材料かどうかチェックする。 - 採集時は、長靴、軍手を使用させる。 - ガスの取り扱いに注意させる。 - てんぷら油で火傷しないように注意させる。		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

31	おもしろごはん炊き				
ね ら い	- 様々な用具を使って調理することを体験する。 - 原始的な生活を味わうとともに、食事の楽しさと家族への感謝の気持ちを養う。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	野外キッチン		
時間帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
竹引きのこぎり なた のみ つちざる ポール				施設へ注文	学校（個人）持参
				米 まき 竹	軍手
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 竹を切り、竹鍋を作る。 				- のこぎりの使い方を指導する。 1本の青竹で平均2合炊く。 - 水かげんを指導する。 米：水＝1：2 - 竹鍋がころがらないようにする。	
2 米をとぎ、竹鍋に米と水を入れる。				* はがまで炊いてもよい。	
3 竹でふたをして炊く。					
4 火からおろし、むらす。 					
安全指導のポイント		- 竹を切るときは、友だちと協力しながら切らせる。 - 火傷をしないように軍手をつけさせる。			

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

32	棒焼きパンづくり			
ね ら い	・ 機械を使わないパンの焼き方を体験する。 ・ 食べ物大切さを理解する。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	野外キッチン	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
のこぎり ボール はけ めん板			施設へ注文	学校（個人）持参
			冷凍のパン生地 卵 塩 木炭 まき 棒	軍手
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 棒を50cmぐらいの長さに切る。			・ のこぎりを使うときは、友達と協力しながら切らせる。	
2 パン生地を発酵させる。				
3 パン生地を細長くする。			・ 生地の中には空気を入れないようによくこねながらのばさせる。	
4 棒にアルミホイルを巻きつける。				
5 パン生地を棒に巻きつける。			・ 棒の先端から、螺旋状に巻きつけさせる。	
			・ 隙間を少し作りながら均一に巻きつけさせる。	
			・ 最初に巻きつけた部分がはがれないようにさせる。	
			・ 指に少し水をつけてつなぎ目が離れないように押さえさせる。	
			・ 生地最後にはさみこませる。	
6 そのまま置いて、さらに発酵させる。				
7 卵をといて、はけでぬる。			・ 卵に味をつけておく。	
8 炭火でこんがり焼く。			・ 遠火で20～30分ゆっくり、まんべんなく焼かせる。	
			・ 火傷をしないように気をつけさせる。	
安全指導のポイント		・ 刃物の使い方をよく指導する。 ・ 火傷をしないように注意させる。		

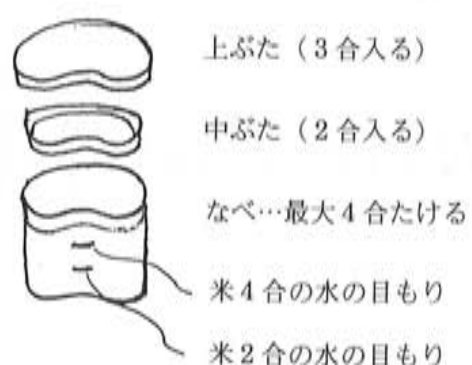
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

33	もちつき			
ね ら い	- もちつき体験を通して、伝統文化・行事への関心を深める。 - 友だちとの連帯感を育てる。 - 地域の人々とのふれあいを深める。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	食堂	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
うす せいろ きね めん板 まつぶた 釜 ガスコンロ			施設へ注文	学校（個人）持参
			もち米 片栗粉 ガスボンベ	
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 もちをつく準備をする。 2 もち米を蒸す。 3 もちをつく。 4 もちをまるめる。 5 感想を話しながら食べる。			- 前日にもち米をとぎ、水につけさせる。 - もちつきの順序を理解させる。	
			- 役割分担をしっかりと行い、全員がどれも体験できるように交代しながら行わせる。 - こづきをしっかりと行わせる。	
			片栗粉を適時まきながら、まるめさせる。	
			餅と伝統文化や行事との関係について話を聞かせる。	
安全指導のポイント		蒸した米をうすに入れたり、餅をうすから板の上に乗せたりすることは指導者がする。		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

34	一人飯ごう											
ね	・ 食生活に関心をもち、食事を作る喜びを味わう。											
ら	・ 自分のことは自分でする自立心を育てる。											
い	・ 家族への感謝の気持ちを育てる。											
時 期	通 年	人 数	制限なし									
時 間	1 ～ 2 時間	活 動	野外キッチン									
時 間 帯	日 中	場 所										
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの									
飯ごう			施設へ注文	学校（個人）持参								
			米 まき	軍手								
活 動 内 容			留 意 事 項									
1 ご飯の炊き方を知る。			・ 飯ごうのご飯の炊き方を一人一人に定着させる。									
2 米を洗う。												
3 飯ごうに米と水を入れて炊く。			・ 1食分では少ないので、2食分（2合）ぐらい炊かせる。									
			・ 副食は食堂で準備してもらう。									
			・ 火の取り扱いに気をつけさせる。									
			* 火の炊き方 「はじめチョロチョロ、中パッパ、赤子ないてもふたとるな。」 ふきこぼれが終わると炊きあがり。									
			・ 飯ごうをひっくり返したり、たたいたりさせない。									
水 加 減												
<table><tr><th>米の量</th><th>水の量</th></tr><tr><td>4 合</td><td>飯ごうの上の目盛まで</td></tr><tr><td>3 合</td><td>上と下の目盛の中間まで</td></tr><tr><td>2 合</td><td>飯ごうの下目の目盛まで</td></tr></table>			米の量	水の量	4 合	飯ごうの上の目盛まで	3 合	上と下の目盛の中間まで	2 合	飯ごうの下目の目盛まで		
米の量	水の量											
4 合	飯ごうの上の目盛まで											
3 合	上と下の目盛の中間まで											
2 合	飯ごうの下目の目盛まで											
安全指導のポイント		・ 飯ごうを火からおろすときは、軍手を使わせる。										
		・ 火の取り扱いに気をつけさせる。										

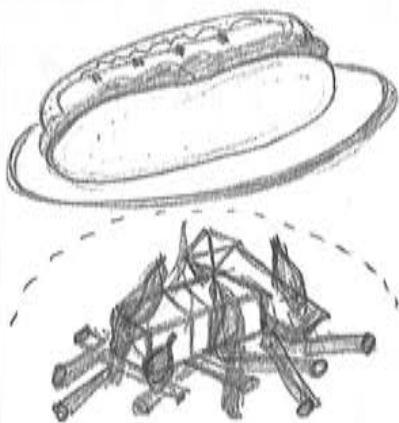
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

35	アルミホイルの包み焼き			
ね ら い	・ 簡単な野外料理の技術を学ぶ。 ・ 食事を工夫して作る楽しさを味わう。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	野外キッチン	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
包丁 まな板 火箸 食器セット			施設へ注文	学校（個人）持参
			食事材料 アルミホイル まき調味料	軍手
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 作り方を話し合う。			・ 魚、じゃがいも、さつまいも、玉ねぎなどいろいろな材料を使った料理を考えさせる。 ・ 一人一人が確実に役割が果たせるように小グループに分けて実施させる。	
2 アルミホイルにサラダ油をぬりその上に材料をのせて包み、おき火に入れる。			・ 肉類を入れる時は、よく火を通すように注意する。	
3 食事をする。			・ 楽しく食事ができるように、座る場所や配膳などの工夫をさせる。	
4 後かたづけをする。			・ 生ゴミのしまつをきちんとさせる。	
安全指導のポイント		・ アルミホイルを火の中へ入れるときや取り出すときには、火箸を使わせる。 ・ 包丁の使い方を指導する。		

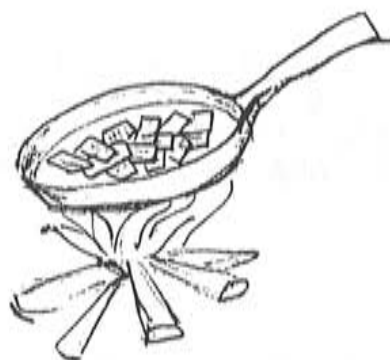
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

36	牛乳パックのホットドック			
ね ら い	・ 食事を工夫して作る楽しさを味わう。 ・ 簡単な野外料理の技術を学ぶ。 ・ 食事の楽しさと家庭への感謝の気持ちを育てる。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 時間	活 動	野外キッチン	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
包丁 まな板			施設へ注文	学校（個人）持参
			ホットドック用パン（バター、野菜はし、ケチャップ、牛乳パックなど）アルミホイル	軍手 牛乳パック
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 作り方を聞く。			・ 下まで切ってしまうように注意させる。 ・ 牛乳パックが焼けすぎるとパンが焦げることがあるので、その場合は途中で火を消させる。 ・ 好みでケチャップをかけさせる。 ・ 楽しく食事ができるように工夫させる。	
2 ホットドック用のパンに切れ込みを入れる。				
3 バター、からしをぬり、好みの野菜やハム、チーズなどをはさみアルミホイルでまく。				
4 牛乳パックの中に、パンを入れ口を閉じて火をつける。				
5 食事をする。				
安全指導のポイント		・ アルミホイルから取り出すとき、軍手を使わせる。 ・ 包丁の使い方に注意させる。		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

37	熊笹茶づくり			
ね ら い	・ 自然食品への関心を深め、自然と人間との関わりについて考える。			
時 期	通年(特に 5、6 月)	人 数	制限なし	
時 間	2 時間	活 動	野外キッチン	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
おおなべ やかん フライパン さい簀 包丁 まな板 長靴			施設へ注文	学校(個人)持参
			まき	軍手
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 なるべく新しい熊笹(上部の葉)を摘む。			・ 長靴、軍手を使用させる。	
2 4等分くらいに切り、フライパンを使い遠火でよく煎る。			・ 火の取り扱いに気をつけさせる。 ・ フライパンで火傷をしないように注意させる。	
3 なべややかんに入れて、煮だして飲む。			・ 山菜料理と合わせて実施するとよい。 * この他クコ、ドクダミ、カラスノエンドウ、オオバコなどがある。	
				
安全指導のポイント		・ 熊笹採集時は、長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 ・ フライパンで煎るとき、火の取り扱いに気をつけさせる。		

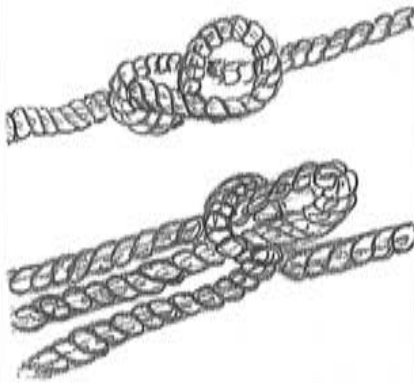
I 自然とのふれあい

B 自然から創る

38	うどんづくり			
ね ら い	・ 食事を工夫して作る楽しさを味わう。 ・ 伝統的な手作りの技術を学ぶ。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	野外キッチン	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
包丁 めん棒 めん板 おわん まな板 ボール 鍋 ゆでかご さい箸 ガスコンロ			施設へ注文	学校（個人）持参
			うどん粉 片栗粉 だし 箸 ねぎ ごま ガスボンベ	ビニル袋
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 作り方の説明を聞く。			・ グループで作らせる。	
2 うどん粉と水を混ぜ、ぬれふき んで包み30分程ねかす。				
3 粉をこねる。				
4 めん棒でのばす。			・ できるだけ薄くのばさせる。	
5 切ってゆでる。			・ 細く切らせる。 ・ 切るとき、ゆでるとき注意をさせる。 ・ 湯をよく切らせる。 ・ ねぎを切る人、だしを作る人、座席 を作る人、配膳する人など手分けさせ る。	
6 みんなで食事をする。			・ 座席などを考え楽しく食事ができる ように工夫させる。	
安全指導の ポイント		・ 包丁を使うとき注意させる。 ・ ゆでたうどんの湯を切るとき、他の人に湯がかからないように 注意させる。		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

39	ロープあそび			
ね ら い	・ 様々なロープの結び方を知り、生活に活用する。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	2 時間	活 動	敷地内	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
ロープ 丸木 結び方見本			施設へ注文	学校（個人）持参
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 資料を見ながら基本的なロープ結びを練習する。 2 引きとけ結び、腰掛け結び、てぐす結びなどいろいろな結び方を練習する。 3 いろいろな結び方を使って遊び場をつくり、遊ぶ。			・ パネルを見て説明をする。	
			・ 個別指導をする。	
			・ 楽しい遊びを工夫させる。 ・ グループごとにローテーションして遊ばせる。 ・ きちんと結べているか点検をする。	
安全指導のポイント		・ 遊び場を作って遊ぶ場合、確実に結べているかどうかを点検してから遊ばせる。		

I 自然とのふれあい

B 自然から創る

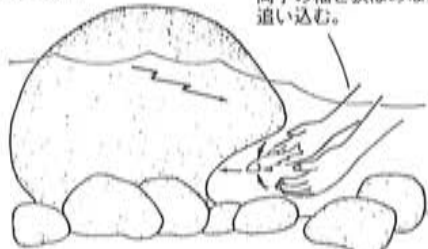
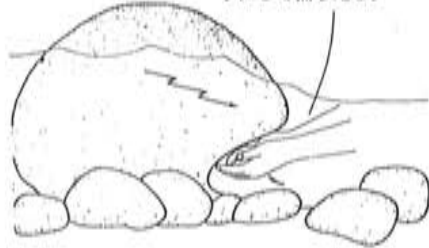
40	つけものづくり			
ね ら い	・ 食事を工夫して作る楽しさを味わう。 ・ 簡単な漬物づくりの方法を学ぶ。 ・ 食事の楽しさと家族への感謝の気持ちを育てる。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 ～ 2 時間	活 動	野外キッチン	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
樽 重石 まな板 ふた 包丁			施設へ注文	学校（個人）持参
			材料（白菜、キャベツ、きゅうり、なす、大根、かぶら等） 塩 こんぶ	ビニル袋
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 野菜を準備する。			・ 大根、かぶら、きゅうりなどのように固いものは薄く切らせる。 ・ 塩加減は、夏場は多めに、冬場は少なめにさせる。 ・ こんぶは切って、野菜の上にばらまかせる。	
2 樽に野菜を一重に入れる。				
3 その上に塩を振りかける。その上にまた野菜を並べ、塩を振りかけることを繰り返す。				
4 樽にふたをして、重石をのせる。				
5 一日おいて食べる。				
＊ 簡単な作り方				
・ 野菜と塩をビニル袋の中に入れる。 ・ よくもむ。 ・ 野菜をしぼる。				
安全指導のポイント		・ 包丁の使い方に注意させる。 ・ 重石を足の上に落とさないように注意させる。		

C 自然に親しむ



I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

1	川遊び			
ね ら い	・ 清流に手や足をついたりして、自然とのふれあいを深める。			
時 期	5 月～10月	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	円山川	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
たも網 長靴 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
				タオル ぞうり バスタオル 水着
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 安全について話し合う。			・ すべるので走らせない。 ・ 手作りの水鉄砲や船などを持参して遊ぶのも良い。	
2 生きものを探す。			・ 石の裏についている虫なども見つけさせる。  両手の幅を狭げめながら 追い込む。	
3 川の流れを使って遊ぶ。			 岩壁に魚を押しつけるよう にして捕らえる。	
4 感想を話し合う。				
安全指導の ポイント	・ 健康観察をする。 ・ ぞうりや長靴をはかせる。走らせない。 ・ 石を投げないように指導する。 ・ 終わった後の健康管理をしっかりとらせる。			

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

2	ターザンごっこ					
ね ら い	・ 野外での遊びの楽しさを味わうとともに、体力づくりや感覚づくりをする。					
	時 期	春 夏 秋	人 数			制限なし
	時 間	半 日	活 動			敷地内
	時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの		
ロープ（太い、細い） プランコ板 救急バッグ				施設へ注文	学校（個人）持参	
				竹 木		
活 動 内 容				留 意 事 項		
1 何種類かの遊び場を作る。 ・ ターザンロープ ・ 木登り ・ つなわたり ・ 基地づくり 等 2 グループごとにローテーションして遊ぶ。 3 新しい遊びを工夫して遊ぶ。				・ ロープの結び方が安全かどうか、枝が折れないかどうかの点検をしっかりとる。		
				・ 各遊び場には必ず指導者がつく。		
安全指導のポイント		・ ロープの結び方をよく点検する。 ・ ロープをかけた枝が丈夫かどうか点検する。 ・ 木からおりるときよく注意させる。				

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

3	ナイトハイク			
ね ら い	- 自然の神秘性を体験し、夜の自然の様子を観察する。 - 暗闇体験を通して、電灯がない時代の生活について理解を深める。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	2 時間	活 動	敷地内	
時 間 帯	夜	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
長靴 トランシーバー 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
				懐中電燈
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 夜の山の中を歩く。			- なるべく少人数のグループごとに歩かせる。 - 月が出ている場合は、月明かりを利用して歩かせる。	
2 静かに音を聞く。			虫や動物の音を聞かせる。	
3 星の観察をする。			懐中電燈を照らしすぎないようにさせる。	
4 全ての明かりを消した後、暗闇の中に見えるものはないか確かめる。			暗闇の中でも、わずかな明かりで見えるものがあることに気づかせる。	
安全指導のポイント		- グループで固まって行動させる。 - 長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。 - 草の中にマムシ等がいるので気をつけさせる。		

4	けもの道体験			
ね	・ 自然の山野で自由に活動し、探求心、冒険心や判断力を養う。			
ら				
い				
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	敷地内	
時 間 帯	日 中	場 所	自然観察路	
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
敷地内の地図 コンパス トランシーバー 長靴 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
				軍手
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 敷地内にいく通りかある探検コースのなかで、どのコースをとるかグループで相談する。			・ 地図の読み方を押さえる。	
2 コース地図に従って探検する。			・ 途中、けものの足跡などを探させる。 ・ 草花を踏みつけたり、採ったり、木の枝を折ったりさせない。 ・ 場所を決めて山の中をストレートに通り抜ける体験をさせてもよい。	
3 発見したことや不思議なことなどをまとめる。			・ 自然に興味を持たせる。	
4 まとめたことを発表する。			* 動物の足跡 	
安全指導のポイント		・ グループで行動させる。 ・ かぶれる草木（ウルシ、ハゼ等）やマムシに注意させる。 ・ 長袖、長ズボンの服装をさせる。		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

5	魚のつかみどり			
ね ら い	・ 魚をつかんだ感触を味わい、自然とのふれあいを深める。 ・ 川魚と食生活の結びつきや魚の調理方法を理解する。			
時 期	春 夏 初秋	人 数	制限なし	
時 間	2 時間	活 動	ジャブジャブ池	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
たも網 調理用具 火箸 パケツ			施設へ注文	学校（個人）持参
			魚 まき 塩	水着か短パン 軍手 ぞうり
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 グループ分けをする。			・ 1 グループ20名程度でさせる。	
2 魚を放流する。			・ 泳ぎ方、逃げ方を観察させる。	
3 魚を自由につかみどりする。			・ 素手でつかませる。 ・ 全くつかめない子も出てくるので、つかんだ子はいったん池から上げるなどの配慮をする。	
4 魚のつくりを観察する。				
5 魚を食べる。				
安全指導のポイント		・ 魚を串に刺すとき、手を刺さないように気をつけさせる。 ・ 火の取り扱いに注意させる。		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

6	自然と友だち			
ね ら い	・ 自然の中での遊びを工夫して遊ぶことにより、自然とのふれあいを深める。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 ～ 2 時間	活 動	敷地内	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
ロープ			施設へ注文	学校（個人）持参
				軍手
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 グループごとに、散策したい場所を決める。			・ 敷地内の地図を見ながら相談させる。 ・ 野山での危険を知らせる。	
2 自然の中での自由な遊びを考え自由に過ごす。 ・ ターザンごっこ ・ 木登り ・ かくれんぼ ・ たんけん 等			・ 樹木や草花を痛めないように遊ばせる。	
				
安全指導のポイント		・ 草むらに入るときは注意させる。 ・ 木にぶらさがったり、登ったりするときは、枝が大丈夫かどうかよく点検してから登るよう指導する。		

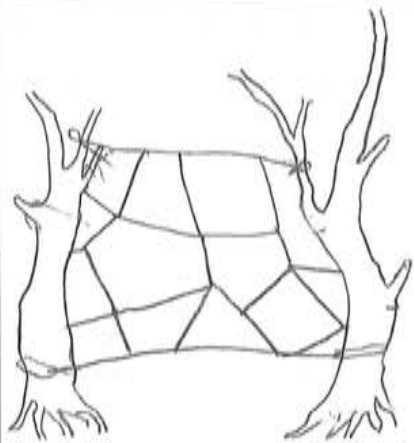
I 自然とのふれあい

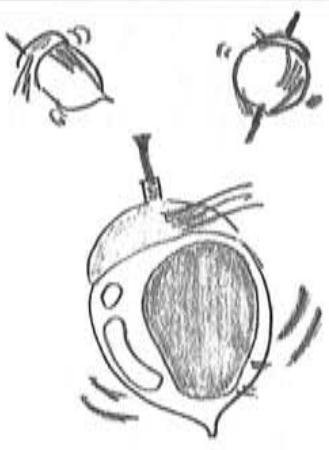
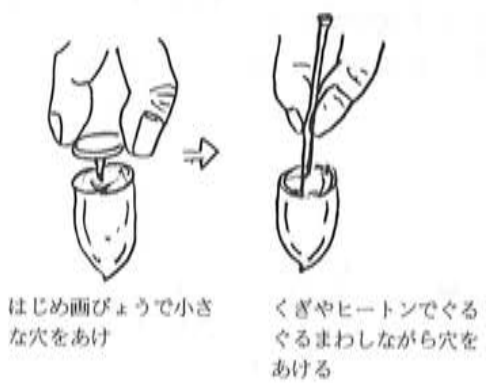
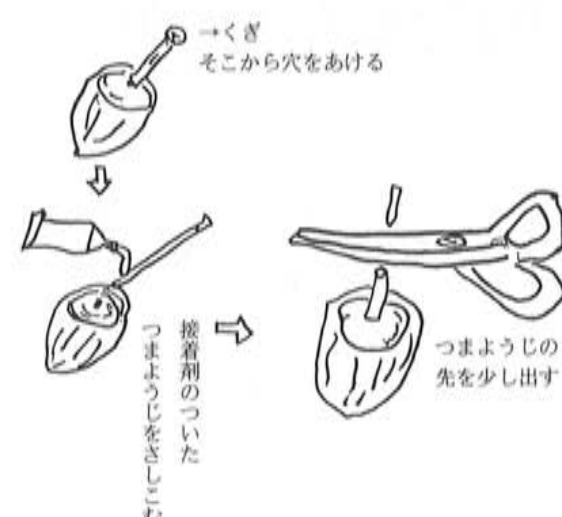
C 自然に親しむ

7	ネイチャーゲーム			
ね	・ 楽しいゲームを通して自然を感じる。			
ら				
い				
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	敷地内	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
聴診器 ロープ 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
				ゲームに必要な物
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 ゲームについての説明を聞く。			・ 安全に活動させる。	
2 ゲームをする。				
(例) ・ 目隠しトレイル……………目隠しをして森の中を歩く。 ・ 大地の窓……………体に落ち葉や枯れ草をかぶせ、合図のあるまで森の一部になる。 ・ 木の鼓動……………木に聴診器を当て、木の内部の音を聞く。 ・ 木の葉のかるととり……………いろいろな木の葉や花、種子などを集め2グループ対抗で指示されたものを取り合う。(植物の名前を熟知しておくこと) ・ 宝さがし……………宝もののリストによって自然の中から探し出す。 ・ グレートハンティング……………一定地域に獲物カードをばらまき、班ごとに1名のハンターと残りの狐犬役でカードをさがす。狐犬はカードを見つけたら、ハンターが来るまで足で踏みつけハンターを呼び、ハンターが取る。 ・ 林間しりととり……………一定区域に5種類のしりとりになる動植物の絵を隠し、班ごとに一斉にさがし、しりとりの構成を作る。 ・ 縄張りあらそい……………ペアで片手つなぎになり、残りの手で立木をロープでくくりつける。				
3 感想を話し合う。				
安全指導のポイント		・ 危険物、危険な場所の点検及び立ち番をする。		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

8	イニシアティブゲーム			
ね ら い	・ 課題をグループで解決することにより自己実現を図り、集団での活動の仕方を学ぶとともに、責任感や問題解決能力を養う。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	敷地内	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
丸太 ロープ たこ糸 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 ゲームについての説明を聞く。			・ 安全に活動させる。 ・ 指導者は教えない。 ・ 時間を十分与え、達成できるように配慮する。	
2 課題に取り組む。				
(例) ・ ビーム（2本の丸太を固定し、グループ全員で一方から反対側に丸太を乗り越える） ・ エレクトリックフェンス（3 m程度の間隔の木 4 本に高さ1.5 mでロープをはり、丸太を一本おく。ロープに囲まれた広場の中からグループ全員が立ち木やロープにふれずに外へでる） ・ バックフライング（1 mほどの高さから、後ろ向き直立の姿勢で後ろに倒れる。他のものは全員で受けとめる。全員交代する） ・ くもの巣（2本の木を利用して地面から30cm～180cmぐらいの範囲でたこ糸を使い、くもの巣をつくる。グループ全員が一方から反対側にくもの巣につかえないように通り抜ける） ・ ラインナップ（3 mほどの間隔の立ち木を利用して、80cmぐらいの高さで丸太を固定する。全員が一行に並び指定された順に丸太の上で並び変わる。立ち木につかまったり、落ちたりしたらやり直す）				
3 感想を話し合う。				
安全指導の ポ イ ン ト	・ 丸太をしっかりと固定する。 ・ ふざけたりしないように安全指導を徹底する。 ・ 各ゲームの場所に指導者がつき、必要な時は必ず補助をする。			

9	どんぐりこま大会				
ね ら い	・ 自然の物を利用して遊び道具を作り、遊ぶことによって自然への興味関心を高める。 ・ 自分たちの力で大会を運営することにより、自主的、実践的な態度を育てる。				
時 期	秋	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	工作館		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
はさみ きり				施設へ注文	学校（個人）持参
				接着剤 くぎ	つまようじ ビニル袋 画びょう
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 どんぐり拾いをする。				・ 長靴を着用させる。	
2 こまづくりをする。				・ きりの取り扱いに注意させる。	
〈穴のあけ方〉				・ つまようじの長さなど工夫させる。	
				・ 個人や班などでいろいろ工夫させる。	
はじめ画びょうで小さな穴をあけ					
くぎやヒートンでぐるぐるまわしながら穴をあける				→くぎ そこから穴をあける	
3 よく回るように手直しをする。				つまようじのついた 接着剤のついた つまようじをさしこむ	
4 大会をする。				つまようじの 先を少し出す	
安全指導の ポイント		・ カッターやきりの取り扱いに注意させる。			

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

10	夜とあそぼう			
ね ら い	・ 視覚だけにたよらず、聴覚、嗅覚、触覚を使って暗闇の自然を感じる。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 ～ 2 時間	活 動	自然観察路	
時 間 帯	夜 間	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
			施設へ注文	学校（個人）持参
				懐中電燈
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 暗い野山の中に感じるものを探す。			・ 木や草の中から人間の姿や顔に見えるものを探させたり、夜に活動する動物の気持ちを考えさせる。	
2 班ごとに時間を決めて、音をたよりに暗闇を歩く。			・ 音をたよりに歩く方向を探させる。	
* 例			・ あまりにも暗すぎる場合は、各班にカンテラやろうそく等を用意する。	
笛の音→竹をたたく音→石の音			・ 各ポイントには、約1分おきに音を出す人を配置する。	
→草の音→木の音→鈴の音			・ 音の順番を知らせてから出発させる。	
3 元の場所に帰って、暗闇で気がついたことを話し合う。			・ 暗闇を素材にした話を作らせてもよい。	
安全指導のポイント		・ 事前にコースの安全、音を出す場所の確認をしておく。		
		・ 長袖、長ズボンを着用させ、長靴を使用させる。		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

11	雲海登山			
ね ら い	・ 早朝登山を通して自然の神秘性、美しさ、偉大さに気づく。 ・ 自分の足で登った達成感を味わうとともに、仲間との連帯感や協調性を育てる。			
時 期	秋	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	朝来山	
時 間 帯	早朝（6時出発）	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
トランシーバー 救急バッグ 無線機 説明用地図			施設へ注文	学校（個人）持参
			弁当	水筒 タオル 帽子 軍手
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 登山についての注意を聞く。			・ コース、意義、安全などについて指導する。 ・ 天候の変化への対応を指示する。 ・ 健康観察をし、必要な指導をする。 ・ グループ別登山やコース別登山等、方法を工夫させる。	
2 出発する。				
3 山頂で朝食を食べる。			・ ゴミはすべて持ちかえらせる。	
4 下山する。			・ 走らないようにさせる。 ・ 植物観察やバードウォッチングをしながら下山させる。	
安全指導のポイント		・ コースは天候や体調などに応じて変更する。 ・ 帽子を着用させる。汗をかいた場合はすぐに体を拭かせる。 ・ 下りで走らせない。		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

12	朝来山登山			
ね ら い	・ 美しい自然の中で、健康な体をつくとともに、強くたくましい精神を育てる。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	朝来山	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
説明用地図 トランシーバー 無線機 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
				タオル 水筒 帽子 軍手
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 登山について話を聞く。			・ コース、意義、安全などについて指導する。 ・ 登山コースをグループで決めさせる。 ・ 健康観察をし、必要な指導をする。	
2 登る。 ・ 植物観察 ・ バードウォッチング			・ グループ別登山やコース別登山等、方法を工夫させる。	
3 山頂で景色をながめる。			・ 眺望を説明する。	
4 下山する。			・ 走らないようにさせる。	
安全指導のポイント		・ 天候、体調に応じて、行程の変更を考える。 ・ 長袖、長ズボン、帽子を着用させ、軍手を持参させる。 ・ 下りで走らせない。		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

13	竹田城ハイキング				
ね ら い	- 地域の歴史や産業を知り、昔の人々の工夫や努力を理解する。 - 強くたくましい心と身体を育てる。				
	時 期	通 年	人 数		制限なし
	時 間	1 日	活 動		竹田城跡
	時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
トランシーバー 竹田城の資料 無線機 地図 救急バッグ				施設へ注文	学校（個人）持参
				弁当	水筒 タオル 帽子
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 施設から竹田城まで歩く。				- 事前調査し、調査ポイントを把握し指導する。 - トイレの場所を知らせておく。 - 交通安全指導をする。	
2 竹田城の歴史を聞く。				事前に学習させる。	
3 食事をする。				ゴミはすべて持ち帰らせる。	
4 下山する。				登山道が急なので十分気をつけさせる。	
安全指導のポイント		- 交通安全に気をつけさせる。 - 施設に帰ったら、ゆっくり休ませる。			

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

14	一人テント			
ね ら い	・ 野外で寝ることにより、夜の自然を感じる。 ・ 一人ぼっちの体験を通して、自己を見つめ自立心を養う。			
時 期	春 夏 秋	人 数	90名	
時 間	1 泊	活 動	キャンプ場 森のスポーツ 広場	
時 間 帯	夜	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
一人用テント 無線機 寝袋 断熱マット			施設へ注文	学校（個人）持参
			まき 虫よけ	懐中電燈
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 自分が泊まるテントを設営する。			・ 健康観察をし、適切な配慮をする。 ・ 天候の変化に対応する計画をしておく。	
2 宿泊する。			・ 多人数の場合はローテーションを組んで泊まらせる。 ・ 静かに夜間巡視をする。	
3 テントを撤収する。				
安全指導のポイント		・ 健康観察をし、必要な指導をする。		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

15	サイクリング					
ね	- 地域の様子を見学し、人々の生活への関心を深める。 - 周辺の自然の様子を観察する。 - 強くたくましい心と身体を育てる。					
ら						
い						
時 期	通 年	人 数	130名			
時 間	1 日	活 動	山東町			
時 間 帯	日 中	場 所	和田山町			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの		
自転車 地図 トランシーバー 無線機 救急バッグ ヘルメット				施設へ注文		学校（個人）持参
				弁当		タオル 帽子 水筒
活 動 内 容				留 意 事 項		
1 地図を見ながら、サイクリングコースを決定する。				- グループごとにコースを決定させるか、選択コースの中から選ばせる。 - 健康観察をし、必要な配慮をする。 - 課題を設定させる。		
2 自転車の練習をする。				ブレーキの使い方やチェンジの切り替え等を十分に練習させる。		
3 サイクリングをする。				- 交通安全に気をつけさせる。 - 危険箇所及びポイントに必ず指導者がつく。		
4 発表会をする。				課題について調べたことを発表させる。		
安全指導のポイント		- 健康観察をしっかりとる。 - 交通安全指導を徹底する。 - 特に下り坂のスピードの出しすぎに注意させる。				

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

16	アドベンチャーハイキング			
ね ら い	・ 友だちと協力し合い、いろいろな問題を解決しながら目的を達成する過程を通して、友だちとのふれあいを深めるとともに、自主性や判断力、連帯感を育てる。 ・ 健康な、身体をつくり、たくましい精神力を養う。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 日	活 動	但馬 丹波	
時 間 帯	日 中	場 所	播磨	
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
冒険先紹介資料 地図 時刻表 交通機関料金表 計画カード 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
			弁当	タオル 帽子 水筒 お金
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 アドベンチャーハイキングの目的と冒険先のコースについて説明を聞く。 2 グループごとにコースを決め、計画を立てる。			・ コースをいくつか提示し、選択させる。 ・ 事前に学習させる。 ・ 計画をチェックし助言を与える。 （経路、時間、交通機関、必要経費、係分担、記録等） ・ 課題を持たせる。 ・ 安全指導を徹底する。 ・ 緊急時の体制を確認しておく。	
3 グループごとに出発する。			・ 指導者は、子どもたちの自主性、主体性を伸ばす指導をする。	
4 分かったことや感想をまとめ、発表する。			・ 困ったこと、おもしろかったこと、学んだこと、みんなで解決したことなどをグループごとにまとめさせる。 ・ 自分たちでやり遂げたことを評価し、生活や活動への意欲を高めるようにさせる。 ・ 楽しい発表会にさせる。	
安全指導のポイント		・ 健康観察をしっかりとる。 ・ 安全指導を徹底する。 ・ コースの下見をして、危険箇所の把握をよくしておく。		

I 自然とのふれあい

C 自然に親しむ

17	雪と友だち				
ね	・ 雪の中でのびのび活動し、五感を通して雪と親しみ、冬の自然への興味関心を育てる。				
ら					
い					
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	芝生広場 森のスポーツ 広場		
時 間 帯	日 中 夜	場 所			
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの		
スコップ バケツ			施設へ注文		学校（個人）持参
活 動 内 容			留 意 事 項		
1 雪の中で遊ぶ約束等を話し合う。			・ 危険な行動をしないよう約束させる。		
2 雪の中で遊ぶ。 ・ 雪上りレー ・ まとあて ・ 雪合戦 ・ 雪浴び ・ 雪玉作り ・ そり遊び			・ 雪の中に石や植木がない所で活動させる。 ・ 雪の大玉作りから雪像作りへと続けさせる。 ・ かまくらを作って、夜、ローソクで明かりをつけ、その中で過ごさせる。		
3 雪を使って作る。 ・ 雪だるま ・ 雪像 ・ かまくら ・ アイスクリーム			・ 雪が落ちる様子、冬芽、足跡等を観察させる。		
4 雪の山林を歩く。			・ 雪の中に道具が残ることがあるので数を確認する。 ・ 健康管理に十分気をつける。		
5 感想を話し合い、かたづける。					
安全指導のポイント		・ 道具で怪我をしないよう指導する。 ・ 顔に雪玉をあてないよう指導する。			

D 自然を守る



I 自然とのふれあい

D 自然を守る

1	山の仕事			
ね ら い	・ 木を育てることの必要性や苦勞、楽しみなどについて話を聞き、自然を愛する心を育てる。 ・ 枝うち作業を通して、勤勞体験のすばらしさを学んだり、先輩から後輩へと受け継ぎ、山を守っていくことの大切さを学ぶ。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 日	活 動	敷地内	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
なた のこぎり 無線機 救急バッグ ヘルメット 長靴 脚立			施設へ注文	学校（個人）持参
				軍手 タオル 水筒
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 山の仕事について話を聞く。			・ 植林関係者の協力を得るとよい。	
2 枝うちの仕方について話を聞く。			・ 道具の正しい取り扱い方を指導する。 ・ ハチなどに気をつけさせる。	
3 グループごとに作業をする。			・ 近くで、すぐに指導できるように、指導者を配置する。 ・ なたや枝を振り回したりしないように気をつけさせる。 ・ 払った枝は、薪にするので小さく切り、指定の場所に運ばせる。	
4 枝うちの感想を話し合う。			・ ノートや模造紙にまとめる。	
安全指導のポイント		・ 道具の正しい使い方を指導する。 ・ 長袖、長ズボンを着用し、長靴、軍手を使用させる。		

I 自然とのふれあい

D 自然を守る

2	下草刈り				
ね ら い	・ 下草刈りの必要性を学び、山林を育て愛護する心を育てる。				
時 期	春 夏 秋	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	敷地内		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの		
鎌 長靴 救急バッグ			施設へ注文		学校（個人）持参
					軍手 タオル 帽子 水筒
活 動 内 容			留 意 事 項		
1 下草の刈り方について話を聞く。			・ 下草刈りの必要性について話を聞かせる。 ・ 鎌の使い方をよく指導する。 鎌の持ち方、刈り方、刈る姿勢		
2 グループごとに場所を決める。			・ 場所は施設職員と相談する。		
3 下草刈りをする。			・ かぶれるおそれのある木や草に注意させる。 ・ 軍手をさせる。 ・ 刈ったあとの草の処理は施設職員と事前に相談する。		
4 後かたづけをして、感想を話し合う。					
安全指導のポイント		・ 鎌で足を切らないように注意させる。 ・ マムシやハチについて事前指導する。 ・ 長靴、軍手を使用させる。			

I 自然とのふれあい

D 自然を守る

3	植 樹			
ね	・ 自然学校を体験できたことへの感謝の気持ちを養う。 ・ 植樹することにより、自然を守ろうとする心を育てる。			
ら				
い				
時 期	春・夏・秋	人 数	制限なし	
時 間	1 時間	活 動	敷地内	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
スコップ バケツ くわ つるはし 長靴 かけや			施設へ注文	学校（個人）持参
			苗 添木用くい	学校で育てた苗木 軍手
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 植樹することの意義を話し合う。			・ 施設職員と相談する。 ・ 植林関係団体の協力を得るとよい。 * 苗はどんぐりを発芽させたものを使っても良い。	
2 植樹場所を整地する。				
3 植樹をする。				
安全指導のポイント		・ 長靴、軍手を使用させる。 ・ つるはし、スコップの使い方に注意させる。		

4	石けんづくり			
ね ら い	・ 廃油から石けんを作ることにより、資源の有効利用について関心を高める。 ・ より良い環境を守っていかこうとする態度を育てる。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	野外キッチン 自然観察館	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
一斗缶 はかり バケツ ガスコンロ リットル升			施設へ注文	学校（個人）持参
			水酸化ナトリウム ソーダ灰 廃油 ガスボンベ	軍手
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 廃油、水、水酸化ナトリウムを混ぜる。			・ 水酸化ナトリウムは教師が扱う。 * 缶に廃油 2 kgと水 3 ㎖と水酸化ナトリウム0.3 kgの割合で入れる。	
2 小さい缶に小分けし加熱する。			・ 火の取り扱いに注意させる。 ・ 棒でかき混ぜ、吹きこぼれないようにさせる。	
3 ソーダ灰を加える。			・ 教師が扱う。	
4 型に入れて固める。			・ さめてから取り出させる。	
5 石けんを使って手を洗ったり、洗濯をしたりしてみる。				
安全指導のポイント		・ 水酸化ナトリウムやソーダ灰は、教師が取り扱う。 ・ 火の取り扱いに注意させる。		

I 自然とのふれあい

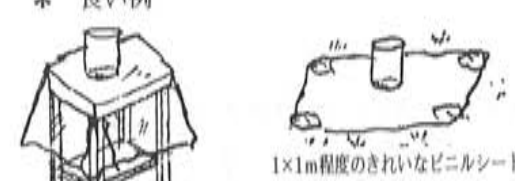
D 自然を守る

5	アルミ缶ブローチ			
ね ら い	・ アルミニウムの空缶を利用して、アクセサリを作ることにより、資源の有効利用に関心を持つ。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	野外キッチン	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
はさみ 鉄の空缶 砂 ペンチ やすり			施設へ注文	学校（個人）持参
			炭	布 金属磨き 金属用接着剤
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 アルミ缶の内外を洗い、乾かす。			・ 一つのペンダントを作るのに空缶を1個用意させる。	
2 アルミ缶をふたつに切る。				
3 炭をおこし、鉄の缶を乗せて、熱する。			・ 下から十分に空気を送らせる。	
4 器に砂を入れ、作りたい形の物を押し込んで形をつくる。			・ レンガの上にアルミの溶けたものを落としても面白い形ができる。	
5 鉄の缶が真っ赤になったらアルミ缶を入れて溶かす。			・ アルミ缶は必ず切り口を上にして入れる。	
6 溶けたアルミを型に流し込む。			・ アルミが溶けて表面に薄い膜ができるがそのままにしておく。	
7 水に入れて冷やす。			・ ペンチで鉄の缶をつかみ静かに流し込ませる。	
8 やすりで削る。				
9 布で磨く。			・ 金属みがきを布につける。	
10 接着剤でブローチピンをつける。			・ 金属用接着剤を使用させる。	
			・ ペンダントにするなら、ドリルで穴を開ける。	
安全指導のポイント		・ アルミ缶の切り口を上に向けて溶かす。 ・ 火傷をしないよう、静かに型に入れさせる。		

I 自然とのふれあい

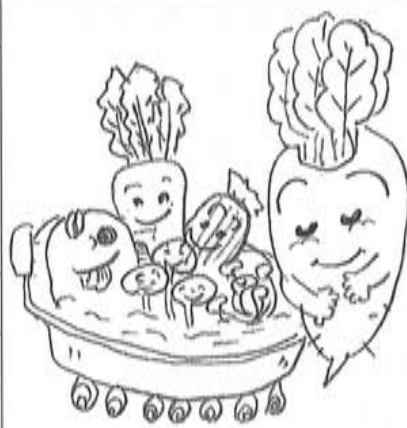
D 自然を守る

6	水中生物と水質検査			
ね ら い	- 水中にもいろいろな生物が住んでいることに気づく。 - 水中にすむ生物の種類によって、水質を調べることができるようにする。 - 美しい川の大切さについて関心を深め、環境を守っていかうとする態度を育てる。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半日～1日	活 動	自然観察館 円山川など	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
水中生物図鑑 バケツ ルーペ ペトリ皿 バット ピンセット 木の枠 解剖顕微鏡 顕微鏡 水中生物と水質の資料 長靴			施設へ注文	学校（個人）持参
				水着や短パン ぞうり 帽子 タオル
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 調査場所を決める。			グループごとに違った場所から採集させる。	
2 木の枠をおき、その範囲内の生物を採集する。			- 下流に網を用意して生物が流されたりつぶれたりしないように採集させる。 - バケツに入れさせる。	
3 生物を観察する。			- バットに移し変えてから、ペトリ皿に同じ種類ごとに分け、名前、数などを調べさせる。 - 天気がよければ現地で、雨の場合は施設に持ち帰って調べる。	
4 生物と水質の関係を調べる。			水中生物と水質の資料によって、水質を調べ、まとめさせる。	
安全指導のポイント		- 採集時は長靴等をはかせる。 - 採集場所の安全を確認する。 - 川床はすべりやすいので気をつけさせる。		

7	雨水の酸性度しらべ			
ね ら い	・ 大気汚染について関心を持たせるとともに、雨水の異常について調べる技術を身につける。 ・ 環境問題について考えさせ、自然を愛する心を育てる。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	2 時間	活 動	自然観察館	
時 間 帯	日中（雨天）	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
酸性雨調査の道具 ビーカー ビデオソフト			施設へ注文	学校（個人）持参
			PHパックテスト	
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 調査の方法の仕方について話を聞く。			・ 不純物が入らないように直接雨水をとる。	
2 雨水を集め、調べる。				
* 良い例  1×1m程度のきれいなビニルシート * 悪い例 				
3 酸性雨について話し合う。			・ 酸性雨が人間にどんな影響を与えるのか話し合わせる。 ・ ビデオ、写真などを見ながらより現実のものと感じさせる。 ・ 酸性雨の原因や地球規模の現象であることを知らせる。	
安全指導の ポイント				

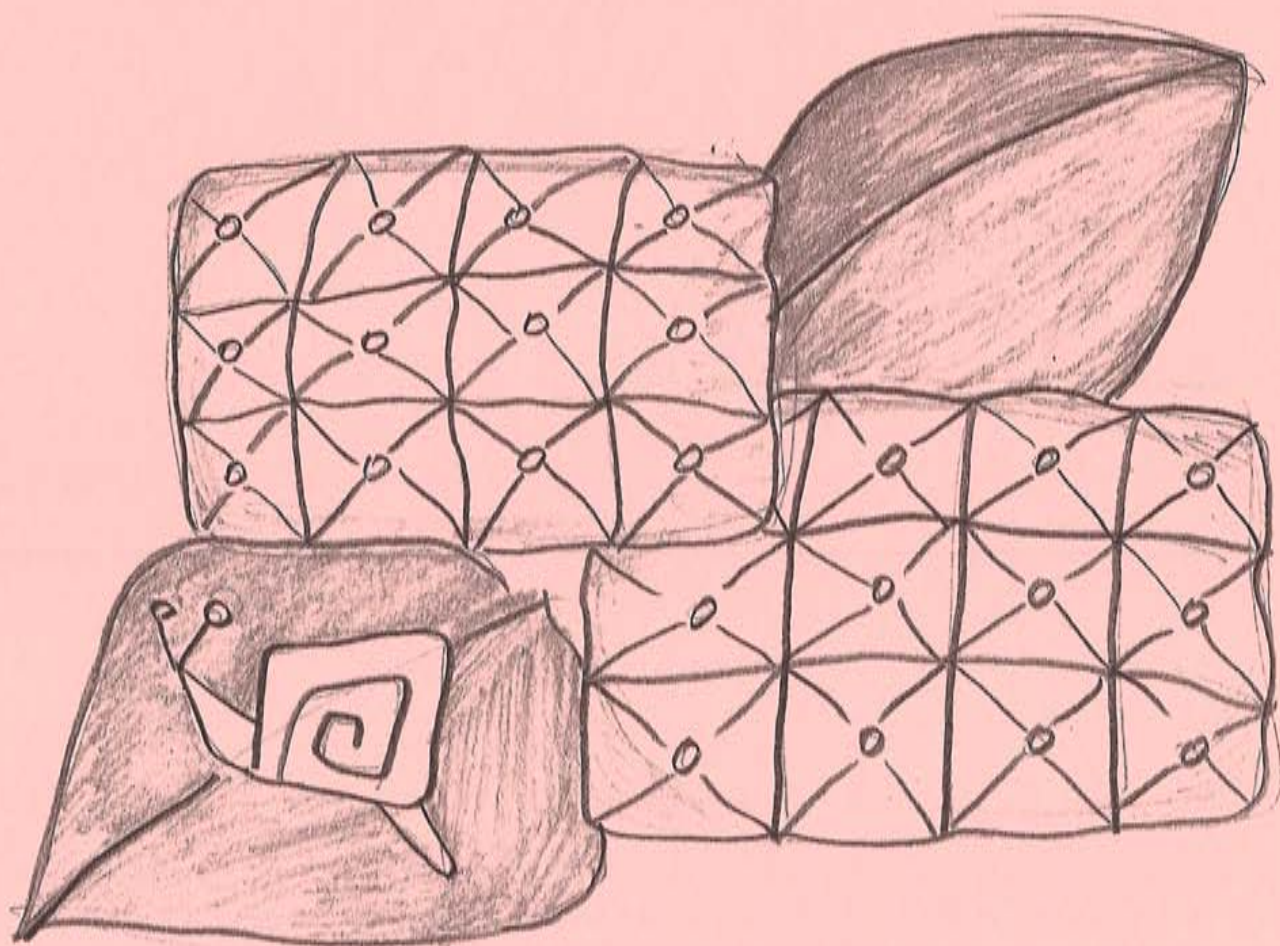
I 自然とのふれあい

D 自然を守る

8	ゴミなし料理			
ね ら い	・ 買い物や料理をする中で、消費生活のあり方が環境と結びついていることを知り、自分たちの生活を工夫しようとする意欲や態度を育てる。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 日	活 動	野外キッチン	
時間帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
野外炊事用具 自転車 ヘルメット			施設へ注文	学校（個人）持参
			まき	軍手 ふきん お金 ナップサック
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 ゴミの出ない買い物の工夫について話し合う。			・ 必要な量だけ買う、無駄な包装をさける等について話し合わせる。 ・ 材料のすべてを使う料理の工夫をさせる。	
2 買い物をして、料理を作る。			・ 交通安全に気をつけさせる。	
3 どうしても残った物について考える。			・ 残ったものを分別し、目の前に置いて活用を考えさせる。 材料の端……料理して食べる。 入れ物……活用を考える。	
4 燃えないゴミを燃やしてみる。			・ 燃えないゴミが本当に燃えないのか実験し、記録させる。	
* 観察項目 燃え方、炎の色、煙の色と臭い 燃えかすの色と様子、燃えつきた時間			* 生ゴミや燃えないゴミを種類別に分け、どれも5cm四方に切り、スチール缶の中に入れ、下から焚火で熱する。	
5 生活する上でゴミを少なくする方法を話し合い、まとめる。			・ ゴミによっては処理に困ったり、有毒ガスを出すものがあることに気づかせる。	
安全指導のポイント		・ 交通安全について指導する。 ・ 包丁の使い方や火の取り扱いに気をつけさせる。		

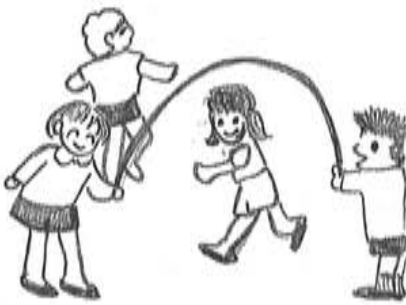
II 人とのふれあい活動

A 人に学ぶ



II 人とのふれあい

A 人に学ぶ

1	軽スポーツ			
ね ら い	- 運動することの楽しさを知る。 - 軽スポーツを楽しむ技術、態度を身につけることで、生活のあらゆる機会を通してスポーツを楽しむ習慣を養い、スポーツを生活化する。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	森のスポーツ	
時 間 帯	日 中	場 所	広場 芝生広場	
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
ゲートボール フリスビー 長なわ ミニサッカー ペタンク グラウンドゴルフ ターゲットボードゴルフ ディスクゴルフ ソフトバレーボール キャッチング・ ザ・スティックどんばあ ロープ・ジャンプ レッツ・ プレー・バンブー パージャンプ リング・キャッチ サークル・ジャンプ 得点表			施設へ注文	学校（個人）持参
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 準備運動をする。			- 各種目ごとのルールが定着するよう指導をする。 - 数種目をローテーションして実施するのもよい。 - 特に、スティックを利用する場合は相手との距離を十分にとらす。	
2 軽スポーツを楽しむ。				
3 整理運動をする。				
4 後かたづけをする。				
安全指導のポイント		- 準備運動、整理運動をしっかり行う。 - 各種目の特性に応じて、安全面の注意を徹底する。		

II 人とのふれあい

A 人に学ぶ

2	オリエンテーション			
ね ら い	・ 施設が有効かつ安全に利用できるように、使用上の注意を知る。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	30 分	活 動	大屋根広場	
時 間 帯	日 中	場 所	生活棟	
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
ビデオデッキ ビデオテープ			施設へ注文	学校（個人）持参
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 施設の利用の仕方について説明を聞く。			・ 児童にとって施設を利用することが楽しくなるように説明する。 ・ 健康安全に気をつけることが一番大切であることを強調する。 ・ 入校式等が長びいていたり、児童が疲れていて周知徹底させることが難しいときは、各生活棟ごとに話してもらう。	
2 オリエンテーションビデオを見る。			・ ビデオは、事前に学校で視聴してもよい。	
安全指導のポイント		・ 日常の生活環境との違いからおきる怪我や病気について十分指導する。		

3	自然学校発表会			
ね ら い	・ 自然学校の中で調査研究したことや創作したもの等を発表する。 ・ 日頃学校ではできない学習の意義に気づき、友だちの良さや素晴らしさを発見し、相互の個性の伸長を図る。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 時間～半 日	活 動	生活棟 自然観察館	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
マイク ホワイトボード 視聴覚機器			施設へ注文	学校（個人）持参
				筆記用具 模造紙 マジック
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 発表のテーマを決定する。 ・ 水辺の生き物について ・ 自然観察路の植物について ・ 竹田城の歴史について ・ はさまの古墳について 等			・ 個人やグループでテーマを決定させる。	
2 発表内容をまとめる。			・ テーマ設定理由、調査方法、わかったこと、感想等ポイントをしばってまとめさせる。	
3 発表する。			・ まとめ、発表等すべての児童が手分けをして作り上げさせる。	
4 感想を話し合う。			・ それぞれの良さを認め合い、自由研究へと発展するように指導する。 ・ 発表したものをしばらく展示させる。	
安全指導の ポイント				

II 人とのふれあい

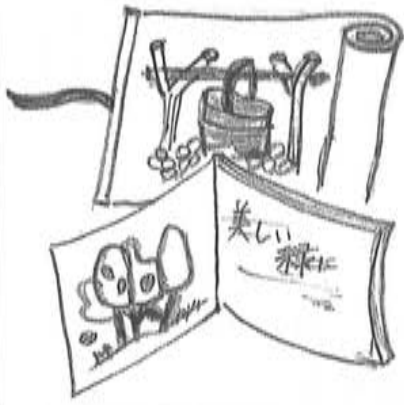
A 人に学ぶ

4	家族への手紙			
ね ら い	・ 自然学校での様子を手紙などで知らせ、家族愛を培う。 ・ 手紙を書く機会を与えて、書き方についての理解を深める。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 ～ 2 時間	活 動	生活棟	
時 間 帯	フ リ ー	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
郵便番号簿			施設へ注文	学校（個人）持参
				筆記用具 切手 はがき 便箋 封筒
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 手紙、はがきの基本的な書き方について説明を聞く。			・ 楽しかったこと、新しく学んだことなど、自然学校での様子がよくわかるように書かせる。 ・ 郵便番号、住所、氏名など書きまちがいや抜かしているところがないか点検させる。 ・ 手紙は、切手を各自で貼らせる。 ・ 自然学校の前半に書き、投函する方がよい。 ・ 施設のポストを利用させる。	
2 各自、自然学校における活動や生活を振り返り、手紙に書き表す。				
3 書いた文やあて先等を見直す。				
4 手紙を投函する。				
安全指導の ポ イ ン ト				

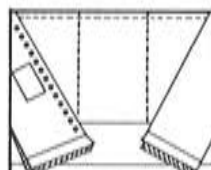
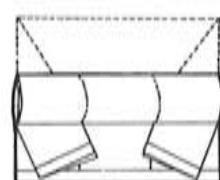
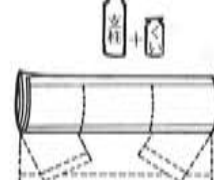
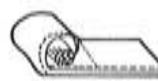
II 人とのふれあい

A 人に学ぶ

5	作品鑑賞会			
ね	・ いろいろな作品を鑑賞することにより、創作のすばらしさや喜びを味わう。 ・ 友だちや地域の人々とのふれあいを深める。			
ら				
い				
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	2 時間	活 動	工作室	
時 間 帯	日 中	場 所	自然観察館	
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
展示板 長机			施設へ注文	学校（個人）持参
				クリップ
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 作品展示の準備をする。			・ 全員で協力して、準備をさせる。 ・ 地域の人を招待する場合は、事前に案内状を作らせ配布する。（施設職員と事前に打ち合せをする。）	
2 作品を展示する。			・ 展示の仕方を工夫させる。 ・ 作品を大切に取扱わせる。 ・ 説明や工夫、苦勞についての一言メッセージをつけさせても良い。	
3 作品を鑑賞する。			・ 工夫しているところ、すばらしいところなど、友だちの作品のよいところを認め合わさせる。	
安全指導のポイント				

6	自然学校の絵本・絵巻物づくり			
ね	・ 自然学校の思い出を絵本や絵巻物に表現し、創作の喜びを味わうとともに、自然学校のまとめをする。 ・ 簡単な絵本や絵巻物の作り方を理解する。			
ら				
い				
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半日～1日	活 動	生活棟	
時 間 帯	日 中	場 所	工作室	
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
はさみ カッターナイフ カッティングマット			施設へ注文	学校（個人）持参
			のり 巻き紙	筆記用具 絵の具 マジック 画用紙 厚紙 模造紙
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 自然学校の思い出に残るいろいろな場면을絵日記風に画用紙か模造紙にまとめる。 2 表紙、とびら、裏表紙、目次などを作る。 3 それぞれを張り合わせ、絵本としてまとめる。 4 お互いに鑑賞する。			・ 絵と説明をかかせる。それぞれかく場所を工夫させる。 ・ 思い出は、毎日の反省として作っておけばはやくできる。 ・ 絵巻物の場合は、巻紙に貼るか、直接描かせてもよい。 ・ 色画用紙か色模造紙などに貼らせる。 ・ 絵巻物の場合は、ひもをつけとめられるようにする。 ・ 時間があれば飛び出す絵本形式にしたり、装丁をしっかりとせたりする。 ・ 友だちの良いところを見つけ合うようにさせる。	
安全指導のポイント		・ カッターナイフ等の正しい使い方を指導する。		

7	テント設営			
ね ら い	・ テント設営の基本的技術を身につける。 ・ 自分の役割を果たしながら、協力することの大切さを学ぶ。			
時 期	春 夏 秋	人 数	制限なし	
時 間	2 時間	活 動	キャンプ場 森のスポーツ 広場	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
テント一式 寝袋 断熱シート			施設へ注文	学校（個人）持参
				軍手 タオル 帽子
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 場所を決め、地面を整える。			・ 入り口は傾斜下、風下にさせる。	
2 グラウンドシートを敷き支柱の位置を決めて、親綱を張る。 （南但馬自然学校のテントは、グラウンドシートと一体型）			・ テントの中に入っている用具と数を確認させる。 ・ ランナーがないときは、自在結びをさせる。	
3 出入口を閉め、四隅の角綱を張る。			・ 二組の角綱がそれぞれ対角線上にくるように位置を決めさせる。	
4 残りの腰綱を張る。				
5 裾布をグラウンドシートの下に敷き込む。				
6 フライシートを同じ要領で張る。			・ 張り終わったら、テント袋、マレット等をまとめさせる。 ・ 夜間に張り綱につまづかないよう、白布等を巻かせる。 ・ 荷物は、非常時に対応できるようにまとめさせる。 ・ 晴れた日は、テントの風通しをよくして乾燥させる。	
安全指導のポイント		・ ペグを打ち込むとき、指を打たないように注意させる。 ・ 軍手をして作業をさせる。		

8	テント撤収				
ね ら い	・ テント撤収の技術を身につける。 ・ 各自の役割を果たしながら、協力することの大切さを学ぶ。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	2 時間	活 動	キャンプ場 森のスポーツ 広場		
時間帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの		
			施設へ注文		学校（個人）持参
					軍手
活 動 内 容			留 意 事 項		
1 撤収作業を始める数時間前から テントの出入口を開け、通風をよく する。 2 テント内の荷物を外へ出し、グ ランドシート、フライシートをは ずし、よく汚れを取る。 3 ペグをぬき、水洗いをして泥を 落とし乾燥させる。 4 テント本体の汚れを落とす。 5 張り綱類は、短く結わえる。 6 本体をたたむ。 7 付属品の数を確認して入れる。			・ ビニルコーティングされていない面 は、ぬれぞうきんでふかせない。 * テントのたたみかた(家形テント)の1例  1. とびらを閉め、ロープをゆる めて、地面に平らに横たえる。  2. とびらを中央へ折り込み、す べてのロープをたぐってしま い込む。  3. むねの方から中へ折り（収納 袋のサイズに合わせて三ツ折 か四ツ折かきめる）。  4. ウォールの方を次に折る。  5. 支柱とくいの入った袋を中 に巻き込んでテントを巻いていく。  6. 収納袋（こん包袋）へ納める。		
安全指導の ポ イ ン ト					

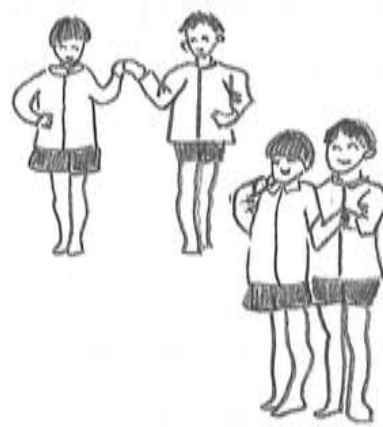
II 人とのふれあい

A 人に学ぶ

9	施設職員との交流会			
ね	・ 施設職員とのふれあいを深める。			
ら				
い				
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 ～ 2 時間	活 動	敷地内	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
ラジカセ マイク フォークダンステープ 等			施設 へ 注 文	学校（個人）持参
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 自己紹介をする。			・ 司会、進行は児童にさせる。	
2 ゲームをしたり歌を歌ったりする。			・ 自然学校の1日目にオリエンテーションをかねて実施するのも効果的である。	
3 お礼の言葉を言う。			・ 代表または、一人一人にさせる。	
安全指導の ポ イ ン ト				

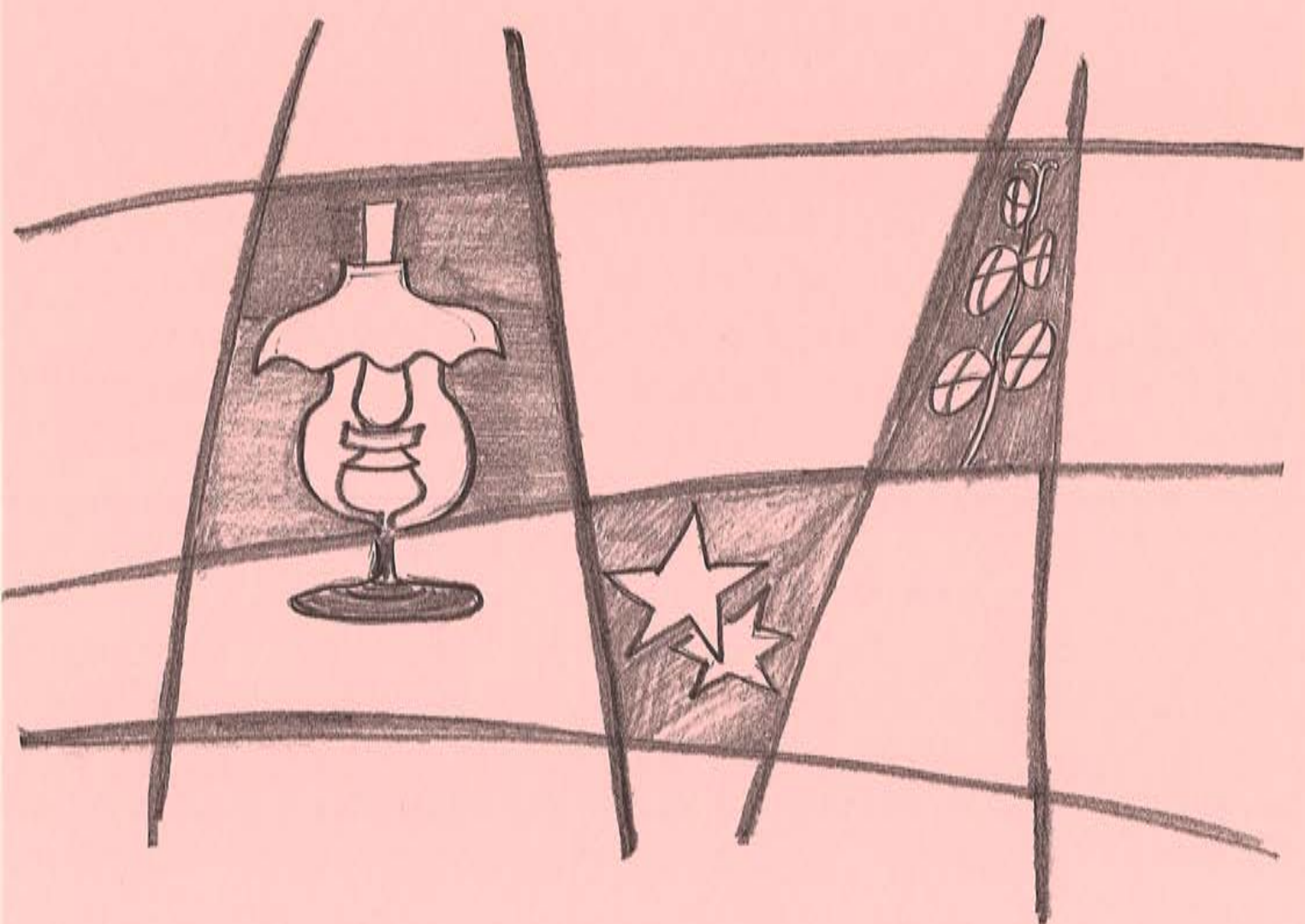
II 人とのふれあい

A 人に学ぶ

10	レクリエーション (フォークダンス・レクリエーションダンス)				
ね	- 楽しく踊ったり歌ったりして、児童相互のふれあいを深める。 - フォークダンスの正しい踊り方を身につける。				
ら					
い					
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	2 時間	活 動	森のスポーツ		
時 間 帯	日 中	場 所	広場 芝生広場		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの		
カセットデッキ テープ			施設へ注文		学校（個人）持参
活 動 内 容			留 意 事 項		
1 曲を聞き、どんな踊りであるか 雰囲気をつかむ。 ・マイム・マイム ・オクラホマ・ミクサー ・コロブチカ ・幸せなら手をたたこう ・タタロチカ ・ジェンカ 2 少しずつ区切って練習する。 3 曲を通して練習する。 4 いろんな曲を練習する。 5 楽しくおどる。			・ ステップや回る方向をしっかりと覚えさせる。 ・ レクリエーションダンスは、自分達で踊りを創作したり工夫させる。		
安全指導の ポイント					

11	自然学校新聞づくり			
ね ら い	- 情報の集め方や新聞としてのレイアウトの取り方などの作業を通して、新聞づくりの方法を理解する。 - 自然学校の新聞づくりを通して、人とのふれあいを深める。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半日～1日	活 動	生活棟 工作室	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
展示板 印刷機 コピー インスタントカメラ			施設へ注文	学校（個人）持参
				筆記用具 印刷機用原稿用紙 フィルム（ポラロイドス ペクトラ）画用紙 模造紙 マジック
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 新聞づくりの方法について話を聞く。			- 楽しいこと、がんばっていることが表れるように工夫させる。 - それぞれの特技が発揮できるように役割分担を考えさせる。	
2 どんな新聞を作るか構想を練る。				
3 記事を集め、新聞づくりをする。				
4 展示し紹介し合う。			- 取材の仕方をよく指導しておく。 - レイアウトを工夫させる。	
安全指導の ポイント			- お互いの特徴や良さを見つけさせる。 - 印刷したものは、学校や家に送ったり、地域に配布してもよい。	

B 共に生きる

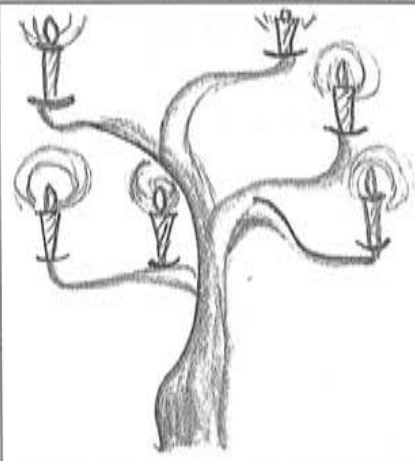


Ⅱ 人とのふれあい

B 共に生きる

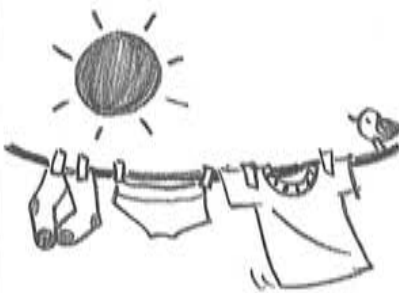
1	学級パーティー			
ね ら い	- 人間関係を深め、思いやりの心や協力する心を養う。 - 手作りのおやつの作り方を学ぶ。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	野外キッチン	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
野外炊飯道具 ガスコンロ 自転車 ヘルメット			施設へ注文	学校（個人）持参
			まき ガスボンベ	軍手 ナップサック お金
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 おやつを何にするかを決める。			- 金額内で材料や量等を考えさせる。 - 手作りのおやつにさせる。 - 買い物係、準備係等手分けをさせる。	
2 買い物に行く。			お店ではきまりを守って買わせる。	
3 おやつ作りをする。			- みんなで協力して作らせる。 - 包丁や火の取り扱い方に気をつけさせる。	
4 会場を整えて会食する。			座席など工夫させる。	
5 みんなで遊ぶ。			ふれあいスペースや芝生広場を使って、グループごとや学級全員でゲームなどをして人間関係を深めさせる。	
6 後かたづけをする。			- 生ゴミの始末をきちっとさせる。 - 借りた道具は、数を確認して返させる。	
安全指導のポイント		- 自転車を利用する場合は、乗り方を十分指導する。 - 交通安全指導を徹底する。 - 包丁や火の取り扱いに注意させる。		

2	自然学校ファイヤー			
ね ら い	- 火を囲み、これからの自然学校に向けての決意を新たにする。（前半） - 仲間達との生活を振り返り、友情と親睦をさらに深めさせ、今後の学校生活に向けて決意を新たにする。（後半）			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 ～ 2 時間	活 動	大屋根広場 ファイヤー場	
時 間 帯	夜	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
アコーディオン キーボード ギター マイク なた パケツ			施設へ注文	学校（個人）持参
			トーチ棒 灯油 ファイヤー用のまき	スタンプの道具
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 点火する。			- 自然学校に向けての意欲や自然学校で学んだことをグループや個人で発表させる。 - 発表時間は5分程度とし、体を使って表現させる。 - ゲームや歌なども入れて楽しい雰囲気をつくる。 - 仰向けに寝転び、星空を観察したり動物や虫の鳴声、葉のふれあう音などを聞く。 - 火をだんだん小さくしていく。 - 火を分火する。 - 分火の時は、火を受け取る側からトーチ棒を差し出させる。 - 燃えかすの処理は、翌朝にさせる。	
2 発表の集いをする。				
3 自己を見つめる。				
4 分火する。				
安全指導のポイント		- ファイヤーの火を必要以上に大きくしない。 - トーチ棒で火傷をしないように正しい持ち方を指導する。		

3	キャンドルサービス			
ね	・ 自然学校での生活を振り返るとともに、キャンドルを囲んで神秘的な光の中で、ゲームをしたり歌を歌ったりして楽しく過ごす。			
ら				
い				
時 期	通 年（冬季）	人 数	制限なし	
時 間	1 ～ 2 時間	活 動	自然観察館	
時 間 帯	夜	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
キャンドル台 アコーディオン キーボード			施設へ注文	学校（個人）持参
			ろうそく アルミホイル	衣装 スタンツ用具
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 点火する。 2 発表の集いをする。 3 分火する。			・ 地域に伝わる民話等を劇化して、発表させる。 ・ 新しく発見したことを、体を使って発表させる。 ・ 各グループの発表は、5 分程度にさせる。 ・ ゲームや歌なども入れて楽しい雰囲気をつくる。	
			・ 静かな歌を歌わせる。 ・ 分火用のろうそくの配り方をしっかりと打ち合わせをする。 ・ 分火の時は、火を受け取る側からろうそくを差し出させる。 ・ ろうそくの回収や退場の方法など決めておく。	
安全指導のポイント		・ ろうそくで火傷をしないよう正しい持ち方を指導する。		

4	清掃活動			
ね ら い	みんなで力を合わせて清掃し、勤労の喜びや感謝する心を養う。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 時間	活 動	生活棟	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
清掃道具			施設へ注文	学校（個人）持参
				雑巾
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 清掃の方法や分担について話し合う。 2 清掃をする。 3 清掃用具の後かたづけや点検をする。			- 清掃場所については、施設職員と相談する。 - すみずみまできれいにさせる。 - 来たときよりも美しくを目標に、清掃に取り組ませる。 - ゴミは、燃えるゴミと燃えないゴミに仕分けさせる。 - 掃除終了後、施設職員に連絡する。	
安全指導のポイント				

5	スタンツ練習			
ね ら い	・ 自然学校ファイヤーを感動的でより思い出に残るものにさせるために、創意工夫をして表現する。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	2 時間	活 動	生活棟	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
カセットデッキ			施設へ注文	学校（個人）持参
				スタンツの道具
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 テーマや素材、表現方法について話し合う。			・ 自然学校の中でのできごとを素材にさせる。	
2 スタンツを作る。			・ 身の回りにある材料を使った扮装を考えさせる。 ・ 発表時間は、1 グループ 5 分程度にさせる。 ・ 動作を大きく、声がよく通るように表現させる。	
安全指導の ポ イ ン ト				

6	洗濯実習			
ね ら い	・ 洗濯の基本的な技術を身につける。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 時間	活 動	風呂場 生活棟	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
たらい 洗濯板 ロープ 洗濯機 乾燥機			施設へ注文	学校（個人）持参
			洗剤	洗濯ばさみ
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 洗濯の仕方について説明を聞く。			・ 洗濯機を使うか洗濯板を使うかは、 学校で選択する。	
2 簡単に洗濯できるものを準備する。 ・ 靴下 ・ ハンカチ ・ 体操服 ・ シャツ 等			・ 洗うものは児童の気持ちを配慮し、 決めさせる。	
3 洗濯する。			・ 洗濯機や乾燥機の使い方を指導する。	
4 干す。				
5 後かたづけをする。				
安全指導の ポイント				

7	入校式・退校式			入校式 	
ね ら い	- 自然学校に対する決意を新たにしたり、自分の目標を再確認したりして、より充実した自然学校とするための心構えを持つ。 - お世話になった方々に対する感謝の気持ちや自然学校の思い出を心に留める。				
	時 期	通 年	人 数		制限なし
	時 間	30分	活 動		大屋根広場 芝生広場
	時 間 帯	入退校時	場 所		
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
カセットデッキ マイク				施設へ注文	学校（個人）持参
					校旗
活 動 内 容				留 意 事 項	
入校式 1 開 会 2 校旗掲揚 3 校長先生のお話 4 南但馬自然学校長のお話 5 児童代表の言葉 6 施設の使い方について 7 連 絡 8 閉 会 <					

II 人とのふれあい

B 共に生きる

8	歌の練習				
ね ら い	・ 簡単な合唱や輪唱ができるようにする。 ・ 歌うことの楽しさを味わう。				
	時 期	通 年	人 数		制限なし
	時 間	2 時間	活 動		生活棟
	時 間 帯	フ リ ー	場 所		
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
カセットデッキ アコーディオン ギター キーボード				施設へ注文	学校（個人）持参
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 歌を決める。				・ 目的に応じた歌を選曲させる。	
2 楽しく歌う。				・ 全員で歌ったり、グループに別れて歌わせる。	
安全指導の ポ イ ン ト					

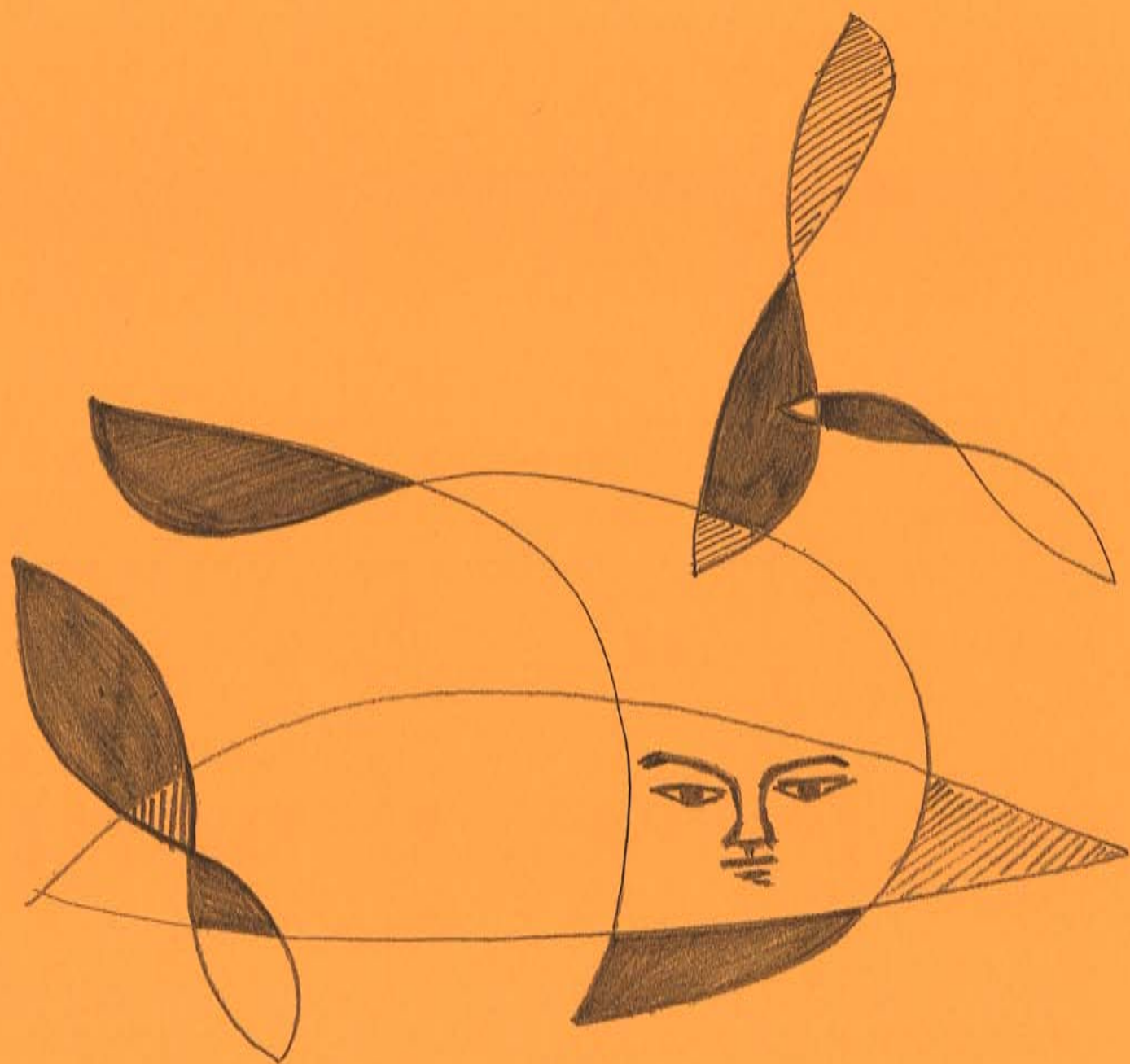
9	お年寄りへの便り			
ね	・ 手紙を書くことにより、思いやりの気持ちやお年寄りへの感謝の気持ちを養う。			
ら	・ 手紙の書き方を身につける。			
い				
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 時間	活 動	生活棟	
時 間 帯	フリー	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
郵便番号簿 地域のお年寄りの名簿 自転車 ヘルメット 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
				筆記用具 切手 はがき 便箋 封筒
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 便りを出す相手を確認する。			・ 事前に身の回りの人か地域のお年寄りかを決めておき、住所録等の準備をしておく。 （施設職員と事前に打ち合わせをする。）	
2 手紙の書き方を学習する。			・ 手紙の正しい書き方を指導する。	
3 手紙を書く。			・ 感謝や思いやりの気持ちをもって書かせる。 ・ 自然学校の様子を中心に書かせる。	
4 手紙を投函する。			・ 施設のポストを利用する。 ・ 地元のお年寄りに出す場合は、活動の趣旨を十分理解していただく。	
安全指導のポイント				

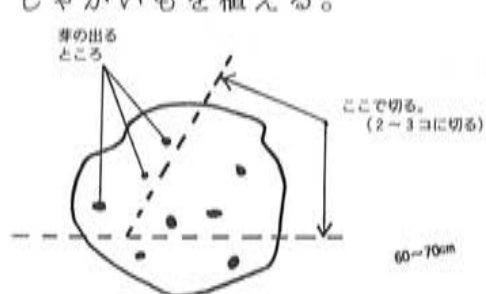
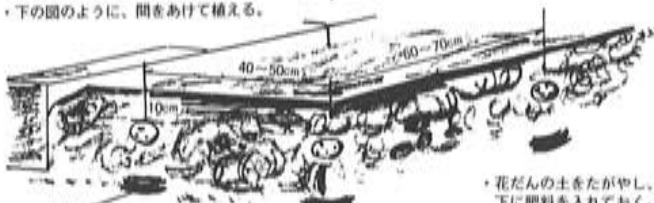
10	みんな友だち（障害児との交流）			
ね	・ 人間関係を深め、福祉の心を育てる。			
ら				
い				
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	2 時間～1 日	活 動	学校訪問	
時 間 帯	日 中	場 所	生活棟	
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
			施設へ注文	学校（個人）持参
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 対面式をする。			・ 事前に交流の日時、場所、内容を打ち合わせる。	
2 グループごとに話をする。			・ 事前に福祉についての理解を深めさせる。	
3 一緒にゲームをしたり、歌を歌ったりする。			・ みんなができるゲームをとり上げる。	
4 感想を発表する。				
安全指導のポイント				

11	グループ自主活動			
ね ら い	- 協力、協働の心や態度を養う。 - 自主性や創意工夫する態度を養う。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	2 時間～半日	活 動	敷地内	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
敷地内地図			施設へ注文	学校（個人）持参
				筆記用具 活動内容記入用紙
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 グループごとに活動内容を決め計画を立てる。			- 指導者は、各グループの活動内容や場所を把握する。 - 活動内容について、それぞれ注意事項を徹底させる。	
2 計画にしたがって活動を開始する。			リーダーシップとともに、メンバーシップを養わせる。	
3 感想をまとめ話し合う。				
安全指導のポイント		- 安全についての指導を徹底する。 - 活動内容や場所の把握をする。 - 計画に従って行動させる。 - 草むらなどに入る場合は長袖、長ズボン、帽子を着用させる。		

III 地域とのふれあい活動

A 地域に学ぶ



1	農業体験				
ね	・ 農業体験を通して、みんなと力を合わせて働く喜びや勤労の尊さを学ぶ。				
ら					
い					
時 期	通 年		人 数	制限なし	
時 間	半 日		活 動	体験農園	
時 間 帯	日 中		場 所		
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
農作業道具 長靴				施設へ注文	学校（個人）持参
				たねいも 枝豆の種 大根の種	軍手 帽子 タオル
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 畑を耕す。				- くわの正しい使い方、うねの作り方の指導をする。 - くわを高く振り回さないようにさせる。 - 大きなたねいもは、2～3に切って植えさせる。 10cmの深さのところに植えさせる。 - いもといもとの間隔を40～50cmあけさせる。 - 使った道具は、きれいに洗って返させる。	
2 ジャガイモの植え方の説明を聞く。					
3 ジャガイモを植える。					
  ・花だんの土きたがやし、下に肥料を入れておく。					
安全指導のポイント				鎌、くわ、包丁等の使い方に注意させる。	

Ⅲ 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

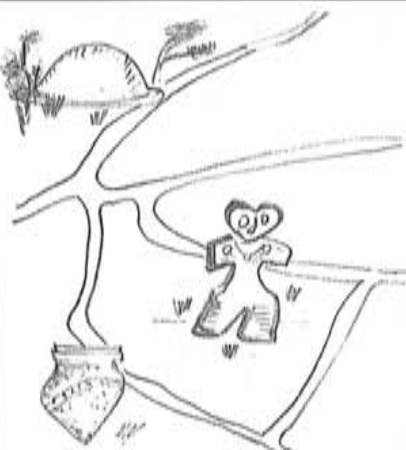
2	但馬の言葉（方言学習）			
ね ら い	- 方言と共通語を比べて、言語への興味関心を高める。 - 言語の由来を考え、地域の生活への理解を深める。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	2 時間～半日	活 動	地域の民家 生活棟 自然観察館	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
テープレコーダー カセットテープ 但馬の方言に関する資料 訪問する家の地図			施設へ注文	学校（個人）持参
				筆記用具 ノート
活 動 内 容			留 意 事 項	
（民家訪問の場合） 1 民家を訪ねて、地域の人々と懇談する。 2 話をしている中で、わからない言葉をメモする。 3 メモしたこと以外の方言について教えてもらう。 4 方言を使いながら話をする。			- 民家を訪問するためのマナーについて事前に指導する。 - 懇談する内容についてあらかじめ考えさせておく。 （施設職員と事前に打ち合わせをする。） - メモしたことを質問し、共通語に直させる。 - 自分の住んでいる所の言葉とも比較させる。	
安全指導のポイント			交通安全に気をつけさせる。	

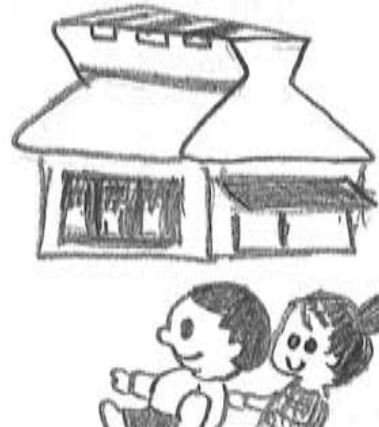
3	地域の昔の話			
ね ら い	・ 地域の人々とのふれあいを深めるとともに、昔の生活と現在の生活を比べ、自分の生活を振り返る。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 ～ 2 時間	活 動	自然観察館	
時 間 帯	フ リ ー	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
マイク ホワイボード			施設へ注文	学校（個人）持参
				筆記用具 ノート
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 講師の紹介を聞く。			・ 児童に司会進行させる。	
2 昔の学校の様子を聞く。			・ 現在の学校と比べながら話を聞かせる。	
3 昔の生活の様子を聞く。			・ 生活の違いが出て来た理由など考えさせる。	
4 昔の遊びの様子を聞く。			・ 話だけでなく、遊びを教えてもらったりする方がよい。	
5 お礼を言う。			・ 児童代表にさせる。	
安全指導の ポ イ ン ト				

4	但馬の民話			
ね ら い	- 地域の文化や歴史への理解を深める。 - 民話を通して、伝承文学への興味関心を高める。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	1 ～ 2 時間	活 動	自然観察館	
時 間 帯	フリー	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
マイク ホワイボード			施設へ注文	学校（個人）持参
				筆記用具 ノート
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 講師の紹介を聞く。			- 話の聞き方を指導する。 - 学校に帰ってからの発展学習とすることもできる。	
2 民話を聞く。				
3 方言などわかりにくい言葉について質問をする。				
4 感想を話し合う。				
5 但馬地方の方言を使って、民話を創作する。				
安全指導の ポイント				

Ⅲ 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

5	古墳オリエンテーリング			
ね ら い	・ 古墳から昔の人々の生活を探り、歴史への興味関心を高める。 ・ 地図と磁石をたよりに古墳を探すことにより判断力を養うとともに、友だちと協力することの大切さを知る。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半日～1日	活 動	施設周辺	
時間帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
地図 コンパス 地図入れ トランシーバー 無線機 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
				筆記用具 帽子 タオル
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 地図の見方やコンパスの使い方を学習する。			・ 地図の見方、コンパスの使い方を徹底して指導する。	
2 ルールの説明を聞く。			・ 個人の所有地内を通ったりするときの注意をする。	
3 コースを決める。			・ 何通りかのコースを作っておく。	
4 オリエンテーリングに出発する。			・ グループごとに出発させる。 ・ ポイントで指導する。	
5 成績発表を聞く。				
安全指導のポイント		・ 交通安全に気をつけさせる。		

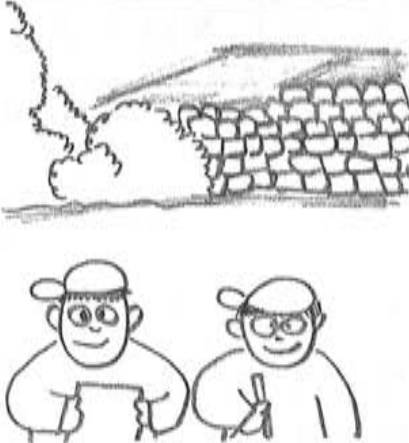
6	民家を訪ねて				
ね ら い	・ 地域の人々とのふれあいを深める。 ・ 農家の生活と都会の生活を比べさせ、地域による生活文化の違いに気づく。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	地域の民家		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
自転車 ヘルメット テープレコーダー 民家の地図 救急バッグ				施設へ注文	学校（個人）持参
					筆記用具 ノート カセットテープ
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 民家でどのような話を聞くか相談する。				・ 何のために民家を訪問するのか課題を明確にさせる。 (施設職員と事前に打ち合わせをする。)	
2 民家を訪問して話を聞く。				・ 家を訪問するときのマナーや話の聞き方などについて指導する。 ・ 帰るとき、お礼を丁寧に言って帰らせる。	
3 各グループごとに感想をまとめ発表する。				・ 自分たちの生活と比べて違っているところなどをまとめさせる。 ・ 印象に残ったことや地域の人々とふれあった感想などをまとめさせる。	
安全指導のポイント		・ 交通安全に気をつけさせる。			

A 地域に学ぶ

III 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

8	竹田城跡早朝ハイキング			
ね ら い	・ 自然の美しさにふれる。 ・ 歴史への興味関心を高める。 ・ 体力づくりとやりとげる心を育てる。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	竹田城跡	
時 間 帯	早 朝	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
トランシーバー 無線機 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
			弁当	水筒 敷物 ナップサック
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 施設を出発する。			・ 健康観察をする。 ・ 交通安全に注意させる。 ・ 文化財の保護について話をする。	
2 竹田城跡で雲海や日の出を見る。			・ 自然の美しさに十分ふれさせる。 ・ 竹田城について話を聞かせる。 ・ 9月や10月には雲海が見られる。	
3 朝食を食べる。			・ ゴミはすべて持ち帰らせる。	
4 施設に帰る。			・ 交通安全に注意させる。	
安全指導の ポイント		・ 健康観察を十分にする。 ・ 交通安全に気をつけさせる。 ・ 帰った後は、十分休養させる。		

9	竹田城跡探偵団			
ね	・ 歴史への興味関心を高める。 ・ 調査活動を通して探求心を養う。			
ら				
い				
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半日～1日	活 動	竹田城跡	
時 間 帯	日 中	場 所	竹田地区	
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
竹田城跡地図 竹田散策図 バインダー テープレコーダー トランシーバー 無線機 探偵課題表 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
			弁当（1日の場合）	絵の具 筆記用具 水筒 ナップサック 模造紙 画用紙 マジック
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 グループごとに探偵課題やコースを決める。 ・ 竹田城を作った人、年代 ・ 城の造り、城の役割 ・ 竹田城と関連の深いお寺 ・ 竹田地域の家の造り 等			・ 課題を決めることが難しいときは、課題を教師が示す。	
2 調査する。			・ 文化財保護に留意させる。 ・ 地区の人に話を聞いたり、説明板を見たりしながら調べさせる。 ・ 交通安全に注意させる。	
3 調査したことをまとめる。			・ 施設に帰ってからまとめさせる。	
4 発表会をする。			・ ポイントをしぼって発表させる。	
安全指導のポイント		・ 交通安全に気をつけさせる。 ・ 登山道の歩き方を指導する。 ・ 石垣から落ちないように十分指導する。		

III 地域とのふれあい

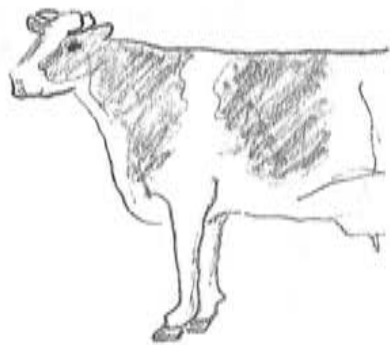
A 地域に学ぶ

10	竹田城跡ナイトハイク			
ね ら い	・ 歴史への興味関心を高める。 ・ 夜の魅力的な自然を楽しむ。 ・ 友だちの大切さに気づき、連帯感を養う。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	4 時間	活 動	竹田城跡	
時 間 帯	夜	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
トランシーバー 無線機 星座盤 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
				懐中電燈
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 コースを確認する。			・ 健康観察をする。 ・ コースマップを配り、注意事項を徹底する。 ・ グループで行動させる。	
2 城跡までのナイトハイクに出発する。			・ ウォークラリーのように課題をもって実施させる。	
3 城跡で星空を楽しむ。			・ 歌を歌ったり、自然学校のことを話合ったりさせる。 ・ 竹田城があったころのことを想像させるのもおもしろい。	
4 下山する。			・ 交通安全に気をつけさせる。	
安全指導の ポイント	・ 危険箇所、迷いやすい場所のチェックと立ち番をする。 ・ 交通安全に気をつけさせる。 ・ 石垣が高いので、ふざけたりしないように指導する。 ・ 翌日はゆっくり休養をとらせる。			

III 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

11	農業学習（県立北部農業技術センター）			
ね	・ 農業の研究にたずさわる人々の苦勞や喜びを知り、農業への理解を深める。			
ら				
い				
時 期	春 夏 秋	人 数	制限なし	
時 間	1 日	活 動	県立北部農業技術センター	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
自転車 ヘルメット ハンドマイク トランシーバー 無線機 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
			弁当	水筒 タオル 帽子 筆記用具 ノート ナップサック
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 県立北部農業技術センターへ出発する。 ・ 片道、約6.5 km			・ 健康観察をする。 ・ 交通安全に注意させる。	
2 県立北部農業技術センター内で 見学したり体験したりする。			・ 体験の内容については、施設とよく 相談する。	
3 質問したり、感想を発表したり する。			・ 質問事項をまとめさせておくとよい。 ・ まとめは施設に帰ってからさせる。	
4 施設に帰る。			・ お礼をきちんと言って帰らせる。 ・ 交通安全に注意させる。	
安全指導の ポイント		・ 交通安全に注意させる。 ・ 帰った後、休養を十分とらせる。		

12	牛の見学				
ね ら い	・ 地域の人々とのふれあいを通して、地域の生活への理解を深める。 ・ 動物愛護の心を育てる。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	2 時間～半日	活 動	施設周辺 県立北部農業 技術センター		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの		
自転車 ヘルメット 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参	
				帽子 タオル ノート 筆記用具 水筒 ナップサック	
活 動 内 容			留 意 事 項		
1 牛を飼っている農家を訪問する。			・ 自転車で移動の場合は、交通安全に注意させる。 （施設職員と事前に打ち合わせをする。）		
2 牛を飼う苦勞や喜びなどについて話を聞く。			・ 話の聞き方についてよく指導する。		
3 牛の世話をする。			・ 牛の角や足の動きに注意させる。 ・ 牛をびっくりさせたり、からかったりしないように注意させる。		
4 質問したり、感想を発表したりする。			・ 見学して学んだことをノートにまとめさせる。（まとめは施設に帰ってからでもよい。）		
5 施設に帰る。			・ お礼をきちんと行って帰らせる。		
安全指導のポイント		・ 牛をからかったりしないよう指導する。 ・ 自転車を使う場合は、交通安全指導を徹底する。			

Ⅲ 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

13	名人入門			
ね	・ 名人の苦労話を聞いたり、体験したりすることによって、自己の生き方を考える機会とする。 ・ 地域の人々とのふれあいを深める。			
ら				
い				
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半日～1日	活 動	自然観察館	
時 間 帯	日 中	場 所	民家	
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
民家の地図 インスタントカメラ			施設へ注文	学校（個人）持参
			弁当	水筒 帽子 筆記用具 ナップサック 軍手
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 どこにどのような名人がいるか説明を聞く。 2 どの名人に入門するか決める。 3 名人に会いに行き、話を聞いたり、体験したりする。 4 報告会をする。			・ 地図を配布し、説明をする。 （施設職員と事前に打ち合わせをする。） ・ 子どもたちの興味や関心を大切にしながら、グループの人数を調整する。 ・ 名人の苦労や工夫について予想させ、質問したいことをまとめさせる。 ・ 行き帰りの安全確保と活動に対する助言のため、グループごとに必ず指導者を配置する。 ・ 帰ってからの報告会のため、メモを取るなど工夫させる。 ・ 感動したこと、気づいたことを報告させる。 ・ お礼の手紙を書かせる。	
安全指導のポイント		・ 交通安全指導を徹底する。 ・ 体験内容により危険なことに対して十分指導する。		

Ⅲ 地域とのふれあい

A 地域に学ぶ

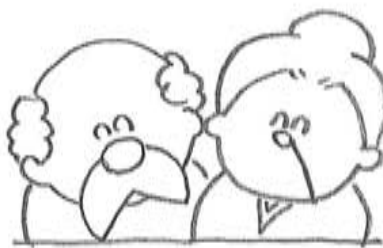
14	ふるさと料理			
ね ら い	- 地域の食文化を知る。 - 地域の人々とのふれあいを深める。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	野外キッチン	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
野外炊飯道具 ガスコンロ			施設へ注文	学校（個人）持参
			食事材料 ガスボンベ まき	
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 地域の伝統料理にまつわる話を聞く。			どうしてその料理が、地域で作られるようになったかをしっかり聞かせる。	
2 料理を作る。			- 山菜を使った料理の場合は、山菜を採取させる。 - 山菜が採取できない時期は、購入する。 - 包丁の使い方、火傷などに注意させる。	
3 食べる。			- 地域の伝統料理を味わわせる。 - 料理と伝統文化の関係について考えさせる。	
安全指導のポイント		- 包丁の使い方や火傷等に注意させる。 - 山菜を採りに行く場合は、ハチやマムシなどに注意させる。		

B 地域に親しむ



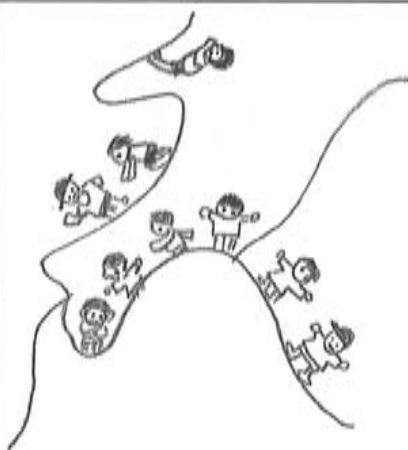
Ⅲ 地域とのふれあい

B 地域に親しむ

1	ゲートボール交流			
ね ら い	・ お年寄りと一緒に楽しくゲームすることで高齢者の人柄にふれ、思いやりの心や温かく接する態度を育てる。			
時 期	通 年	人 数	60名	
時 間	半 日	活 動	森のスポーツ 広場	
時 間 帯	日 中	場 所	大屋根広場	
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
ゲートボール用具 ラインカー 巻き尺			施設へ注文	学校（個人）持参
				帽子 タオル
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 児童代表あいさつ。			・ 実技をしながら説明した方がわかりやすい。 ・ 児童単独チーム お年寄り単独チーム、混合チームなどいろいろ工夫させる。 ・ お年寄りから指導を受ける。 ・ すばらしいプレーには拍手をおくらせる。 ・ 指導を受けたりしながら、ふれあわせる。 ・ ゲートボールのことなどについて質問したりして楽しく過ごさせる。	
2 ゲートボールのルール説明を受ける。				
3 グループを決める。				
4 練習をする。				
5 ゲートボール大会をする。				
6 成績を発表する。				
7 茶話会する。				
安全指導の ポイント	・ スティックを振り回すなど、危険のないように注意させる。			

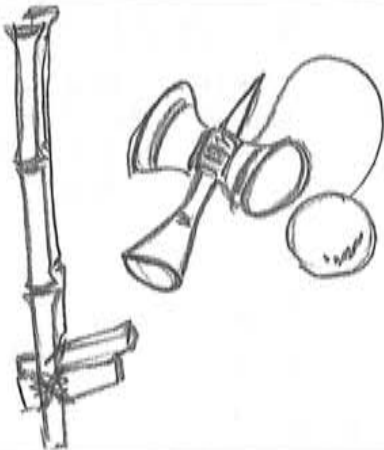
Ⅲ 地域とのふれあい

B 地域に親しむ

2	ウォークラリー			
ね ら い	- 判断力を養い、協力の大切さを学ぶ。 - 地域の生活や文化への関心を高め、人とのふれあいを深める。 - 時と場に応じて、礼儀正しく真心をもって接する態度を養う。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半日～1日	活 動	施設周辺 自然観察路	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
ウォークラリー用地図 地図入れ トランシーバー 無線機 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
				帽子 タオル 水筒
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 ウォークラリーの方法についての説明を聞く。			- 健康観察をする。 - グループでそろって行動するようにさせる。 - 事前に下見をして、危険な箇所がないかチェックする。 - 何を学ばせるかねらいをはっきりさせ、子どもたちが興味をもって取り組めるものにする。	
2 コースを歩く。			- 課題解決をさせる。 - 分岐点には標識などの目印を設置する。 - ポイントで指導をする。 - 交通安全に気をつけさせる。	
安全指導のポイント		- 交通安全に注意する。 - 危険箇所のチェックをし、指導をする。 - 健康観察をする。		

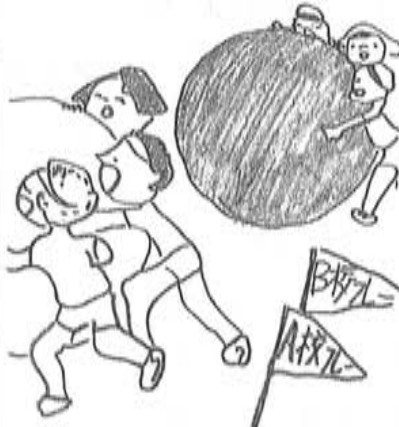
Ⅲ 地域とのふれあい

B 地域に親しむ

3	昔の遊び			
ね	・ 地域の人に昔の遊びを教えてもらうことにより、地域の人々とふれあいを深める。 ・ 昔の遊びの楽しさを知ることにより、自分たちの遊びを見直す。 ・ 誰に対しても思いやりの心をもって接したり、行動したりする態度を養う。			
ら				
い				
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半 日	活 動	生活棟	
時 間 帯	日 中	場 所	大屋根広場 芝生広場	
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
竹馬 けん玉 ピー玉 お手玉 等			施設へ注文	学校（個人）持参
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 遊び方について話を聞く。			・ 遊び方、ルールなどについて説明を聞く。	
2 グループ編成をする。			・ 遊びに適したグループの人数にする。	
3 遊びの準備をする。			・ 場所を考えて道具の準備をさせる。	
4 遊ぶ。			・ グループごとに遊ばせる。	
5 他の遊びをする。			・ 時間を決めてローテーションさせる。	
安全指導のポイント		・ 竹馬に乗る場合、ふざけないようにさせる。		

Ⅲ 地域とのふれあい

B 地域に親しむ

4	地元の学校との交流				
ね ら い	・ 集団への所属感、連帯感を深め、望ましい人間関係を養う。 ・ 地元の小学校や保育所の児童、園児との交流を通して、友情を深める。				
	時 期	通 年	人 数		制限なし
	時 間	2 時間～半日	活 動		地元小学校 保育所
	時 間 帯	日 中	場 所		敷地内
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
ドッジボール パレーボール 長縄など				施設へ注文	学校（個人）持参
					交流に必要なもの
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 対面式をする。 2 交流活動について説明する。 3 交流する。 4 お別れの式をする。				あらかじめ児童代表による打ち合わせの機会をもつとよい。 ・ 学校紹介等をさせる。 ・ 遊びの説明をしたり、グループ分けをしたりする。 ・ 学校ごとのグループや混合グループなどいろいろ工夫させる。 ・ 楽しくふれあいをさせる。 ・ 感想などを発表させる。	
安全指導のポイント		・ 学校や保育所を訪問する場合は、交通安全指導を徹底する。			

III 地域とのふれあい

B 地域に親しむ

5	交流映画会				
ね ら い	- 優れた映画を鑑賞することにより、感動する心を養う。 - 係の仕事など、自分の役割を責任をもって果たす態度を養う。 - 地域の人々とのふれあいを深める。				
	時 期	通 年	人 数		制限なし
	時 間	2 時間	活 動		自然観察館
	時 間 帯	フ リ ー	場 所		
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
映写機 スクリーン 映画フィルム				施設へ注文	
				学校（個人）持参 映画フィルム	
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 会場作りをする。				それぞれの仕事を責任をもって果たさせる。	
2 招待者との交流会をもつ。				歓迎の言葉、学校紹介などをさせる。	
3 映画を鑑賞する。				映画鑑賞のマナーを指導する。	
4 感想を話し合う。				映画のこと、地域の方々とのふれあいのことなどについて発表させる。	
5 お礼の言葉を言う。				児童代表に言わせる。	
6 後かたづけをする。				みんなで力を合わせて、手早くかたづけさせる。	
安全指導の ポ イ ン ト					

Ⅲ 地域とのふれあい

B 地域に親しむ

6	買い物（食事材料の買い出し）			
ね ら い	- 自分たちの力で買い物をすることにより、金銭感覚や自主的、実践的な態度を養う。 - 自分の役割を責任をもって果たす態度を養う。 - 地域の人々とのふれあいを深める。			
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	3 時間	活 動	スーパーなど	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
自転車 ヘルメット トランシーバー 無線機 救急バッグ			施設へ注文	学校（個人）持参
				お金 買い物材料表 ナップサック
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 買い物の仕方について説明を聞く。			- 店の場所、品物等の下調べを事前にする。 - 事前に商店に連絡をしておく。	
2 買い物の相談をする。			品物、金額、係分担などについて相談させる。	
3 買い物をする。			- 交通安全に気をつけさせる。 - 他のお客さんに迷惑にならないように買い物をさせる。	
4 買い物の報告をする。				
安全指導のポイント		交通安全に気をつけさせる。		

III 地域とのふれあい

B 地域に親しむ

7	いろいろカルタ				
ね	・ 友だちとの心のつながりを深める。 ・ 地域の生活や文化について興味関心を高める。				
ら	時 期	通 年	人 数		
い	時 間	1 時間	活 動		
	時 間 帯	日 中	場 所	制限なし	
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
朝来町カルタ 兵庫県カルタ（草木、野鳥） 昆虫カルタ				施設へ注文	学校（個人）持参
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 カルタ大会のルールの説明を聞く。				- 読む係、得点係など係分担を考えさせる。 - 個人戦やグループ対抗戦などをさせる。 - 自分たちの地域のカルタづくりに発展させる。	
2 カルタ大会をする。					
安全指導のポイント					

C 地域に奉仕する



Ⅲ 地域とのふれあい

C 地域に奉仕する

1	缶トリー遠足				
ね ら い	・ みんなと協力して缶拾いをしながら、奉仕の喜びや尊さを体験する。				
時 期	通 年	人 数	制限なし		
時 間	半 日	活 動	施設周辺地域		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
計量器 一輪車 リヤカー かなばさみ 町内の地図 トランシーバー 無線機				施設へ注文	学校（個人）持参
					軍手 タオル 帽子 ゴミ袋
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 活動の意義や方法についての説明を聞く。				・ 道路以外にも目を向けさせるが、私有地には無断で入らないようにさせる。	
2 各グループごとに、缶拾いをする。				・ 缶の計量は行ってもよいが、競争意識をあおらないように注意させる。	
3 缶の計量をする。				・ 交通安全に注意させる。	
4 集めた缶の多さを見ながら、感想を話し合う。				・ 草地にあるものは、かなばさみで拾わせる。	
				・ 軍手を着用させる。	
				・ アルミ缶とスチール缶、ビン類を仕分けさせる。	
安全指導のポイント		・ 交通安全について指導を徹底する。 ・ 草むらに手を入れないように注意させる。 ・ 必ず軍手をつけさせる。			

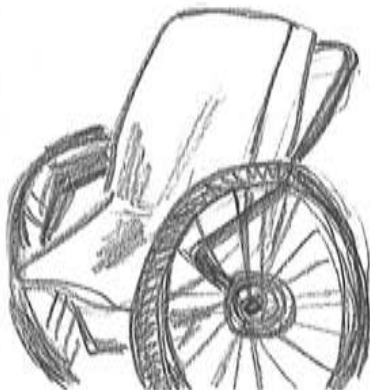
Ⅲ 地域とのふれあい

C 地域に奉仕する

2	草刈り				
ね	・ みんなと力を合わせて施設内や施設周辺の草刈りを行い、奉仕の喜びや尊さを体験する。				
ら					
い					
時 期	春 夏 秋	人 数	制限なし		
時 間	2 時間	活 動	敷地内外		
時 間 帯	日 中	場 所			
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの		
鎌 熊手 一輪車 リヤカー ほうき ちりとり 長靴 救急バッグ			施設へ注文		学校（個人）持参
			軍手 帽子 タオル		
活 動 内 容			留 意 事 項		
1 草刈りの場所や方法について説明を聞く。			・ グループごとに場所を設定する。 ・ 鎌の使い方の指導をする。		
2 グループに分かれてやり方について相談をする。			・ 草刈りの区分や役割について話し合わせる。		
3 草刈りをする。			・ みんなで協力して、草刈りをさせる。		
4 後かたづけをする。			・ 刈った草の処理の仕方を確認する。 ・ 道具の点検をさせる。		
5 感想を話し合う。					
安全指導のポイント		・ 鎌の使い方を指導する。 ・ 軍手、長靴を使用させる。 ・ ハチやマムシなどに気をつけさせる。			

Ⅲ 地域とのふれあい

C 地域に奉仕する

3	福祉体験活動（恵生園、真生園、平生園）			
ね	・ 誰に対しても思いやりの心を持ち、共に生きる社会づくりをめざした福祉の心を育てる。			
ら				
い				
時 期	通 年	人 数	制限なし	
時 間	半日～1日	活 動	恵生園 真生園 平生園	
時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの			利用者が準備するもの	
			施設へ注文	学校（個人）持参
			弁当（1日の場合）	雑巾
活 動 内 容			留 意 事 項	
1 施設の意義や働いている人たちの話を聞く。			あらかじめ園の関係者と十分打ち合わせをする。	
2 施設の人たちと話をする。			・ 福祉について日頃から耕しをしておくことが大切である。	
3 車椅子などの体験をする。			・ 事前に話の内容などを考えさせておくことよい。	
4 授産体験をする。 ・ はがきづくり ・ あみもの ・ しょうゆ入れ切り ・ 竹細工 等			・ 施設内の行動は静かにさせ、遊び半分にならないようにさせる。	
5 奉仕活動をする。 清掃等			・ グループに分かれて体験させる。	
6 職員に質問をしたり、感想を話し合う。				
安全指導のポイント		・ 施設内であばれないようにさせる。		

Ⅲ 地域とのふれあい

C 地域に奉仕する

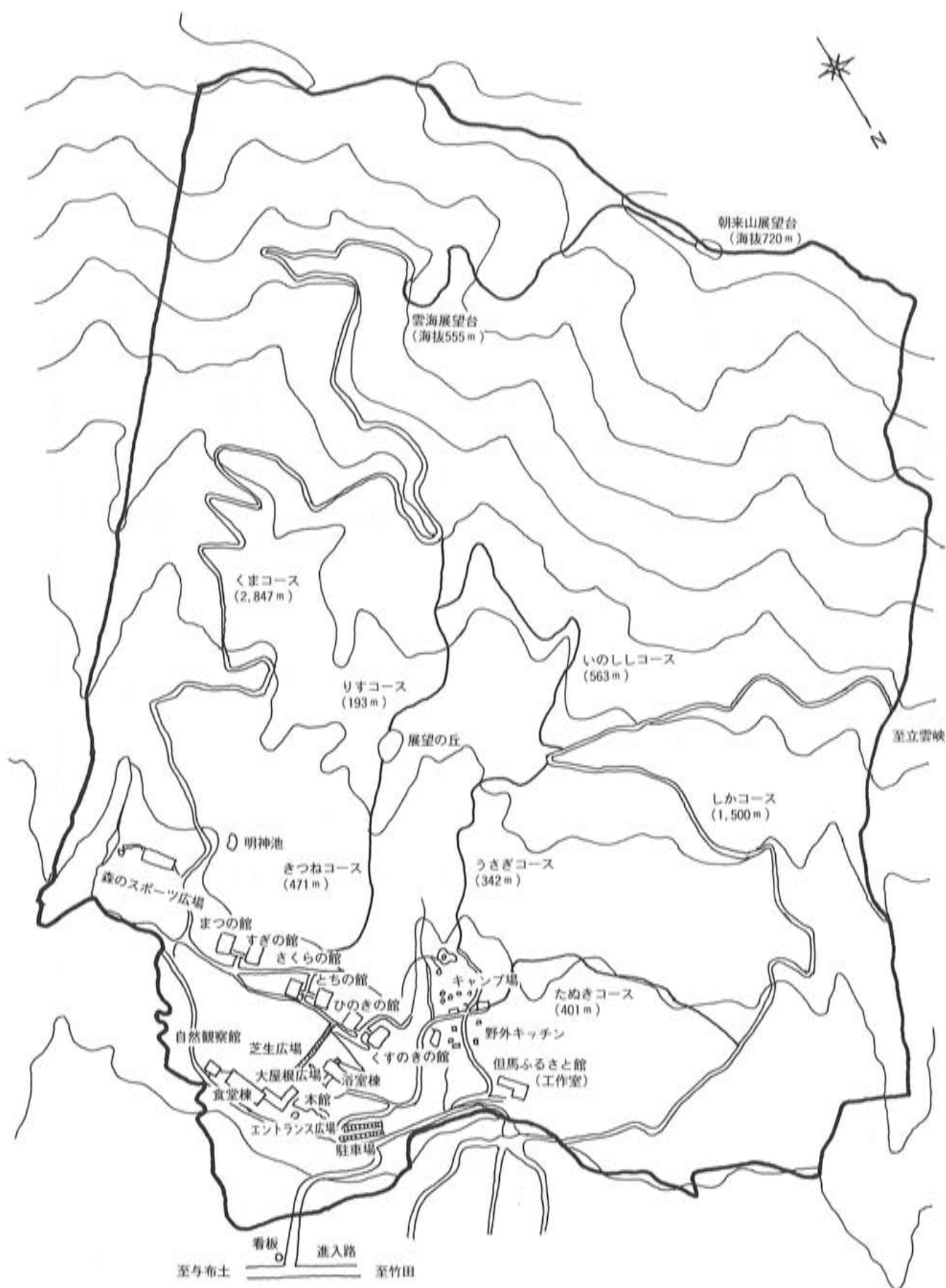
4	招待交流会（地域の人）				
ね	・ 所属する集団への所属感、連帯感を深め、望ましい人間関係を養う。 ・ 地域の人々を感謝の心で招待し、ふれあいを深める。				
ら					
い					
時 期	春 夏 秋	人 数	制限なし		
時 間	1 日	活 動	大屋根広場		
時 間 帯	日 中	場 所	野外キッチン		
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
野外炊飯道具 自転車 ヘルメット				施設へ注文	学校（個人）持参
				食事材料 お皿（紙のお皿）	買い物券 お金（買い物を する場合） ナップ（買 い物を する場合） ゴミ袋
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 模擬店を開く相談をする。				・ グループごとに作るもの、材料、係分担などを相談させる。 ・ 手を加えたものを出すようにさせる。 ・ 食堂にあらかじめ注文し、材料をそろえることもできる。	
2 会場づくりなどの準備をする。				・ 買い物に自転車を使用する場合は交通安全に注意させる。	
3 食事を作る。				・ 火、刃物等の取り扱いには注意させる。 ・ 調理はよく加熱させる。	
4 店を開いて食事をする。				・ 買い物券を発行したりする。 ・ 強引な客引きをしたりしないよう、売る側のマナーを指導する。 ・ 品物を売ったり、食べたりしながら地域の人々とのふれあいを深めさせる。	
5 後かたづけをする。				・ みんなで協力してさせる。 ・ 道具をきちんとそろえて返させる。	
安全指導の ポイント		・ 交通安全指導を徹底する。 ・ 火や刃物の使い方に注意させる。 ・ 食物はよく加熱し、食中毒予防の指導をする。			

III 地域とのふれあい

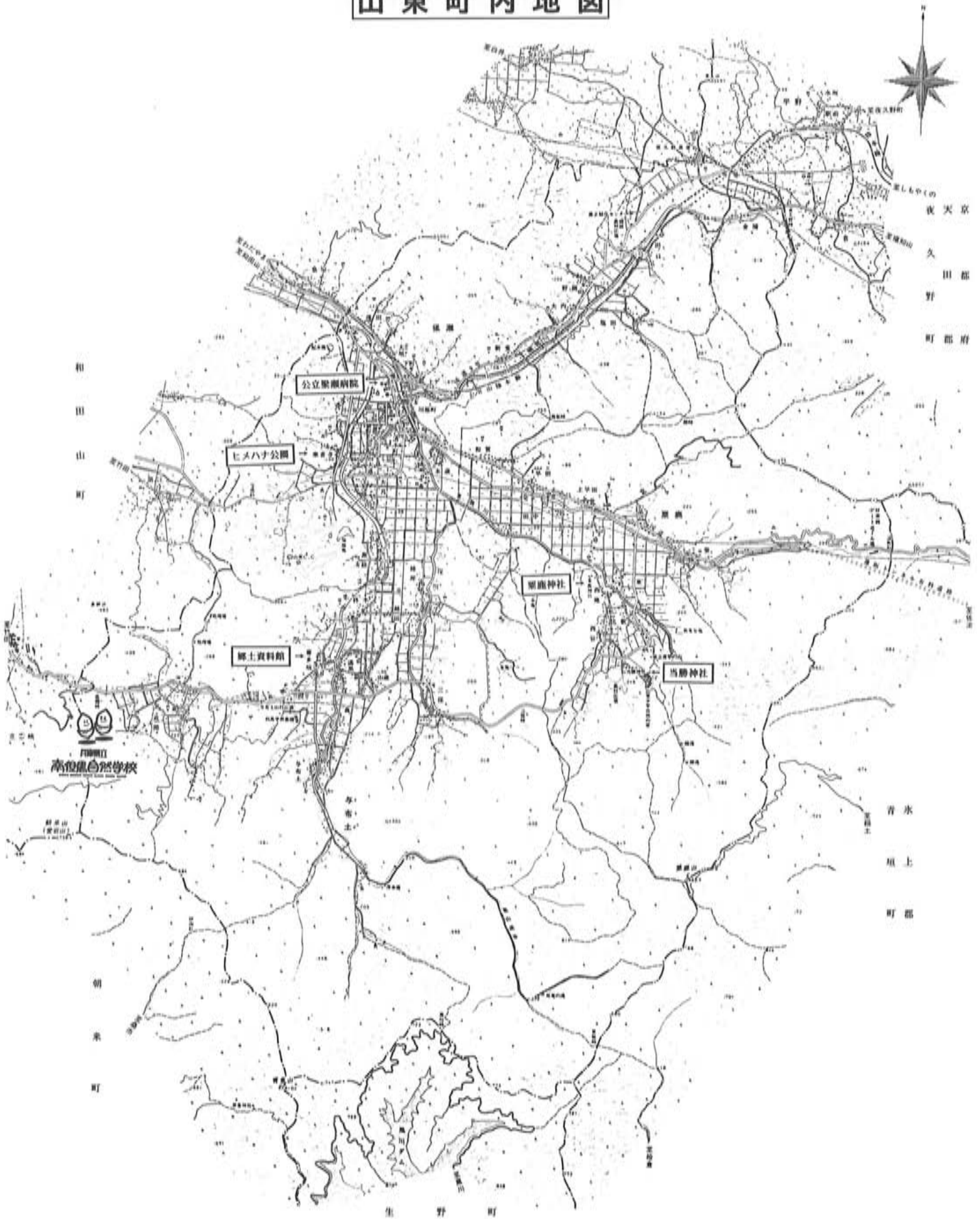
C 地域に奉仕する

5	登山道づくり				
ね	・ みんなで力をあわせて登山道づくりをすることにより、自然学校をより思い出深いものにする。 ・ 自然や環境に対して興味関心を高める。 ・ 後輩に残していく思いやりの心を育てる。				
ら	時 期	春 夏 秋	人 数		制限なし
い	時 間	半 日	活 動		朝来山
	時 間 帯	日 中	場 所		
施設で借りられるもの				利用者が準備するもの	
スコップ つるはし コッパ 鎌 なた のこ 長靴 救急バッグ				施設へ注文	学校（個人）持参
					軍手 タオル 帽子 水筒 長袖シャツ 長ズボン
活 動 内 容				留 意 事 項	
1 登山道づくりの意義を聞く。				・ 事前に職員と相談して、作業場所や作業内容、作業量などを決定する。	
2 現場まで行く。				・ 道具を持ち運ぶ場合は注意をさせる。	
3 グループに分かれて道を作る。				・ 自然の状況を変えることは最小限度にさせる。 ・ 道具の使い方に注意させる。	
4 下山する。				・ 道具を忘れないようにする。 ・ 道具の持ち運びに気をつけさせる。	
5 感想を話し合う。					
安全指導のポイント		・ 道具の使い方を指導する。 ・ 長袖、長ズボン、軍手を着用させ、長靴を使用させる。			

南但馬自然学校敷地内地図



山東町内地図



和田山町内地図



養父郡養父町

朝来郡山崎町

朝来郡朝来町

但馬地域地図



南但馬自然学校からの所要時間（バス利用）

	施 設 名	所要時間		施 設 名	所要時間
1	兵庫県立林業試験場緑化センター (山東町)	20分	13	玄武洞(豊岡市)	1時間15分
2	和田山町立郷土歴史館(和田山町)	20分	14	植村直己冒険館(日高町)	1時間
3	県立北部農業技術センター (和田山町)	10分	15	神鍋高原(日高町)	1時間15分
4	室尾森林自然公園(和田山町)	25分	16	竹野海岸(竹野町)	1時間50分
5	多々良木ダム(朝来町)	20分	17	香住海岸、海中公園(香住町)	2時間
6	神子畑選鉱跡(朝来町)	30分	18	鉢伏高原(関宮町)	1時間15分
7	生野銀山(生野町)	35分	19	兎和野高原野外教育センター 木の殿堂(村岡町)	1時間20分
8	奥米地ほたるの里(養父町)	40分	20	湯村温泉(温泉町)	1時間50分
9	古代体験村(養父町)	50分	21	但馬牧場公園(温泉町)	2時間10分
10	剣が丘公園(八鹿町)	40分	22	浜坂海岸(浜坂町)	2時間10分
11	あけのべ鉱山跡(大屋町)	1時間15分	23	峰山高原簡易保険総合レクセンター (大河内町)	55分
12	円山川公苑(豊岡市)	1時間30分	24	加美町立杉原紙研究所(加美町)	1時間10分

参考文献

- | | |
|--------------------|----------------|
| ・ 楽しい野外活動 | 神戸市総合教育センター編 |
| ・ いきいき生活科イン妙高 | 国立妙高自然の家編 |
| ・ 環境教育ハンドブック | 全国小中学校環境教育研究会編 |
| ・ キャンプテキスト | 日本野外教育研究会編 |
| ・ キャンプ指導のてびき | 日本キャンプ協会 |
| ・ 野外活動マニュアル | 日本野外活動団体協議会編 |
| ・ 子どもとはじめる自然冒険図鑑 | 岩波書店 |
| 野遊び図鑑をつくる | 山本 賢司著 |
| 森と遊ぶ | 稲本 正著 |
| 日本の川遊び | 大塚 高雄著 |
| ・ みんなの理科 5 年上 6 年上 | 学研 |
| ・ 中学理科 2 分野上 | 啓林館 |
| ・ せいかつ 2 | 光村図書 |
| ・ 足跡図鑑 | 日経サイエンス社 |
| ・ 自然学校のしおり | 和田山町教育委員会 |
| ・ 自然に学ぶ | 兵庫県教育委員会編 |
| ・ 野外探検大図鑑 | 小学館 |
| ・ 原始生活百科 | 創和出版 |

活動の手引き

平成7年3月発行

発 行 兵庫県立南但馬自然学校
〒669-51
兵庫県朝来郡山東町迫間字原189
TEL 0796-76-4731

印 刷 岩見印刷株式会社
〒669-53
兵庫県城崎郡日高町土居67-1
TEL 0796-42-1200(代)



兵庫県立

南但黒自然学校

SHIRAKAWA KINOKI NANTO KURO SHINSEI GAKKO

6 教 ① 1-049 A 4